

		作業療法学科 夜間部			
科目	統計学	単位	1	コマ数	12
担当講師	河邊 宗知	学 年	1年生		
資格	作業療法士/公認心理師				

科目概要	現在、医療・リハビリテーションにおいては、EBM・EBOT（根拠に基づく医療・根拠に基づく作業療法）がますます重要視されるようになっており、その手法として、統計が用いられる。いままでも統計に触れたことのない学生にも、基本的事項の確認を行ったうえで、医療・リハビリテーション分野の事例を用いながら、統計ツールを用いて検定をはじめとする処理ができるようになることを目指す				
学習の留意点	統計処理はR コマンドを用いて行うため、個人用のPC、USBメモリーを持参していただきたい。（USBメモリーには、事前に行っていたサイトからRコマンドをダウンロードしておくことを期待する） 授業内で実際にテストデータを用いて簡単な統計処理を行い、課題を提出してもらうことになるため、能動的な参加が求められる。 また近年、作業療法士国家試験において、統計に関する出題みられるようになってきているため、資格取得のためにも、基本的知識と検定について理解しておくことが必要である。				
到達目標	<p>一般目標（G10）</p> <p>統計についての基本的な考えを身に着け、統計ソフトを用いて基本的な検定を行うことができる。</p> <p>行動目標（SBO）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統計学の基本的事項（記述統計と推測統計、尺度、代表値、仮説検定等）について説明できる</li> <li>2. 医療、リハビリテーションにおける、統計学の位置づけ、必要性について説明できる</li> <li>3. 統計ツールの基本的操作および統計ツールを用いて、基本的な統計処理を行うことができる</li> <li>4. 結果について説明ができる</li> </ol>				
授業形態	講義/演習		対面		
関連科目					

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	統計学の概要	統計学の基礎用語・概念を説明できる。Excelの分析ツールとRについて理解する。
2回	データの特性	尺度（データの種類について）、代表値、分散と範囲 ヒストグラムと箱ひげ図について説明できる
3回	記述統計と推測統計	記述統計と推測統計 母集団と標本 検定の概念（帰無仮説・対立仮説）について説明できる。表からヒストグラムを作成できる。
4回	正規分布・分散と仮説検定	正規分布とは、分散とは、仮説検定、パラメトリックとノンパラメトリックについて説明できる。
5回	統計ソフト、ツールの使用法	Excelの分析ツールが活用できる。Rコマンドの使用法がわかる。テストデータを用いて課題を作成できる。
6回	2標本の平均の差の検定	パラメトリック法 テストデータを用いて2標本の差の検定（t検定）の課題を行うことができる。
7回	2標本の平均の差の検定	ノンパラメトリック法 テストデータを用いて2標本の差の検定（ウィルコクソンの順位和検定、マンホイットニのU検定）の課題を行うことができる。
8回	対応のある平均差の検定	ノンパラメトリック法 テストデータを用いて対応のある差の検定（ウィルコクソンの符号付順位検定）の課題を行うことができる。
9回	相関	相関係数について説明できる。テストデータを用いて相関の検定、散布図を作成することができる
10回	他の統計手法、検定	回帰分析、カイ2乗検定、オッズ比等について説明できる。テストデータを用いて統計処理を行うことができる。
11回	診断の指標	医療、リハビリテーション分野で用いられる診断の指標（感度・特異度、陽性的中率、陰性的中率、カットオフ値）について理解し、テストデータを用いて統計処理を行うことができる
12回	復習とまとめ、フィードバック	各種統計手法とその手順について説明することができる

成績評価	授業内での知識確認小テスト20% 授業内で実施した演習の成果物80%	
課題やレポートに関するフィードバック	授業内にて適宜行う	
使用教材 教科書	配布資料	
オフィスアワー	授業後の時間で質問を受け付ける	

		作業療法学科 夜間部			
科目	情報科学	単位	1	コマ数	15
担当講師	山田 慶	学 年		1年生	
資格	資格：作業療法士 実務経験：病院（身体障害分野）、通所リハ等 9年、教育機関 6年				

科目概要	教職員および学生間とのやり取り、学習や課題作成に必要な、インターネット、PCソフトウェア、クラウドサービスを利用できるよう講義と演習を行う。				
学習の留意点	PCソフトウェアは既に慣れている人、慣れていない人の差があります。慣れている人は慣れていない人に教えてあげてください。慣れていない人は授業で学習したことの復習を兼ねて実際に授業外でもPCに触れるようにしてください。				
到達目標	学生生活において、各ソフトウェア、クラウドサービス、インターネットが利用できるようになる。				
授業形態	講義			対面	
関連科目	統計学		臨床実習		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	Gmail	メールのやり取りができる
2回	Zoomの活用法	Zoomでのやり取りができる
3回	Googleドライブの活用	ドライブが利用できる
4回	Google Classroomの活用	クラスルームで課題提出ができる
5回	図書館蔵書の利用法文献検索サービス	図書の探し方や文献検索ができる
6回	ワープロ文書作成①見出し、段落番号、フォント、書体変更など	Wordを操作し、見出し、段落番号、フォント、書体変更ができる。
7回	ワープロ文書作成②レポート様式の作成、表の挿入、図の挿入、写真の挿入	Wordを操作し、レポート様式の作成、表の挿入、図の挿入、写真の挿入ができる。
8回	ワープロ文書作成③段組み設定（症例レポート、レジュメ様式の作成）、図形描画（家族図の作成）	Wordを操作し、段組み設定（症例レポート、レジュメ様式の作成）、図形描画（家族図の作成）ができる。
9回	①～③までのまとめ、文書作成、ショートカットキーの活用等	学習したことを使って課題作成と提出ができる。
10回	プレゼンテーション②操作法および作成	パワーポイントの操作法、作成時の注意点が説明できる。
11回	プレゼンテーション②作成および発表	パワーポイントを使って発表ができる。
12回	表計算①入力上の注意点、加算、集計	Excelを使って、加算、集計ができる。
13回	表計算②表の作成、関数を使う、グラフを描く	Excelを使って、表の作成、関数を使う、グラフを描くことができる。
14回	表計算③関数、統計	Excelを使って、関数、統計の基礎が説明できる。
15回	情報リテラシー情報の取り扱いについて	情報の取り扱いについての留意点を説明できる。

成績評価	課題提出を点数とし60点を合格とする。	
課題やレポートに関するフィードバック		
使用教材 教科書	指定なし。 授業内で資料を配布します。	
オフィスアワー		

		作業療法学科 夜間部			
科目	心理学	単位	2	コマ数	15
担当講師	小野寺 哲夫	学 年	1年生		
資格	公認心理師・臨床心理士				

科目概要	心理学の授業では、心理学全般について学んでいくが、半期（8コマ）の授業回数であるため、PTの国家試験に頻出する領域を中心にセレクトし、その分野にフォーカスして、対面型の講義形式で授業を行う。講義形式であるが、アクティブラーニングを意識し、心理テストの実施、ペアディスカッション、リアクションペーパーの毎回の実施などを取り入れて、学生の主体性や能動的参加を促進する。		
学習の留意点	心理学は、全ての医療専門職の基礎となる学問であるとの観点から、学生は科学としての心理学が140年前に誕生して以来、どのようなことが研究され、どのようなことが明らかになってきたのかについて、有名な心理学実験なども含めて学ぶ。そして心理学の知識が、私たちの日常生活や人間理解にどのように関係し、また自己理解や他者理解、障害を持った患者の心理の理解や精神的健康の増進のためにどのように適用できるのかなどについて理解することができる。また、この授業では、国家試験を見据えて、幅広い心理学分野の中でも、特に国家試験出題頻度の高い分野に絞り込んで行われるので、学生は試験に出る内容を効率よく修得することができる。		
到達目標	①心理学の4つのパラダイムの特徴について説明できる。 ②学習心理学の3つの学習理論について説明できる。 ③記憶過程と記憶の分類について理解し、個々の記憶の特徴について説明できる。 ④発達について、心理学的観点から、その概要について理解し、説明できる。 ⑤動機づけの種類と特徴について説明できる。 ⑥心理学の授業で学んだ知識が、どのように国家試験問題として出題されているのかについて説明できる。		
授業形態	講義	対面	
関連科目	臨床心理学	人間発達学	精神医学

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	心理学の概論	心理学の定義と学問的位置づけについて説明できる。
2回	心理学の4つのパラダイム	心理学の4つのパラダイムに関して、その特徴について説明できる。
3回	知覚心理学における精神物理学	精神物理学とゲシュタルト心理学について説明できる。
4回	知覚心理学におけるゲシュタルトの原理	ゲシュタルトの法則や知覚の恒常性、パターン認知、注意の特徴、特に「選択的注意」について説明できる。
5回	学習心理学における古典的条件づけ	パブロフの古典的条件づけについて、適切な専門用語を用いて説明できる。
6回	学習心理学におけるオペラント条件づけ	オペラント条件づけについて理解し、その応用である「応用行動分析学(ABA)」の三項随伴性の原理について説明できる。
7回	学習心理学における社会的学習理論	社会的学習理論について理解し、バンデューラの「モデリング実験」について説明できる。
8回	記憶心理学におけるの記憶分類	心理学における記憶分類、感覚記憶、短期記憶、長期記憶（手続的記憶・宣言的記憶などについて説明できる。
9回	ワーキングメモリと忘却	ワーキングメモリと4つの忘却説について説明できる。
10回	動機づけ(Motivation)の基礎	内発的動機づけと外発的動機づけの違いについて説明できる。
11回	動機づけ(Motivation)の周辺	マズローの欲求階層論とレヴィンのコンフリクト(葛藤)について説明できる。
12回	パーソナリティ心理学	「類型論」と「特性論」について説明できる。
13回	知能(IQ)と知能テスト	代表的な知能の定義とモデルについて理解し、知能検査とのつながりについて説明できる。
14回	発達心理学	愛着理論とピアジェの認知発達論について説明できる。
15回	生涯発達心理学	フロイトとエリクソンの発達段階論、およびキューブラー・ロスの「死の受容過程」について説明できる。

成績評価	期末レポート課題（90%）、毎回のミニレポート課題（10%）で評価する。
課題やレポートに関するフィードバック	毎回のミニレポート課題は、授業で学んだ内容について、感想や自分の意見、質問等を比較的自由に書いて提出する。毎回の授業において教科書は必ず使用する。
使用教材教科書	PT・OTのための心理学・臨床心理学 JFAパブリッシング 小野寺哲夫
オフィスアワー	火曜日の夜間部授業前後（不在の場合はメールで相談してください）

		作業療法学科 夜間部			
科目	哲学	単位	1	コマ数	12
担当講師	竹村 香織	学 年	1年生		
資格	博士後期課程修了（哲学），教育機関25年				

科目概要	今日、生命科学の驚異的な発展によって、従来の生命観を揺るがすような医療技術が可能になっています。この授業では、安楽死や遺伝子医療など具体的な医療の問題を取り上げ、そこにある倫理的問題点を整理・検討します。受講者が単なる直感や感情論で判断するのではなく、合理的に医療の問題点については是非を検討する力を養うための授業です。				
学習の留意点	安楽死や遺伝子操作など本授業で扱う医療の問題は、これからの社会や人間存在のあり方を左右する重要な問題です。安易に是非を判断することなく、基本的知識と考え方を身につけて、説得力のある判断を下せるようにしていきましょう。将来医療の現場で、医療関連の知識や技術だけでは解決できない困難や葛藤に遭遇したとき、この授業で身につけた合理的に倫理的問題点について考える力が、皆さんの考えるツールとして役立つことが期待できます。 なお、本授業はオンデマンド方式で行います。パワーポイントで作成した授業動画を毎週配信しますので、受講者の皆さんは必ず指定された期日までに視聴して指示された課題を提出してください。オンデマンド方式の授業は、いつでもどこでも何度でも受講できるというメリットがありますが、受講者の理解度が確認しづらいという課題もあります。皆さんには、小さな疑問でも講師に質問する積極的な姿勢で受講してもらいたいと思います。届いた質問には個別に、または授業動画のなかで回答し、受講者の理解度を確保しながら授業を進めていきます。				
到達目標	①生命倫理についての基礎知識を身につけ、議論の場で根拠をもって自分の意見を述べることができる。 ②広い視野を持ち、様々な立場の人への配慮が伴った倫理的判断を下すことができる。				
授業形態	講義		遠隔（オンデマンド）		
関連科目					

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	ガイダンス、生命倫理学について	哲学における生命倫理学の位置づけについて説明できる。
2回	倫理的判断の特徴と注意点	倫理的判断の特徴を説明できる。
3回	インフォームド・コンセントと自己決定権(1)	インフォームド・コンセントをはじめとする医療倫理の基本概念について説明できる。
4回	インフォームド・コンセントと自己決定権(2) 安楽死・尊厳死(1)	医療における自己決定権について理解が深まる。「安楽死」とはどのような死を意味するのか説明できる。
5回	安楽死・尊厳死(2)	多様な「安楽死」概念について整理して説明できる。
6回	安楽死・尊厳死(3)	西洋各国および日本の安楽死をめぐる現状と問題点について説明できる。
7回	脳死・臓器移植(1)	脳死とその問題点について説明できる。
8回	脳死・臓器移植(2)	わが国における臓器移植の問題点について説明できる。
9回	遺伝子医療(1)	遺伝子診断の現状と問題点について説明できる。
10回	遺伝子医療(2)	遺伝子治療の現状と問題点について説明できる。
11回	人工妊娠中絶(1)	アメリカを中心に人工妊娠中絶の現状と問題点について説明できる。
12回	人工妊娠中絶(2)	日本における人工妊娠中絶の現状と問題点について説明できる。

成績評価	平常点（毎回の授業で提出する課題で評価）50%、学期末レポート50%で総合的に評価し、60点以上を合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	Google Classroom内メッセージまたはメールで行います。
使用教材 教科書	『生命倫理の教科書』 [第2版] 黒崎剛、吉川栄省編著 2022年 ミネルヴァ書房
オフィスアワー	Google Classroom内メッセージまたはメールで対応します。（初回授業で指示）

		作業療法学科 夜間部			
科目	教育学	単位	1	コマ数	12
担当講師	井上 環	学 年	1年生		
資格	教育学博士課程（満期退学）				

科目概要	本講義では、教育学の主要なトピックについて学びます。特に、对人的支援としてのリハビリテーションと関係する内容を中心に、グループワークを交えながら進めていきます。また、「哲学対話」と呼ばれる教育実践を並行して実施することで、講義内容への理解を深めるとともに、集団的な問題解決力、批判的思考力、多様な価値観の受容、傾聴やアサーション（自己主張）といったコミュニケーション能力の向上を目指します。		
学習の留意点	<p>リハビリテーションは对人的な営みであり、相手に「教える」という働きかけが欠かせません。その意味で、教育学を学ぶことは、より良いコミュニケーションのあり方を探求することにつながります。同時に、教育学を通じて、自身の成長や学びを捉え直す機会を得るとともに、現代の社会や文化への理解を深めることもできます。</p> <p>授業の冒頭では、前回の内容に関する簡単な小テストをGoogle Classroom上で実施します。各授業の要点を説明できるよう、復習を心がけてください。講義中は、気づきや疑問点を積極的にメモし、授業後に提出するリアクションペーパーに反映させるようにしましょう。これらの記録は、哲学対話の議論や学期末レポートの作成に大いに役立ちます。</p> <p>学期末レポートでは、授業での議論を踏まえたうえで、各自が自由に問いを設定し、それに対して論じてもらいます（分量は1,500～2,000字程度を予定しています）。「哲学対話」の概要については、授業内で説明します。また、各講義のテーマや哲学対話の進め方は、授業の進行状況に応じて適宜調整する場合があります。</p>		
到達目標	<p>① 教育学に関わる重要な概念や論点について説明できる。</p> <p>② ①を踏まえて、自身の考えを深めそれを適切に表現することができる。</p> <p>③ 対話を通じた他者との協同的な探究に参加し、その成果を考察・表現することができる。</p>		
授業形態	講義	対面	
関連科目	心理学	哲学	社会学

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	ガイダンス（授業の概要・進め方・評価方法）	教育学を学ぶ意義/哲学対話の意義や注意点を説明できる
2回	教える-学ぶの関係	コミュニケーションとしての「教えること」、学びと教えるに関わる論点について説明できる
3回	教育工学	インストラクショナルデザインに関わる論点について説明できる
4回	哲学対話 [1]（日常をめぐる問い）	日常をめぐる問いをテーマとした哲学対話に参加し、その成果を考察・表現できる
5回	子ども	「小さな大人としての子ども」「子どもの発見」「子どもの消失」に関わる論点について説明できる。
6回	教育の目的	教育目的としての有能化・社会化・主体化に関わる論点について説明できる
7回	哲学対話 [2]（教育をめぐる問い）	教育をめぐる問いをテーマとした哲学対話に参加し、その成果を考察・表現できる
8回	特別支援教育①	障害児教育の歴史、インクルーシブ教育に関わる論点について説明できる
9回	特別支援教育②	発達障害のある子どもの教育に関わる論点について説明できる
10回	ジェンダーとセクシュアリティ	ジェンダーと教育の課題/セクシュアリティと教育の課題に関わる論点について説明できる
11回	哲学対話 [3]（教育をめぐる問い）	教育をめぐる問いをテーマとした哲学対話に参加し、その成果を考察・表現できる
12回	まとめ	レポート作成の注意点を理解し、講義内容を踏まえて自らの考察をレポートとして表現できる

成績評価	① 各回における小テスト・小レポート（60%） ② 学期末レポート（40%）
課題やレポートに関するフィードバック	課題へのフィードバックは、授業内で全体に対し実施するとともに、必要に応じてGoogle Classroom上で個別対応を実施します。
使用教材 教科書	使用教材：担当教員が作成した資料を都度配布する 教科書：なし 参考書：講義中に適宜指示する
オフィスアワー	授業前後の休憩時間、メール・Google Classroomでの相談

		作業療法学科 夜間部			
科目	英語	単位	1	コマ数	15
担当講師	伊勢村定雄	学 年		1年生	
資格	全国通訳案内士（英語）、他				

科目概要	主に医学関係の専門用語が英語で理解できるようになることを眼目とする。				
学習の留意点	授業はテキストと教師作成の用語プリントを中心に進めるが、新しい語彙だけでなく、自分がよく把握していない英語の単語については常に辞書を引きながら進めることを忘れないようにしていただきたい。特に専門用語の習得には、書くだけでなく五感を使って、発音しながら記憶にとどめることをお勧めします。また、英語の初歩的な知識が不足していると自覚している方は、初回が始まる前に、初歩の英文法は目を通しておくことが必須です。授業開始後は、事前に分かっているときには後で少し時間をとれるようにしますので、コミュニケーションを円滑にとること。絶対放置はしないように。				
到達目標	医療業界での基礎的な英語の知識を身につけることを目指す。				
授業形態	対面。				
関連科目	解剖学				

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	導入＋用語解説	テキスト、辞書持参（疑問のある方は初回に訊いておくこと）。
2回	テキスト Unit 1用語のプリントの書き込み	辞書を使って解答する。用語プリント・テキストの音読をしっかりとやる。
3回	テキスト Unit 1の復習・問題解答	テキストの練習問題の解答を用意し、用語の発音練習をしておく。
4回	テキスト Unit 2	辞書を使って解答する。用語プリント・テキストの音読をしっかりとやる。
5回	テキスト Unit 2	テキストの練習問題の解答を用意し、用語の発音練習をしておく。
6回	テキスト Unit 3	辞書を使って解答する。用語プリント・テキストの音読をしっかりとやる。
7回	テキスト Unit 3	テキストの練習問題の解答を用意し、用語の発音練習をしておく。
8回	テキスト Unit 4	辞書を使って解答する。用語プリント・テキストの音読をしっかりとやる。
9回	テキスト Unit 4	テキストの練習問題の解答を用意し、用語の発音練習をしておく。
10回	テキスト Unit 5	辞書を使って解答する。用語プリント・テキストの音読をしっかりとやる。
11回	テキスト Unit 5	テキストの練習問題の解答を用意し、用語の発音練習をしておく。
12回	テキスト Unit 6	辞書を使って解答する。用語プリント・テキストの音読をしっかりとやる。
13回	テキスト Unit 6	テキストの練習問題の解答を用意し、用語の発音練習をしておく。
14回	考查模擬試験・質問タイム	本番に備えて過去の学習を点検する。
15回	用語・人体図練習問題復習	学期を通して学んだことを意識化する。

成績評価	考查結果に基づいて評価を行う。				
課題やレポートに関するフィードバック	必要に応じて対処します。				
使用教材教科書	<i>English for Manners and Hospitality III</i> 、古閑博美/土屋宣子/北川宣子著、弓ブス、2013年。				
オフィスアワー	授業後。				

		作業療法学科 夜間部			
科目	保健体育	単位	2	コマ数	15
担当講師	小平 健太郎	学 年		1年生	
資格	NSCA-CSCS, NSCA-CPT, 体育学修士				
補佐教員	山下 高介 (中級パラスポーツ指導員)				
科目概要	運動の重要性は近年特に叫ばれているが、方法によっては逆効果にもなるリスクも潜んでいるため対象者に合わせた適切な方法を経験則だけでなく知見として習得していくことが専門職としても求められる。また、自身の動作での課題の発見や適した改善を図ることは自身の健康を保つためにも必要である。講義における基礎知識の習得だけでなく演習やグループディスカッションを通じて、多方面から運動や動作について考える時間を設ける。				
学習の留意点	講義を踏まえて運動が身体にもたらす影響について総合的に考察したものを課題として出題する。講義内では授業課題に沿った課題を出題する。				
到達目標	①現代社会において運動が必要とされている背景を説明できる。 ②運動の有効性だけでなくリスクについて説明できる。 ③障がい者スポーツについてその起源や必要性について説明できる。 ④様々な形のスポーツについて説明できる。 ⑤感覚に制限がある中で運動を体験し、その感覚を説明できる。 ⑥既存のスポーツに対して対象者に合わせた柔軟な変更を試行できる。				
授業形態	講義・演習		対面と遠隔の併用授業		
関連科目					

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	運動の必要性と有効性	現代で運動が求められる理由が説明できる/運動の有効性を説明できる
2回	体育館実技 (自体重での運動、バスケットボール)	自体重での運動で安全な運動の仕方を理解する。用具や場所が限られている中で工夫して楽しむ方法を検討し実践できる
3回	障がい体験・障がい者スポーツ実践	ブラインドウォーキングや車いすでの運動体験から障がいの理解を深める
4回	リスクと安全管理	運動が身体にもたらすリスクを学び、知っておくべき安全配慮や応急手当を説明できる。ウォーミングアップの重要性とその内容について説明できる
5回	障がい者スポーツ	障がい者スポーツの歴史や現状、運動の必要性を説明できる
6回	簡易体力チェック (実技)	体力テスト、ロコモチェックを実践し自身の現状を把握・説明できる
7回	障がい者スポーツ	映像学習によりスポーツ科学分野での知見の応用を説明できる
8回	体育館実技 (障がい体験・障がい者スポーツ実践)	実践における基本的な視点や方法を知り、工夫しながら実践できる
9回	体育館実技 (障がい体験・障がい者スポーツ実践)	車いすバスケットボール体験を通じて、その運動感覚を体験し説明できる
10回	スポーツ科学の応用	映像学習によりスポーツ科学分野での知見の応用を説明できる
11回	行動変容	運動・スポーツへの参加を促すための行動変容手法を学びながら、コミュニケーションスキルを身に付ける
12回	体育館実技 (自体重での運動、バレーボール)	自体重での運動で安全な運動の仕方を理解する。用具や場所が限られている中で工夫して楽しむ方法を検討し実践できる
13回	体育館実技 (自体重での運動、バドミントン・卓球)	自体重での運動で安全な運動の仕方を理解する。用具や場所が限られている中で工夫して楽しむ方法を検討し実践できる
14回	様々なスポーツの形	レクリエーションスポーツ・ゆるスポーツを知り、さまざまスポーツのあり方を理解する
15回	総合演習	運動が身体にもたらす影響について総まとめとしての課題に取り組むことができる

成績評価	レポート試験：70%、講義内課題30%の合計100%で評価する。 授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。
課題やレポートに関するフィードバック	FBは全体に対して実施する
使用教材教科書	百寿時代の運動・スポーツのトリセツ ―日本臨床スポーツ医学会からの提案― (著書名：日本臨床スポーツ医学会学術委員会/出版社名：有限会社ナップ)
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 夜間部			
科目	社会学	単位	1	コマ数	12
担当講師	千田 佳遠里	学 年		1年生	
資格	高等学校教員社会一種免許				

科目概要	社会学は関係の科学である。様々な関係を通して人間がいかにして社会的存在となり、市民社会の一員となっていくのか、家族集団を中心に社会集団を通して考察する。社会事象を正確に捉え、自分と社会の関係をも把握していく。さらに、人種、性、障害のあるなし等違いをもった多様な人間どうしが共生できる社会について学びを深めていく。また、リハビリテーションにおける社会学の必要性も把握する。				
学習の留意点	社会学を学ぶ第一歩は、社会や人間に関心を持つことから始まる。日常の出来事や災害等のニュースにも耳を傾ける姿勢をもてるようにする。また、授業においては円滑なコミュニケーションがとれるように心がける。予習として、指示された資料等は一読しておくこと。				
到達目標	人間は社会の中でしか生きていくことができない。社会学を学習し社会的人間となる過程とその意義を理解する。そして、他者と上手に関係できる能力を培う。共生社会の重要性を知り、人間の尊厳について感性でも捉えられるようにする。				
授業形態	講義		対面		
関連科目	教育学	心理学	哲学		

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	リハビリテーションは人間の尊厳と社会性を取り戻す働きかけ	社会学を学び人間を知り、社会を知る。リハビリテーションに社会的視点をもてるようにする
2回	社会学とはどのような科学か	社会学とは関係の科学、社会の概念、社会学の誕生・成立を把握する
3回	社会学の基本概念	集団の概念・類型、構造、機能、社会学の対象領域、医療における人間関係を把握する
4回	社会的人間の形成 1	社会化の概念、文化の概念、言語的社会化を理解する
5回	社会的人間の形成 2	文化の構造・機能、パーソナリティーの形成、社会化のメカニズムを理解する
6回	統計で捉える人口減少社会 (国政調査・人口推計を資料に使用)	人口算出方法、日本の総人口・人口構成、50年後の人口推計 世界の総人口、人口1億以上を有する国々を把握する
7回	人権とは何か、概念の共有	感性で捉える人権、心のバリアフリーを育む 人権の三本柱 普遍性・不可侵性・永久性を理解する
8回	人権意識・人権感覚、人間の尊厳について	差別の本質・構造、差別行為を知り、多様性・異質性を受け入れる 共生社会の意識を身につける。(グループワークで意見交換)
9回	基礎集団 家族とは	家族の概念・定義・特質、核家族化・小家族化する家族形態の変容を把握する
10回	家族の実態、家族の変動 (国民生活基礎調査を資料に使用)	世帯構造と世帯状況から単身・高齢者世帯の増加、貧困世帯の現状を把握する。家族変動の要因を理解する
11回	家族の機能・構造	社会システムの変動による家族機能の縮小化を把握し、性別役割分業にみる家族構造をジェンダーの視点から捉える
12回	日本の現状と抱える問題点 (人口動態統計等を資料に使用)	日本の人口動態・人口構成、少子高齢人口減少社会の動向、格差社会、ひきこもり、不登校等の問題点を把握する

成績評価	定期試験とレポートの両方で評価、原則として60点以上で合格とする
課題やレポートに関するフィードバック	必要に応じて対応する
使用教材 教科書	パワーポイント資料、概要を冊子にしたもの(担当千田作成)を配布使用 その他参考資料として、新聞記事、統計・調査資料等を配布 【参考文献】 放送大学-社会学入門 森岡清志編、他(NHK出版) 人権読本-じんけんの詩- 今野俊彦編著(明石書店) よくわかる社会学 宇都宮京子編(ミネルヴァ書房) テキストブック入門社会学 山根常男編(有斐閣ブックス)
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 夜間部			
科目	人間関係論	単位	2	コマ数	15
担当講師	川村 啓輔	学 年		1年生	
資格	臨床心理士・公認心理師				

科目概要	人間関係やコミュニケーションにおける基礎的な知識、それらに対する臨床心理学的な理解について解説します。また、これらの内容がより実践的に理解できるよう、ロールプレイ、事例検討も行います。				
学習の留意点	対人援助職を志すみなさんにとって、人間関係やコミュニケーションに関する知識をつけることは必須です。この講義では、人間関係やコミュニケーションの基礎的な知識について講義、ロールプレイ、その内容に関するグループディスカッションを中心に行います。加えて、実際の心理療法場面で用いられる投影法や描画法の擬似的な体験をしていただきます。人を相手にする職業は、相手だけでなく、同時に自分自身に向き合う必要があります。ですので、講義を聴講するだけでなく、自分自身が体験をとおして、どのように心が動き、何を感じるのかという、皆さんの内的な体験も大切にしたいと考えています。				
到達目標	臨床現場で必要とされる最も基礎的な能力は人間関係を築く力です。そのためには、人間関係やコミュニケーションに関する知識を身につけることが大切です。また、それと同時に、自分自身を知ることや他者を知ろうとすることも大切なことです。この講義では、これらのことを心がける上で必要な知識の習得を目指します。対人援助職としても、また、一人の“人”としても、他者の視点を持って、人と関われるということは大切なことです。このような、コミュニケーションの“核”となるものを身につけることを目標とします。				
授業形態	対面の講義				
関連科目					

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション	講義内容・進め方、評価についての確認
2回	話を“聴く”こと□	対人援助職とは、感情労働、バーンアウトについて理解を深める。
3回	“私”とは□	心の構造や発達理論的に見た“私”について理解を深める。エゴグラムの実施により、自分自身を理解する(レ)。
4回	私と私ではないもの	自我親和性と自我異和性について理解を深める。また、バウムテストをとおして、自分自身を理解する。
5回	コミュニケーション①	コミュニケーションについて、カウンセリングの技法について理解を深める。
6回	投影法の体験	ロールシャッハテストを擬似体験し、“共感すること”を実践的に学ぶ(レ)。
7回	コミュニケーション②	コミュニケーションの中で使っているスキルについて理解を深める。
8回	イメージを使った交流	描画法をとおして、イメージを使った交流を体験する(レ)。
9回	コミュニケーション③	人間関係の深層で起こっていることについて理解を深める。
10回	描画法の体験	風景構成法をとおして、自分自身の内的世界を感じる(レ)。
11回	心と身体とイメージ	心と身体の繋がりについて、事例を踏まえながら理解を深める。
12回	見立てと発達理論	発達理論について理解し、それをもとにクライアントを見立てることについて理解を深める。
13回	精神疾患と発達障害について	精神疾患や発達障害について、事例をとおして理解を深める。
14回	事例検討	教科書に載っている事例を使い、見立てや方向性についてグループで話し合い、事例にコミットメントする力をつける。
15回	まとめ	全体のまとめ、学期末レポートについて

成績評価	小レポート4回、学期末レポートの提出で成績をつけます。小レポートとは、上記の行動目標のところに(レ)と書かれている回の内容について書いていただきます。
課題やレポートに関するフィードバック	レポートは紙媒体で提出してください。講義の中で何度か感想を提出していただく場面がありますので、その際に疑問点や質問があれば、書いてください。その次の講義でお答えします。または、講師のメールアドレスを教えますのでメールでも良いです。もちろん、授業の前後の時間で直接お声掛けいただいても構いません。
使用教材 教科書	教科書：PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド(医学書院) ※その他にも参考文献がいくつかありますが、その都度提示しますので、ご用意いただくのは、上記の教科書のみで構いません。
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 夜間部			
科目	解剖学 I	単位	1	コマ数	15
担当講師	五十嵐 広明	学 年		1年生	
資格	高等学校教諭二級普通免許状理科		中学校教諭一級普通免許状理科		

科目概要	人体はこの科目で勉強する神経系を含む10系統からなる。その系統を構成する器官は4種類の組織（上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織）により構成される。解剖学 I では、そのうちの神経組織の成り立ちを学習した後、神経系がどのような過程で形成されるのか（発生）を習得する。末梢から中枢（脳、脊髄）に、あるいは中枢（脳、脊髄）から末梢に情報を伝える神経路（伝導路）を念頭に置いて、脊髄から大脳皮質に至る形で講義を進行させる。末梢から脳へ感覚を伝える代表的な感覚性神経路（上行性神経路）、伝えられた刺激に対する脳の反応を末梢に伝える運動性神経路（下行性神経路）を学んだ後、末梢神経である脳脊髄神経と自律神経系の成り立ちを習得する。最後に、中枢に伝える感覚の受容器が存在する皮膚、および視覚器、平衡聴覚器の発生と構造（つくり）および簡単な働きについて学習する。				
学習の留意点	解剖学 I は全15回の講義のうち第1回の解剖学序論のあと11回が神経系について学ぶこととなります。解剖学の学生用の教科書を見回しても、解剖学序論の後に直ぐ神経系に入る本は有りません。神経系は他の系統に大きな影響を及ぼすのですが、他の系統、例えば皆さんが聞いたことがある筋系、骨格系、消化器系、呼吸器系など9系統の影響を受けないかなり独立している系統なのです。即ち他の9系統の知識が無くても、言い方を変えれば脳がまっさらな状態で学習できるのです。先入観無く、脳がまっさらな状態で勉強できるのです。私が34年間教員を務めた医学部では予習ではなく復習を重視していました。先入観は記憶を妨げます。医学の内容はパソコンのソフトと同じディレクトリー構造になっています。毎回の講義で使用する紙資料はディレクトリー構造になっています。皆さんには自分の脳にディレクトリーを作成して学んで頂きたいのです。				
到達目標	神経系を構成する神経組織、および神経系の発生を理解したうえで、神経系（中枢神経系、末梢神経系）の構造（つくり）を理解する。さらに、感覚器（皮膚、視覚器、平衡聴覚器）の構造（つくり）を理解する。				
授業形態	講義		対面		
関連科目	生理学 II		生理学演習		整形外科 I ・ II
	神経内科 I ・ II				

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	解剖学とは、解剖学の歴史、解剖学用語（人体の区分と名称）	解剖学とは何かについて説明することができる。
2回	組織とは、神経細胞（ニューロン）、神経終末、シナプス、神経膠細胞（グリア）	組織とは何かを述べた後、神経組織の構成要素を列挙し、それらの構造について説明することができる。
3回	神経系の発生と区分、脳室、脈絡叢、灰白質、白質、核、神経節、髄膜	(1) 神経系の発生とその区分について説明することができる。 (2) 脳と脊髄の中に存在する脳室と中心管および脳と脊髄を被う髄膜について説明することができる。 (3) 脳と脊髄を構成する灰白質と白質の構造、およびそれらの神経系における分布について説明することができる。
4回	脊髄、菱脳（髄脳）：延髄	脊髄と延髄の構造について説明することができる。
5回	菱脳（後脳）：橋、小脳	橋と小脳の構造について説明することができる。
6回	中脳、前脳：間脳	中脳と間脳の構造について説明することができる。
7回	前脳：終脳	終脳の構造について説明することができる。
8回	神経路（伝導路）の種類、上行性神経路（体性感覚および深部感覚の神経路）	(1) 中枢神経系の神経路について説明することができる。 (2) 上行性神経路（体性感覚および深部感覚の神経路）について説明することができる。
9回	上行性神経路（視覚の神経路、聴覚の神経路）、下行性神経路（錐体路、錐体外路以外の神経路）	上行性神経路（視覚の神経路、聴覚の神経路）および下行性神経路（錐体路、錐体外路以外の神経路）について説明することができる。
10回	脳脊髄神経（脳神経）	脳神経の構造について説明することができる。
11回	脳脊髄神経（脊髄神経）	脊髄神経の構造について説明することができる。
12回	自律神経系（交感神経、副交感神経）	交感神経と副交感神経の構造について説明することができる。
13回	皮膚	皮膚の構造および皮膚の付属器官について説明することが出来る。
14回	視覚器〔眼球、副眼器（眼瞼、結膜、眼筋）〕	(1) 眼球、眼瞼、結膜の構造について説明することができる。 (2) 眼筋の構成、作用、神経支配について説明することができる。
15回	平衡聴覚器（外耳、中耳、内耳）	平衡聴覚器（外耳、中耳、内耳）の構造について説明することができる。

成績評価	全講義終了後に筆記試験を実施して評価する(100%)。試験の問題形式は国家試験に準拠した多肢選択問題（A-type、X2-type）とする。
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項なし
使用教材教科書	予め配付するプリントを使用して講義を行うので、特に教科書は指定しない。
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 夜間部			
科目	解剖学Ⅱ	単位	1	コマ数	15
担当講師	五十嵐 広明	学 年	1年生		
資格	高等学校教諭二級普通免許状理科		中学校教諭一級普通免許状理科		

科目概要	人体にある器官は4種類の組織（上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織）により構成される。その組織のうち、支持組織に所属する軟骨組織と骨組織について始めに学ぶ。その上で、人体各部の骨と関節の構造（つくり）を習得する。そして筋組織および筋の一般構造と分類を学び、人体各部（頭部、頸部、背部、胸部、腹部、上肢、下肢）に分布する筋群の構成と神経支配、および筋群を構成する筋の作用を理解する。				
学習の留意点	理学療法士作業療法士国家試験で解剖学の問題として午前と午後10題づつ、合計20題出題されます。第28回から今回の第60回までの全ての解剖学の問題を系統で分類すると、筋系約25%、神経系約20%、呼格系約15%で、全ての解剖学の問題の60%がこの3系統から出題されています。既に神経系の重要さは理解出来たと思いますが、筋系と骨格系の内容はリハビリテーションに取って重要なので出題される割合が高いです。皆さんが筋系と骨格系で学ぶ内容は医学部の学生が学ぶ内容よりはるかに内容が多く、また深いです。そのつもりで解剖学Ⅱを学んでいただきたいと思います。				
到達目標	運動器系を構成する骨格系に所属する人体各部の骨、およびその骨と骨とを連結する関節の構造（つくり）を理解する。その上で、同じ運動器系に所属する筋系の人体各部に分布する筋群の構成、その筋群に所属する個々の筋の付着部位（起始、停止）およびその筋の作用と神経支配を理解する。				
授業形態	講義		対面		
関連科目	機能解剖学Ⅰ		整形外科Ⅰ		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	軟骨組織	(1)支持組織に所属する軟骨組織の構造の特徴を説明することができる。(2)硝子軟骨、弾性軟骨、線維軟骨のそれぞれの構造について説明することができる。
2回	骨組織	(1)支持組織に所属する骨組織の肉眼構造および顕微鏡構造を説明することができる。(2)膜内骨化と軟骨内骨化の2種類の骨形成様式を説明することができる。(3)典型的な長骨の発生過程を説明することができる。
3回	骨・関節の構造と分類	(1)骨をその形状により分類することができる。(2)骨表面の高まり状をなす構造および陥凹状な構造を列挙することができる。(3)骨の連結のうち滑膜性の連結（関節）の構造を説明することができる。(4)関節の分類および関節の運動を説明することができる。
4回	頭蓋骨とその連結、脊柱とその連結	(1)頭蓋を構成する骨を脳頭蓋と顔面頭蓋に分類し、それらを構成する骨を説明することができる。(2)脊柱を構成する椎骨および脊柱の湾曲について説明することができる。(3)椎骨の連結について説明することができる。
5回	胸郭とその連結、上肢骨とその連結	(1)胸郭を構成する骨および胸郭の連結について説明することができる。(2)上肢帯と自由上肢を構成する上肢骨について説明することができる。
6回	骨盤とその連結、下肢骨とその連結	(1)骨盤とその連結について説明することができる。(2)下肢帯と自由下肢を構成する骨および下肢骨の連結について説明することができる。
7回	筋組織（平滑筋、骨格筋、心筋）	筋組織、特に骨格筋の構造（筋上膜、筋周膜、筋内膜）および骨格筋組織の顕微鏡構造について説明することができる。
8回	筋学総論、筋学各論（頭部の筋）	(1)骨格筋の構造、筋の基本形状、筋の起始・停止、筋の分類および筋の補助装置等について説明できる。(2)頭部の筋を顔面筋と咀嚼筋に分類し、それらに所属する個々の筋の起始・停止、作用、神経支配を説明することができる。
9回	頭部の筋、背部の筋	(1)頭部の筋を浅頭筋、外側頭筋、前頭筋、後頭筋に分類し、それらに所属する個々の筋の起死・停止、作用、神経支配を説明することができる。(2)背部の筋を浅背筋と深背筋に分類し、それらに所属する個々の筋の起死・停止、作用、神経支配を説明することができる。
10回	胸部の筋	横隔膜を除いた胸部の筋を浅胸筋、深胸筋に分類し、それらに所属する個々の筋の起死・停止、作用、神経支配を説明することができる。
11回	腹部の筋	(1)腹部の筋を前腹筋、側腹筋、後腹筋に分類し、それらに所属する個々の筋の起死・停止、作用、神経支配を説明することができる。(2)腹筋の腱膜について説明することができる。
12回	上肢の筋1	(1)上肢の筋のうち、上肢帯の筋に所属する個々の筋の起死・停止、作用、神経支配等を説明することができる。(2)回旋筋腱板について説明することができる。(3)上腕の筋を屈筋群と伸筋群に分類し、所属する個々の筋の起死・停止、作用、神経支配を説明することができる。
13回	上肢の筋2	(1)上肢の筋のうち、前腕の筋に所属する筋を屈筋群（前腕前面の筋）と伸筋群（前腕後面筋）に分類し、伸筋群は更に前腕機側の筋と前腕後面の筋に分類し、所属する個々の筋の起死・停止、作用、神経支配等を説明することができる。(2)前腕の筋膜について説明することができる。(3)手の筋を母指球筋、小指球筋、中手筋に分類し、所属する個々の筋の起死・停止、作用、神経支配を説明することができる。(4)手の運動について説明することができる。
14回	下肢の筋1	(1)下肢の筋を下肢帯の筋、大腿の筋、下腿の筋、足の筋に分類することができる。(2)下肢帯の筋の外寛骨筋を殿筋群と回旋筋群に分類し、それらに所属する個々の筋の起死・停止、作用、神経支配等を説明することができる。(3)大腿の筋を伸筋群（大腿前面の筋）、内転筋群（大腿内側筋）、屈筋群（大腿後面の筋）に分類し、それらに所属する個々の筋の起死・停止、作用、神経支配を説明することができる。
15回	下肢の筋2	(1)下肢の筋のうち、下腿の筋を伸筋群（下腿前面の筋）、下腿外側の筋（腓骨筋群）、屈筋群（下腿後面の筋）に分類し、それらに所属する個々の筋の起死・停止、作用、神経支配等を説明することができる。(2)足の筋を足背の筋と足底の筋に分類し、さらに足底の筋は母趾（指）弓筋、小趾（指）弓筋、中足筋に分類し、それらに所属する個々の筋の起死・停止、作用、神経支配等を説明することができる。

成績評価	全講義終了後に筆記試験を実施して評価する(100%)。試験の問題形式は国家試験に準拠した多肢選択問題 (A-type, X2-type)とする。
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項なし
使用教材教科書	予め配付するプリントを使用して講義を行うので、特に教科書は指定しない。 参考書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 夜間部			
科目	解剖学Ⅲ	単位	1	コマ数	15
担当講師	五十嵐 広明	学 年	1年生		
資格	高等学校教諭二級普通免許状理科		中学校教諭一級普通免許状理科		

科目概要	単に器官の形態と名称を覚えるだけの解剖学に止まらないように、内臓および循環器系、リンパ様器官の構造（しくみ）に関する少しレベルの高い（医学部の講義の内容に近い）知識を、器官発生学を含んだ講義を通じて習得する。				
学習の留意点	解剖学Ⅲで学ぶ内容は内臓学と呼ばれる分野と循環器系、リンパ様器官（免疫に関係する器官系）です。私は医師、看護師、臨床検査技師、栄養士（管理栄養士）などの大学の講義に携わってきました。これらの資格の養成課程ではかなりレベルの高い講義が行われており、作業療法士、理学療法士よりはレベルはかなり上です。解剖学Ⅲの講義のレベルはかなり高い設定ですので、その高いレベルの講義内容を習得してほしいと思います。皆さんの先輩達は習得して卒業してゆきました。				
到達目標	人体の内臓、すなわち消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系を構成する各器官の構造（しくみ）、およびこれら器官の発生を理解する。そしてさらに、循環器系とリンパ様器官に所属する器官の構造（しくみ）、およびこれらの発生を理解する。				
授業形態	講義		対面		
関連科目	内科学・老年学Ⅱ				

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	中空性器官と実質性器官、消化管（口腔）	(1)内臓は中空性器官と実質性器官からなることを説明することができる。(2)消化器系は中空性器官の消化管と実質性器官の消化腺からなることを説明することができる。(3)消化管に所属する口腔の構造について説明することができる。
2回	消化管（咽頭、食道、胃）	(1)消化管に所属する咽頭、食道、胃の構造について説明することができる。
3回	消化管（小腸、大腸）	(1)消化管に所属する小腸、大腸の構造について説明することができる。
4回	消化腺（肝臓、胆嚢、膵臓）、消化管と消化腺の発生、腹膜	(1)消化腺に所属する肝臓、胆嚢、膵臓の構造について説明することができる。(2)消化管と消化腺の発生について説明することができる。(3)腹膜について説明することができる。
5回	鼻腔、喉頭、気管、気管支	(1)呼吸器系に所属し、中空性器官の鼻腔、喉頭、気管、気管支の構造について説明することができる。
6回	肺、胸膜、縦隔	(1)呼吸器系に所属し、実質性器官の肺の構造について説明することができる。(2)胸膜について説明することができる。(3)縦隔について説明することができる。
7回	腎臓	(1)腹膜後器官の1つで、実質性器官である腎臓の構造について説明することができる。
8回	腎臓、尿管、膀胱、尿道	(1)腹膜後器官の腎臓と、中空性器官の尿路構成する尿管、膀胱、尿道の構造について説明することができる。
9回	泌尿生殖器系の発生、男性生殖器〔精巣、精巣上体、精管、付属腺（精嚢、前立腺、尿道球腺）、外生殖器〕	(1)泌尿生殖器系の発生について説明することができる。(2)男性生殖器に所属する精巣、精巣上体、精管、付属腺（精嚢、前立腺、尿道球腺）および外生殖器の構造について説明することができる。
10回	女性生殖器（卵巣、卵管、子宮、膣、外生殖器）	(1)女性生殖器に所属する卵巣、卵管、子宮、膣、外生殖器の構造について説明することができる。
11回	内分泌器の発生、甲状腺、上皮小体	(1)内分泌器の発生について説明することができる。(2)甲状腺、上皮小体の構造とこれらから産生されるホルモンについて説明することができる。
12回	下垂体、視床下部、松果体、副腎、膵島（ランゲルハンス島）	(1)下垂体、視床下部、松果体、副腎、膵島（ランゲルハンス島）の構造と、これらから分泌されるホルモンについて説明することができる。
13回	I. 血管系：A：総論、血管の構成、全身の循環路、吻合と終動脈、血管壁の構造 B. 各論 1. 心臓（含む中隔形成）	(1)血管系が心臓、動脈、静脈、毛細血管からなることを説明することができる。(2)全身の循環路が体循環、肺循環、門脈循環などからなることを説明することができる。(3)血管壁の構造について説明することができる。(4)心臓の構造について説明することができる。
14回	B. 各論 2. 肺循環 3. 体循環(a. 動脈系 b. 静脈系、含む動脈・静脈の発生) II. リンパ管系	(1)肺循環、体循環について説明することができる。(2)リンパ管系について説明することができる。
15回	リンパ小節、扁桃、リンパ節、脾臓、胸腺	(1)リンパ様器官に所属するリンパ小節、扁桃、リンパ節、脾臓、胸腺について説明することができる。

成績評価	全講義終了後に筆記試験を実施して評価する(100%)。試験の問題形式は国家試験に準拠した多肢選択問題（A-type, X2-type）とする。
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項なし
使用教材教科書	予め配付するプリントを使用して講義を行うので、特に教科書は指定しない。 参考書：日本人体解剖学（下巻）改訂20版
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 夜間部			
科目	生理学 I	単位	1	コマ数	15
担当講師	小平 健太郎	学 年		1年生	
資格	体育学修士、CSCS、NSCA-CPT				

科目概要	人体の基本的な生理機能について、主に植物機能について扱います。各器官系の構造と基本機能、経路を中心に調節メカニズムについて学びます。				
学習の留意点	<p>作業療法士として専門分野の理解や臨床へ応用していくためには生命現象や生体機能の調節を理解することが必要になります。また、疾患等を理解するためには正常な機能を把握することが前提となりますが、普段日常生活の中での調節や指標が前提となります。</p> <p>日常的に行われている調節作用に目を向けながら、主に内臓器官の働きについて、教科書だけでなく動画教材などを活用しながら進めていきます。</p> <p>講義を中心に、グループワークを交えながら実施します。自分自身の体内でも起きている変化であることを頭において日常生活の様々な現象についても目を向けてほしいと考えています。</p>				
到達目標	①人体の恒常性を説明できる。 ②血液の成分と生体内における機能、心臓・血管による循環器系の機能を説明できる。 ③呼吸機能と呼吸の調節機能を説明できる ④消化器系の働きと栄養素、代謝について説明できる。 ⑤腎臓の機能と排泄系による調節を説明できる。 ⑥内分泌系による調節作用について説明できる。□				
授業形態	講義		対面		
関連科目	生理学演習		病理学概論		内科学・老年学 I
	小児科学				

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	ホメオスタシス①	ホメオスタシスの概念を説明できる。
2回	ホメオスタシス②	細胞、体組成、代謝、物質の移動などにまつわる基本用語を説明できる。また概日リズムについて説明できる
3回	血液	血液の組成と役割について説明できる
4回	循環器系①	循環器系の構造と働き、心筋の働きと血液循環について説明できる
5回	循環器系②	循環器系各指標について説明できる
6回	循環器系③	心臓周期について各指標の変化などを用いて説明できる。循環器系の調節について説明できる
7回	呼吸器系①	呼吸器系の構造と呼吸運動について説明できる
8回	呼吸器系②	呼吸器系の調節について説明できる
9回	消化吸収①	消化器系の構造と経路、働きについて説明できる
10回	消化吸収②	消化液の働き、消化器系の働きについて説明できる
11回	代謝	各栄養素の代謝とエネルギー代謝について説明できる
12回	体温調節	体温調節のメカニズムについて説明できる
13回	排泄系	排泄系の構造と経路、働きについて説明できる
14回	内分泌①	内分泌系全体の調節メカニズム、各分泌器官の作用を説明できる
15回	内分泌②	ホルモンと糖代謝、水分代謝について説明できる

成績評価	平常点評価（講義内小テスト、授業姿勢等）30点、期末試験70点の合計100点で評価を行い、60点以上を合格とする 授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。	
課題やレポートに関するフィードバック	フィードバックについては全体に対して行う	
使用教材教科書	内田さえ、原田玲子「生理学第3版」医歯薬出版株式会社	
オフィスアワー	講義前後の休憩時間	

		作業療法学科 夜間部			
科目	生理学Ⅱ	単位	1	コマ数	15
担当講師	越智 広樹	学 年		1年生	
資格	獣医師、博士（獣医学）				

科目概要	生理学は人体の機能を理解する学問である。本講義では、人体の運動機能を構成する神経、筋、感覚器を中心に、その構造と機能を学び、外的刺激に対する人体の反射や反応ならびに運動調節の仕組みについても学習する。また、生理学は、作業療法、臨床医学を理解する上で基礎となる科目であるため、実際に臨床で遭遇する病態の内容も踏まえて講義する。				
学習の留意点	本講義を通じて、各臓器の基礎的な構造と機能の関係を意識しながら学習することが重要である。また、各回の講義内容を個別に理解するのではなく、臓器間の関連性を考慮することで、生体恒常性の維持機構をより深く理解できる。さらに、生理学的機能の破綻が疾患につながることを認識し、臨床との関連を意識しながら学習を進めることが求められる。□				
到達目標	①神経の構造と機能が説明できる。②筋肉の構造と機能が説明できる。③運動制御の仕組みを説明できる。④感覚器の構造と機能を説明できる。□				
授業形態	対面講義（必要に応じて遠隔授業を併用）□				
関連科目	解剖学Ⅰ	神経内科学Ⅰ	神経内科学Ⅱ		

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	神経系の基礎Ⅰ	ニューロンの構造、静止膜電位と活動電位について説明できる
2回	神経系の基礎Ⅱ	興奮伝導の仕組み、シナプス伝達の仕組みについて説明できる
3回	神経系の基礎Ⅲ	神経の可塑性と再生について説明できる
4回	中枢神経系	中枢神経系の分類と機能について説明できる
5回	末梢神経系	末梢神経系の分類と機能について説明できる
6回	筋の構造と働き	筋の構造と収縮の仕組みについて説明できる
7回	筋紡錘の構造と機能	筋紡錘の構造と機能、反射経路について説明できる
8回	脊髄・脳幹における運動制御	脊髄、脳幹による運動調節が説明できる
9回	高次な運動制御	小脳、大脳基底核、大脳皮質による運動調節が説明できる
10回	感覚の一般的性質	閾値や順応など感覚受容器の性質について説明できる
11回	体性感覚	体性感覚の受容器と伝導路および機能について説明できる
12回	味覚・嗅覚	味覚・嗅覚の受容器と伝導路およびその機能について説明できる
13回	聴覚・前庭感覚	聴覚・前庭感覚の受容器と伝導路および機能について説明できる
14回	視覚	視覚の受容器と伝導路およびその機能について説明できる
15回	まとめ	まとめ

成績評価	定期試験（筆記）にて6割以上を合格とする（授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。）□ □
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項無し
使用教材教科書	・生理学 第3版（内田さえ、原田玲子 他、医歯薬出版） ・講義時に配布する資料
オフィスアワー	授業前後の休憩時間（メール対応可）

		作業療法学科 夜間部			
科目	生理学実習	単位	1	コマ数	15
担当講師	渡辺 信博	学 年		1年生	
資格					

科目概要	生理学実習はグループ学習が基本となります。ヒトの生理機能の基本となる、血圧や心拍数、心電図、皮膚感覚、筋電図を自身の体で測定し、安静時や負荷（刺激）を与えた時の変化を調べます。生理機能の変化を体験することに加え、グループ内でデータを比較することで個体差についても学びます。測定機器の操作を習得し、実施した内容をレポートに文章や図でまとめることを通じて、生理学で学んだ内容の理解をより深めることが本実習の目的です。				
学習の留意点	<p>実習に臨むにあたり、実習書をあらかじめ読み、各実習の目的や手順などを理解しておいてください。さらに生理学の座学で学んだことに基づき、結果を予想しておいてください。もし予想した結果が得られなかった場合や失敗してしまった場合でも、その原因をよく考察することが重要です。</p> <p>各実習で得た結果は各自がレポートにまとめ、必ず提出してください（<i>※</i>切は実習の翌週の授業開始までです）。</p>				
到達目標	人体の生理機能について理解を深める。				
授業形態	対面授業				
関連科目	解剖学 I	生理学 I			

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	実習の一般的解説	生理学実習における注意事項や実習の進め方について理解する。
2回	実習①～③の解説	実習①～③の目的や実施内容、方法を理解する。
3回	実習①：血圧と心拍数 1	血圧と心拍数を測定し、安静時及び体位変換の影響を理解する。
4回	実習①：血圧と心拍数 1	血圧と心拍数を測定し、安静時及び体位変換の影響を理解する。
5回	実習②：血圧と心拍数 2	血圧と心拍数を測定し、運動負荷と寒冷負荷の影響を理解する。
6回	実習②：血圧と心拍数 2	血圧と心拍数を測定し、運動負荷と寒冷負荷の影響を理解する。
7回	実習③：心電図	心電図を記録し、心電波形の意味を理解する。深呼吸や暗算が心拍数に及ぼす影響とそのしくみを考察する。
8回	実習③：心電図	心電図を記録し、心電波形の意味を理解する。深呼吸や暗算が心拍数に及ぼす影響とそのしくみを考察する。
9回	実習④、⑤の解説	実習④、⑤の目的や実施内容、方法を理解する。
10回	実習④の準備、実習④：皮膚感覚	実習④で使用する刺激毛を作製する。2点弁別閾を測定する。
11回	実習④：皮膚感覚	皮膚の感覚点を測定する。皮膚の部位による感覚点の分布の違いや皮膚冷却の影響を理解する。
12回	実習④：皮膚感覚	皮膚の感覚点を測定する。皮膚の部位による感覚点の分布の違いや皮膚冷却の影響を理解する。
13回	実習⑤：筋電図	等張性運動時や等尺性運動時の筋電図を測定し、屈筋と伸筋のはたらきを理解する。
14回	実習⑤：筋電図	等張性運動時や等尺性運動時の筋電図を測定し、屈筋と伸筋のはたらきを理解する。
15回	発表会	生理学実習で取り組んだ内容について、グループ毎に発表する

成績評価	実習レポートの内容（90%）と発表の取り組み（10%）により評価します。総合で6割以上の場合に単位取得を認めます。なお、授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えることはできません。				
課題やレポートに関するフィードバック	フィードバックは講義時間内におこないます。				
使用教材 教科書	生理学実習NAVI 第3版 医歯薬出版株式会社 大橋敦子 生理学 第3版 医歯薬出版株式会社 内田さえ・原田玲子ほか				
オフィスアワー	授業前後および休み時間				

		作業療法学科 夜間部			
科目	機能解剖学 I	単位	1	コマ数	12
担当講師	小笹久志	学 年		1年生	
資格	作業療法士				

科目概要	解剖学（運動器）での骨、筋、神経および関節・靭帯を踏まえて関節運動を学び、関節可動域測定、徒手筋力検査に向けた機能的な学習を行う。脊柱、自由上肢帯（鎖骨から手指骨）の構造と機能、筋の付着部位や神経支配などを学習する。				
学習の留意点	身体機能を学習することで、身体障害分野の作業療法につながる基礎を学ぶために、解剖学の単語を読めるように覚える。 運動学や身体障害評価学 I で学ぶための基礎知識として、主に上肢・体幹の身体構造、組織の役割、機能、効果を覚える。 身体障害分野の作業療法では、対象者の身体に触れて治療を行うことがあるため、授業では骨模型に触れたり組み立てて、身体をイメージできるようになる。				
到達目標	解剖学の単語を読めるように覚える。 身体構造、組織の役割、機能、効果を覚える。 骨模型に触れたり組み立てて、身体をイメージできる。				
授業形態	講義			対面	
関連科目	解剖学	運動学	身体障害評価学 I		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	総論① 用語・関節	用語・関節を説明できる。
2回	総論② 関節分類・筋・神経	関節分類・筋・神経を説明できる。
3回	上肢 骨・関節形態	上肢の骨・関節形態を説明できる。
4回	上肢 関節・靭帯・運動	上肢の関節・靭帯・運動を説明できる。
5回	手・手指 関節・靭帯・運動	手・手指の関節・靭帯・運動を説明できる。
6回	上肢・手指 筋・作用	上肢・手指の筋・作用を説明できる。
7回	上肢・手指 腕神経叢・支配神経	上肢・手指の腕神経叢・支配神経を説明できる。
8回	上肢・手指 髄節レベル・皮膚分節	上肢・手指の髄節レベル・皮膚分節を説明できる。
9回	頭蓋・脊柱 骨・関節・靭帯	頭蓋・脊柱の骨・関節・靭帯を説明できる。
10回	脊柱・胸郭 骨・関節・靭帯	脊柱・胸郭の骨・関節・靭帯を説明できる。
11回	頭頸部・体幹 筋・運動	頭頸部・体幹の筋・運動を説明できる。
12回	胸郭 運動・呼吸	胸郭の運動・呼吸を説明できる。

成績評価	定期試験で6割以上を合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	定期試験の解答・回答用紙を開示。
使用教材教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版 野村 巖 編 医学書院 基礎運動学 第7版 著者 中村隆一 齋藤宏 長崎浩 医歯薬出版 新・徒手筋力検査法 原著第10版 [Web動画付] 著者 Dale Avers・Marybeth Brown 協同医学出版社
オフィスアワー	火、木、金 14:00～17:00位 教員室 もしくは G-mailで相談

		作業療法学科 夜間部			
科目	機能解剖学Ⅱ	単位	1	コマ数	12
担当講師	山田 慶	学 年		1年生	
資格	資格：作業療法士 実務経験：病院（身体障害分野）、通所リハ等 9年、教育機関 6年				

科目概要	特に下肢帯における、構造物とその機能、および筋の作用や起始停止、神経支配を学習する。		
学習の留意点	暗記が必要な科目です。暗記は「イメージを持つ」「反復して記憶する」が重要です。授業はこの2点が達成できるよう構成されていますので、授業内に暗記するためのワークを実践し、試験前学習でご自身の暗記の程度を確認するようにしましょう。		
到達目標	下肢帯における、構造物とその機能、および筋の作用や起始停止、神経支配について、学生自身が骨模型を使ったり、作画をしたりして説明することができる。 国家試験問題を解くことができる。		
授業形態	講義	対面	
関連科目	解剖学Ⅱ	機能解剖学Ⅰ	日常生活活動学
	日常生活活動学演習		

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	骨、筋、神経総論	骨、筋、神経の全体像が説明できる。
2回	骨の全体像把握	骨の絵が描ける。
3回	股関節の機能解剖学	股関節の構造や特徴が説明できる。
4回	膝関節の機能解剖学	膝関節の構造や特徴が説明できる。
5回	足関節の機能解剖学	足関節の構造や特徴が説明できる。
6回	股関節の神経、筋各論	股関節の神経と筋が説明できる。
7回	膝関節の神経、筋各論	膝関節の神経と筋が説明できる。
8回	足関節の神経、筋各論	足関節の神経と筋が説明できる。
9回	股関節、膝関節、足関節の機能解剖学	学習したことが説明できる
10回	筋各論演習①	暗記カードを作成する
11回	筋各論演習②	股関節の筋が説明できる。
12回	筋各論演習③	膝関節、足関節の筋が説明できる。

成績評価	小テストと定期試験の合計が60点以上を合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版 野村巖
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	運動学 I	単位	1	コマ数	15
担当講師	田中克一	学 年		1年生	
資格					

科目概要	「動作分析」や「作業分析」をする上で、その基礎となる人体の筋・関節の動きに関する知識について講義する。この科目は身体障害評価学等の授業科目にも繋がる内容となっている。		
学習の留意点	関節可動域測定や徒手筋力テストなどの評価を行う際、運動学的視点や関節運動、筋の理解は不可欠です。具体的なイメージが持てるよう学習します。		
到達目標	①「身体運動の表現方法」について説明できる ②「姿勢の分類」「人体の重心・重心線」「身体とてこ」について説明できる ③上肢の筋の起始・停止・作用について説明できる		
授業形態	講義	対面	
関連科目	解剖学	身体障害評価学 1	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション「第1章 運動学とは」	身体運動の表現方法について説明できる
2回	「第7章 姿勢」	「姿勢の分類について」「人体の重心・重心線について」説明できる
3回	「第2章 生体力学の基礎」	「身体とてこ」について説明できる
4回	「第4章 四肢と体幹の運動」	筋（肩関節）の起始、停止、作用について説明できる
5回		筋（肩関節）の起始、停止、作用について説明できる
6回		筋（肩関節）の起始、停止、作用について説明できる
7回		筋（肘関節）の起始、停止、作用について説明できる
8回		筋（肘関節）の起始、停止、作用について説明できる
9回		筋（肘関節）の起始、停止、作用について説明できる
10回		筋（手関節）の起始、停止、作用について説明できる
11回		筋（手関節）の起始、停止、作用について説明できる
12回		筋（手関節）の起始、停止、作用について説明できる
13回		筋（手指）の起始、停止、作用について説明できる
14回		筋（手指）の起始、停止、作用について説明できる
15回		筋（手指）の起始、停止、作用について説明できる

成績評価	小テスト3回（15%）期末テスト1回（85%）
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	基礎運動学 第7版 医歯薬出版株式会社 中村隆一ら
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	人間発達学	単位	1	コマ数	12
担当講師	大山 敬子	学 年		1年生	
資格	作業療法士				

科目概要	胎児期から高齢期までの人間の発達について学びます。各時期において、身体的機能・運動的機能・認知的機能・情緒的・社会的機能がどのような相互関係で発達するのかを学習します。		
学習の留意点			
到達目標	各時期についてまとめたプリントを配布し、プリントに沿って授業を進めていきます。		
授業形態	講義	対面授業	
関連科目			

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション 人間発達学とは・胎児期	人間発達学で何を学ぶ？発達概念の歴史変遷。
2回	胎児期：反射と反応	人間の発達には胎児期から始まっている 生きるための反射と反応
3回	新生児期	『出生から4週間目』の新生児の発達
4回	乳児期前半	『出生後4～8週』 『出生後2～5ヵ月』の2つの時期。
5回	乳児期後半	『出生後5～8ヵ月』 『出生後8～12ヵ月』の2つの時期。
6回	乳児期の摂食『離乳食』	哺乳から離乳食完了までの口腔機能の発達
7回	NATIONAL GEOGRAPHIC 「赤ちゃんの不思議etc」	1歳までの発達の振り返りとビデオでの学習
8回	幼児期前半（1歳台）	『12ヵ月～18ヵ月』 『18ヵ月～24ヵ月』の2つの時期。
9回	幼児期前半（2歳台）	『24ヵ月～30ヵ月』 『30ヵ月～36ヵ月』の2つの時期。
10回	幼児期後期（年少・年中）	『3歳代（幼少）』 『4歳代（年中）』の2つの時期。
11回	幼児期後期（就学期前の1年）	『5歳代（年長・就学前）』
12回	学童期	小学生の発達
13回	青年期	『前期：中学生・高校生』 『後期：18～22歳』の1つの時期。
14回	成人期	『前期：22～35歳』 『中期：35～50歳』 『後期：50～65歳』
15回	高齢期	『65歳～』人間は死ぬまで発達する？

成績評価	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を与えない
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材 教科書	コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 第3版
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	臨床心理学	単位	2	コマ数	15
担当講師	小野寺 哲夫	学 年	1年生		
資格	公認心理師・臨床心理士				

科目概要	臨床心理学は、医療専門職として臨床実践を行う際の基礎（コア）となる学問であるとの観点から、患者の心理、および心理学的ニーズを的確に把握し、患者と信頼関係を構築し、リハビリテーションを行っていく上で、臨床心理学の知識と対人援助スキルは必要不可欠である。この授業では、フロイト精神分析学における防衛機制や転移-逆転移の知識、ロジャーズのカウンセリング技法から認知行動療法や森田療法などの各種心理療法や各種心理検査法の知識について学んでいく。さらに、PT/OTの国家試験問題に対応できるように講義内容と要点に関しては、特に国家試験出題頻度の高い内容に絞り込んで行われるので、学生は試験に出る内容を効率よく修得することができる。		
学習の留意点	臨床心理学の授業では、臨床心理学全般について学んでいくが、PT/OTの国家試験に頻出する3領域（防衛機制、心理検査、心理療法）を中心にセレクトし、その分野にフォーカスして、対面型の講義形式で授業を行う。講義形式であるが、アクティブラーニングを意識し、心理テストの実施、ペアディスカッション、リアクションペーパーの毎回の実施などを取り入れて、学生の主体性や能動的参加を促進する。		
到達目標	①臨床心理学の4つのパラダイムの特徴について説明できる。 ②フロイト精神分析学理論、および防衛機制、転移-逆転移について説明できる。 ③心理検査の種類と代表的な心理検査の特徴について説明できる。 ④ロジャーズのカウンセリング技法について理解し、説明できる。 ⑤交流分析の概要と交流分析の5つの自我状態について説明できる。 ⑥認知行動療法の原理とその実践方法について説明できる。 ⑦森田療法・内観法の特徴、およびキーワードについて説明できる。 ⑧国家試験に出題される心理療法の種類と特徴について説明できる。		
授業形態	講義	対面	
関連科目	精神医学	作業療法評価学	作業療法治療学

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	臨床心理学の総論	臨床心理学の定義、科学者-実践家モデル、心理学と臨床心理学の違いについて説明できる。
2回	フロイト精神分析学の基礎	フロイトの学説や心の構造論における3つのパーツの特徴について説明できる。
3回	精神分析学における防衛機制	国家試験に頻出する防衛機制について説明できる。
4回	精神分析学における転移-逆転移	「転移」と「逆転移」の重要な要点について説明できる。
5回	心理検査の概論	心理検査の4つのカテゴリーの概要について説明できる。
6回	心理検査の応用	心理検査の性格検査の「投影法」と「神経心理学的検査」のカテゴリーについて説明できる。
7回	ロジャーズのカウンセリング理論	カール・ロジャーズの業績、自己理論、およびセラピストの3条件について説明できる。
8回	ロジャーズのカウンセリング技法	ロジャーズが提唱した「6つの傾聴技法」について説明・模倣できる。
9回	交流分析 (Transactional Analysis : TA)	エゴグラムを体験し、5つの自我状態の特徴について説明できる。
10回	認知行動療法 (CBT) の基礎	アロン・ベックの業績と認知行動療法 (CBT) の基本的な考え方について説明できる。
11回	認知行動療法 (CBT) の実際	「自動思考」、「スキーマ」、「認知の歪み」について説明できる。
12回	森田療法の基礎	森田正馬の生涯と森田療法の成り立ちについて説明できる。
13回	森田療法の実際	森田療法に関するキーワード（絶対臥褥、あるがまま受容、日記指導）について説明できる。
14回	内観療法	吉本伊信が創始した内観法の成り立ちと基本概念、および内観三問について説明できる。
15回	実存的心理療法 (ロゴセラピー)	フランクルの「生きる意味」の哲学とマズローの自己実現論との違い、およびロゴセラピーの基本概念について説明できる。

成績評価	期末レポート課題 (90%)、毎回のミニレポート課題 (10%) で評価する。
課題やレポートに関するフィードバック	毎回のミニレポート課題は、授業で学んだ内容について、感想や自分の意見、質問等を比較的自由に書いて提出する。毎回の授業において教科書は必ず使用する。
使用教材 教科書	PT・OTのための心理学・臨床心理学 JFAパブリッシング 小野寺哲夫
オフィスアワー	水曜日の夜間部授業前後（不在の場合はメールで相談してください）

		作業療法学科 夜間部			
科目	小児科学	単位	1	コマ数	8
担当講師	江添 隆範	学 年		1年生	
資格	小児科学会専門医 小児神経学会専門医 臨床遺伝専門医				

科目概要	小児の発達、発育を理解する。小児の保健（予防接種、健診など）を知る。小児に特有の疾患の病態、症状、診断と治療を学ぶ				
学習の留意点	講義は教科書を基礎に、重要と考えられる項目を講義で簡潔に説明する。講義中によく理解して、配布資料を復習するようにして下さい。				
到達目標	生後から幼児期までの発達、反射の変化を理解する。小児特有の疾患を理解する。				
授業形態	パワーポイントで作成したスライドで講義します。資料は、当日配布します。				
関連科目	生理学 I	人間発達学	脳性麻痺や筋ジストロフィー症の講義		

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	小児科学総論、小児保健	小児の発達、発育 反射の変化 予防接種等について理解する。
2回	新生児疾患、未熟児/先天異常・遺伝疾患	早産児、仮死、新生児期の疾患 染色体異常、遺伝子疾患の理解
3回	小児神経疾患	髄膜炎・脳炎脳症 脳形成異常 筋ジストロフィー症の理解
4回	小児神経疾患	てんかん、脳性麻痺、神経発達症（発達障害）
5回	循環器疾患/感染症	先天性心疾患 川崎病/先天感染性感染症 麻疹、水痘等の小児に多い感染症を学ぶ
6回	消化器疾患/内分泌・代謝疾患	小児に特有の消化器疾患/先天性の内分泌疾患、成長ホルモン分泌不全等の小児疾患を学ぶ
7回	血液・腫瘍疾患/腎疾患/アレルギー疾患	小児の血液疾患（白血病、血友病等）腎疾患（腎炎、ネフローゼ症候群）喘息やアトピー性皮膚炎などを学ぶ
8回	重症児者の病態/まとめ	重症心身障害の医療について知識を深める/講義のまとめ

成績評価	筆記試験
課題やレポートに関するフィードバック	講義の確認テストを単元のまとまりで数回実施し、復習する。試験の解説を講義中に実施
使用教材教科書	標準理学療法・作業療法学 小児科学 第6版
オフィスアワー	講義の前、早めに来校しています。質問があれば、講師控え室に来てください。

		作業療法学科 夜間部			
科目	精神医学	単位	2	コマ数	15
担当講師	河邊 宗知	学 年	1年生		
資格	作業療法士/公認心理師				

科目概要	理学療法の臨床においても、精神障害を持つ患者や、高齢期の患者は多く、基本的な精神医学の知識は必要であると思われる。また、理学療法士国家試験においても、問題数も多く必要な知識であるといえる。 1. 精神障害に対して、症状の特徴、経過、基本的知識を習得する。 2. 精神障害者を同じ社会で生きる人として、全人的に理解し、将来的にリハビリテーションを提供する臨床家としてかかわるために基本的知識を習得する		
学習の留意点	精神障害は障害による困難性が可視化されづらく、理解することが難しい傾向がある。 また、疾患の診断基準、症状、障害、生活上の困難性が多様である。 そのため以下のことに留意しながら受講していただきたい。 ① 精神医学の歴史的経緯の概要を説明することが出来る ② 主要な精神疾患の症状の名称、症状ごとの相違について概要を説明することが出来る ③-1 精神疾患の経過の概要について説明できる。 ③-2 障害当事者の生活上の困難さについて具体事例を説明できる。 授業内では、配布資料のほか、映像教材なども用いて、理解しやすいように実施する予定である。		
到達目標	一般目標 (GIO) 精神疾患について理解し、治療・援助を行うための基礎知識について理解する。 行動目標 (SBO) ① 精神医学の歴史および現状について説明することが出来る ② 主要な精神疾患の症状について説明することが出来る ③ 精神疾患の経過や治療、生活上の困難さについて説明できる		
授業形態	講義	対面	
関連科目	神経内科学 I	臨床心理学	

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	精神医学総論①	精神障害と診断基準（従来の診断法と操作的診断法：ICD、DSM）、精神医学の歴史、脆弱性ストレスモデル について説明できる
2回	精神医学総論②	精神機能の障害と精神症状（意識、注意、知能、パーソナリティ、記憶、感情、自我障害、知覚障害、思考障害、病識）について説明できる
3回	疾患論①	てんかん（分類法、症状について）について説明できる
4回	疾患論②	依存症（アルコール、その他の物質使用障害、嗜癖行動障害）について説明できる
5回	疾患論③	統合失調症①（主要な精神症状、精神症状の特徴）について説明できる
6回	疾患論④	統合失調症②（症状と生活障害、薬物療法・精神療法・リハビリテーション）について説明できる
7回	疾患論⑤	気分障害①（大うつ病）について説明できる
8回	疾患論⑥	気分障害②（双極性障害、その他の気分障害、薬物療法とリハビリテーション、リワークプログラムについて）説明できる
9回	疾患論⑦	神経症性障害①（不安、強迫、ストレス関連障害）について説明できる
10回	疾患論⑧	神経症性障害②（解離性障害、身体表現性障害、その他の神経症性障害、薬物療法と精神療法・リハビリテーション）について説明できる
11回	疾患論⑨	神経発達障害（自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、特異的学習症、発達協調運動症、発達過程における神経発達症の困難性について、治療・リハビリテーション）について説明できる
12回	疾患論⑩	パーソナリティ障害（パーソナリティ概説、ICD・DSMに基づく障害分類、治療・リハビリテーション）について説明できる
13回	疾患論⑪	生理的障害（摂食障害、睡眠障害ほか）、行動の障害、性の障害について説明できる
14回	疾患論⑫	器質性精神障害（認知症ほか身体疾患に伴う精神疾患・精神症状、薬物療法・リハビリテーション）について説明できる
15回	精神医学総論③	総括、精神科リハビリテーション、コンサルテーション・リエゾン精神医学、多職種連携、精神専門療法、作業療法との関連について説明できる

成績評価	講義内で教える基本的知識の評価（定期試験）80% 講義内で行う基本的知識の確認（小テスト）10% 授業の振り返りレポート10% 6割以上のものを合格とする
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項なし
使用教材教科書	精神医学第4版増補版 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野：医学書院 配布資料
オフィスアワー	授業後の時間にて対応する

		作業療法学科 夜間部			
科目	リハビリテーション医学概論 I	単位	2	コマ数	15
担当講師	草野 修輔	学 年		1年生	
資格	リハビリテーション専門医				

科目概要	この授業では、リハビリテーション概論に関する基本的知識を習得する。 各種社会的福祉制度、各種障害、補装具、リハビリテーション関連用語などについて理解する				
学習の留意点	各講義に即したミニテストを理解度の確認とする				
到達目標	リハビリテーションに関連する基本的概念、制度、障害評価、治療法などについて理解する				
授業形態	講義			対面授業	
関連科目					

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	リハビリテーションの概念・理念・定義	リハビリテーションの概念、歴史的変遷、理念、定義を理解する
2回	障害分類とリハビリテーションの種類	障害分類とリハビリテーションの種類について理解する
3回	リハビリテーション関連職種	リハビリテーション関連職種について理解する
4回	リハビリテーション関連用語	リハビリテーション関連用語について理解する
5回	ADL・IADL・QOL	ADL・IADL・QOLの概念と評価法について理解する
6回	物理療法	各種物理療法について理解する
7回	補装具・義肢装具・自助具	補装具・義肢装具・自助具について理解する
8回	急性期リハ・回復期リハ・生活期リハ	急性期リハ・回復期リハ・生活期リハについて理解する
9回	障害者総合支援法・地域包括ケアシステム・在宅医療	障害者総合支援法・地域包括ケアシステム・在宅医療について理解する
10回	社会福祉制度・介護保険	各種社会福祉制度・介護保険制度について理解する
11回	緩和医療・終末期医療	緩和医療・終末期医療について理解する
12回	運動障害・感覚障害・高次脳機能障害	運動障害・感覚障害・高次脳機能障害について理解する
13回	代表的疾患のリハビリテーション	代表的疾患のリハビリテーションについて理解する
14回	健康寿命の延伸	健康寿命の延伸について理解する
15回	総まとめ	総まとめ

成績評価	定期試験：筆記試験50%＋レポート課題50%
課題やレポートに関するフィードバック	各講義の最後に出題するミニテストについて、復習をかねて解答する
使用教材教科書	なし 参考書：医学生・コメディあるのための手引き書 リハビリテーション概論 田島文博 編著
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 夜間部			
科目	作業療法概論	単位	1	コマ数	15
担当講師	深瀬 勝久	学 年		1年生	
資格					

科目概要	作業療法について、今後4年間の学習の概要を理解する。今後学んでいくそれぞれの科目間の関連性についても理解し、動機づけを図る。作業療法についての定義、概念、哲学、歴史、MTDLPなどの理論、作業療法の職域、制度、対象疾患、評価と治療について学び、作業療法学生としての学習への興味、関心を醸成する				
学習の留意点	グループワークなどでの能動的な参加				
到達目標	作業療法を定義を用いて説明できる 作業療法の領域、流れ、歴史を理解できる 対象疾患について概ね理化する				
授業形態	講義		ハイフレックス		
関連科目					

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション・作業療法とは	作業療法の定義を用いて作業療法の説明ができる
2回	作業療法の流れ	作業療法の評価等について大まかに流れを理解する
3回	作業療法の歴史	歴史上の流れや法律、人名について理解する
4回	作業療法の領域	作業療法が展開される領域、法律について理解する
5回	対象疾患について（身体）	身体障害領域の疾患に関して理解する
6回	対象疾患について（身体）	身体障害領域の疾患に関して理解する
7回	対象疾患について（精神）	精神障害領域の疾患について理解する
8回	対象疾患について（発達）	発達障害領域の疾患について理解する
9回	作業療法の基礎理論	作業療法の理論について大まかに理解する
10回	生活行為向上マネジメント	生活行為向上マネジメントについて理解する
11回	身体障害の作業療法	身体障害領域の作業療法について理解する
12回	精神障害の作業療法	精神障害領域の作業療法について理解する
13回	発達障害の作業療法	発達障害領域の作業療法について理解する
14回	老年期障害の作業療法	老年期障害の作業療法について理解する
15回	まとめ	作業療法に関する定義、歴史、対象疾患、領域、基礎理論、流れを概ね理解する

成績評価	小テスト、授業内成果物、レポート50点、試験50点
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材 教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法概論 作業療法マニュアル 生活行為向上マネジメント 改定第4版
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	基礎作業学	単位	1	コマ数	12
担当講師	山下 高介	学 年	1年生		
資格	作業療法士, 中級パラスポーツ指導員				

科目概要	作業療法の中心概念である作業が、人々の健康や幸福にどのような関係にあるかについて講義や演習を実施します。演習では、専門的な知識の理解を促進するために、学生の生活における体験を題材として扱うように構成する。		
学習の留意点	知識は、実際に生活の中で使ってこそ定着します。この科目では、皆さんの生活の質を高める知識について講義します。今回は、理解を深めるためにその知識を活用した演習も含んでいます。学生のみなさまには、自らの生活がより良くなるために講義や演習を通して作業療法の知識に触れ、使うことに積極的であってほしいです。また、学習では忘れることは恥ずかしいことではありません。人間の記憶には限界があります。学習において、大切なのは忘れた時にどう対応するかです。ですので、毎回教科書を持ってくる、ノートをまとめ予習復習をすることを大切にしてください。		
到達目標	①作業療法理論を用いて、自身の作業と健康・幸福との関係を説明できる。 ②PEOモデルを用いて、自身の作業を分析することができる。 ③上記①、②をクラスメイトまたはペーパーケースに対して活用できる。		
授業形態	講義	ハイフレックス	
関連科目	各障害領域の評価学	各障害領域の治療学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーションと導入	・本授業の構成や評価方法について説明できる。 ・作業療法の定義について該当資料を示すことができる。
2回	作業と健康・幸福との関係	・d+3bにて、自身の作業体験を説明できる。 ・自身の生活をパーソナルプロジェクトに落とし込むことができる。
3回	その人の作業を理解するための知識	・ナラティブスローブを用いて、自身の人生を記載できる。 ・トランザクショナルモデルを用いて、自身の作業を記載してみる。
4回	作業としてのスポーツへの支援	・スポーツプレイヤーへ指導者として関わる際に求められる素質を列挙できる。
5回	作業（スポーツ）における安全管理	・スポーツで起こりうるリスクとその対応策について列挙できる。
6回	作業（スポーツ）と対象者	・パラスポーツ経験者の体験談を伺い、その人にとってのスポーツが生活に与えている影響を説明できる。
7回	作業分析と心身機能	・教科書や配布資料を用意して小テストを受ける。
8回	作業分析と遂行機能	・PEOについて、それぞれ要素の説明ができる。 ・自身の作業をPEOの要素に分けて記述できる。
9回	事例の分析演習②	・指定された事例を読み、第8回で学習した理論のワークシートに該当箇所を転記することができる。
10回	ケーススタディ①適応事例	・提示された事例の作業を、PEOモデルに沿って記述できる。
11回	ケーススタディ②不適応事例	・提示された事例の作業を、PEOモデルに沿って記述できる。
12回	ケーススタディ③総括	・適応事例と不適応事例を比較し、不適応事例に対してPEOモデルの視点から改善案を提案することができる。

成績評価	下記の構成で、60%以上を合格とする。 ①ポートフォリオの作成：10% ②演習課題：90%
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	作業療法の話をしよう～作業療法の力に気づくための歴史・理論・実践～ 医学書院 吉川 ひろみ
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	基礎作業療法学	単位	1	コマ数	12
担当講師	山下 高介	学 年	1年生		
資格	作業療法士, 中級パラスポーツ指導員				

科目概要	作業療法の中心概念である作業が、人々の健康や幸福にどのような関係にあるかについて講義や演習を実施します。演習では、専門的な知識の理解を促進するために、学生の生活における体験を題材として扱うように構成する。		
学習の留意点	知識は、実際に生活の中で使ってこそ定着します。この科目では、皆さんの生活の質を高める知識について講義します。今回は、理解を深めるためにその知識を活用した演習も含んでいます。学生のみなさまには、自らの生活がより良くなるために講義や演習を通して作業療法の知識に触れ、使うことに積極的であってほしいです。また、学習では忘れることは恥ずかしいことではありません。人間の記憶には限界があります。学習において、大切なのは忘れた時にどう対応するかです。ですので、毎回教科書を持ってくる、ノートをまとめ予習復習をすることを大切にしてください。		
到達目標	①作業療法理論を用いて、自身の作業と健康・幸福との関係を説明できる。 ②PEOモデルを用いて、自身の作業を分析することができる。 ③上記①、②をクラスメイトまたはペーパーケースに対して活用できる。		
授業形態	講義	ハイフレックス	
関連科目	各障害領域の評価学	各障害領域の治療学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーションと導入	・本授業の構成や評価方法について説明できる。 ・作業療法の定義について該当資料を示すことができる。
2回	作業と健康・幸福との関係	・d+3bにて、自身の作業体験を説明できる。 ・自身の生活をパーソナルプロジェクトに落とし込むことができる。
3回	その人の作業を理解するための知識	・ナラティブスローブを用いて、自身の人生を記載できる。 ・トランザクショナルモデルを用いて、自身の作業を記載してみる。
4回	作業としてのスポーツへの支援	・スポーツプレイヤーへ指導者として関わる際に求められる素質を列挙できる。
5回	作業（スポーツ）における安全管理	・スポーツで起こりうるリスクとその対応策について列挙できる。
6回	作業（スポーツ）と対象者	・パラスポーツ経験者の体験談を伺い、その人にとってのスポーツが生活に与えている影響を説明できる。
7回	作業分析と心身機能	・教科書や配布資料を用意して小テストを受ける。
8回	作業分析と遂行機能	・PEOについて、それぞれ要素の説明ができる。 ・自身の作業をPEOの要素に分けて記述できる。
9回	事例の分析演習②	・指定された事例を読み、第8回で学習した理論のワークシートに該当箇所を転記することができる。
10回	ケーススタディ①適応事例	・提示された事例の作業を、PEOモデルに沿って記述できる。
11回	ケーススタディ②不適応事例	・提示された事例の作業を、PEOモデルに沿って記述できる。
12回	ケーススタディ③総括	・適応事例と不適応事例を比較し、不適応事例に対してPEOモデルの視点から改善案を提案することができる。

成績評価	下記の構成で、60%以上を合格とする。 ①ポートフォリオの作成：10% ②演習課題：90%
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	作業療法の話をしよう～作業療法の力に気づくための歴史・理論・実践～ 医学書院 吉川 ひろみ
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	基礎作業学演習	単位	1	コマ数	15
担当講師	松生・田中	学 年		1年生	
資格	作業療法士				

科目概要	作業療法的手段として用いられるいくつかの種目に関して、具体的にその手順・工程を実習し、技法の基本（特性、必要な身体機能・精神機能、材料・器具の特徴と使用法など）を学ぶ。				
学習の留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者は単位を与えない。				
到達目標	籐細工の特徴、道具の使い方を理解し作品を作ることができる 革細工の特徴、道具の使い方を理解し作品を作ることができる				
授業形態	演習			対面授業	
関連科目					

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	籐細工①	籐細工の特徴を知る。道具の使い方など。
2回	籐細工②	作品づくり（コースター、かごなど）
3回	籐細工③	作品作り
4回	籐細工④	作品作り
5回	籐細工⑤	作品作り
6回	籐細工⑥	作品作り
7回	籐細工⑦	作品作り
8回	籐細工⑧	作品作り
9回	革細工①	革細工の特徴を知る。道具の使い方など。
10回	革細工②	作品づくり（コースター、財布など）
11回	革細工③	作品作り
12回	革細工④	作品作り
13回	革細工⑤	作品作り
14回	革細工⑥	作品作り
15回	革細工⑦	作品作り
16回	革細工⑧	作品作り

成績評価	作品提出（作品の出来、提出状況、レポート）
課題やレポートに関するフィードバック	授業時間内ならびに作品完成後に行う
使用教材 教科書	作業活動 実習マニュアル 第2版
オフィスアワー	・「月曜日午後（会議以外の時間）」またはメールで相談 ・上記以外でも空いている際はご相談ください

		作業療法学科 夜間部			
科目	身体障害評価学 I	単位	1	コマ数	15
担当講師	田中克一 ・ 山田慶	学 年		1年生	
資格					

科目概要	解剖学で学んだ骨格・筋系や、運動学で学んだ関節運動などの知識を基礎として、関節可動域測定と徒手筋力検査の解説、演習を行います。		
学習の留意点	関節可動域測定、徒手筋力測定を行うにあたり必要な基礎知識（骨・筋の名称、起始・停止・作用）の復習をしながら授業を進めます。また小テストを挟むなどして基礎知識の定着を計りながら演習授業を進めます。		
到達目標	①学生同士で関節可動域測定を実施できる ②学生同士で徒手筋力測定を実施できる。		
授業形態	演習	対面	
関連科目	解剖学Ⅱ	運動学Ⅰ・Ⅱ	機能解剖学Ⅰ・Ⅱ

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	身体障害作業療法における評価概論	身体障害領域の作業療法評価の目的や概要について説明できる
2回	講義 関節可動域測定の概要	関節可動域測定の概要を説明できる
3回	関節可動域測定（肩関節）	肩関節の関節可動域測定を実施できる
4回	関節可動域測定（肘・前腕・手関節）	肘・前腕・手関節関節の関節可動域測定を実施できる
5回	関節可動域測定（股関節）	股関節の関節可動域測定を実施できる
6回	関節可動域測定（膝・足関節）	膝・足関節の関節可動域測定を実施できる
7回	関節可動域測定	上下肢の関節可動域測定を実施できる
8回	徒手筋力検査の概要	徒手筋力検査の概要について説明できる
9回	徒手筋力測定（肩関節）	肩関節の徒手筋力測定ができる
10回	徒手筋力測定（肘・前腕・手関節）	肘・前腕・手関節の徒手筋力測定ができる
11回	徒手筋力測定（母指・手指関節）	母指・手指関節の徒手筋力測定ができる
12回	徒手筋力測定（股関節）	股関節の徒手筋力測定ができる
13回	徒手筋力測定（膝関節）	膝関節の徒手筋力測定ができる
14回	徒手筋力測定（足関節）	足関節の徒手筋力測定ができる
15回	徒手筋力測定	上下肢の徒手筋力測定ができる

成績評価	小テスト 20% 実技試験 40% 筆記試験 40% *実技試験では、身だしなみを含めて評価する（髪型、髪色、髭、化粧、匂い、服装、格好など）。
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材 教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版 編集 能登真一 医学書院 新・徒手筋力検査法 原著第10版 著者 Dale Avers, Marybeth Brown 共同医書出版社
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	運動学Ⅱ	単位	1	コマ数	15
担当講師	山田 慶	学 年		2年生	
資格	資格：作業療法士 実務経験：病院（身体障害分野）、通所リハ等 9年、教育機関 6年				

科目概要	この授業では運動学Ⅰで学習した生体力学や機能解剖学Ⅱで学習した下肢帯の構造や機能をもとに、下肢・体幹の運動に与える影響や歩行について学習する。さらに運動学習についても学習する。		
学習の留意点	下肢帯の筋や神経については以前の知識が土台となります。 忘れていた部分があれば事前に復習しておきましょう。 また、学習にあたってはご自身の身体を動かしながら理解を深めるようにしましょう。		
到達目標	下肢・体幹の各筋が人体のどのような動作に関与しているかを説明でき、国家試験問題が解ける。		
授業形態	講義	対面	
関連科目	運動学Ⅰ	機能解剖学Ⅱ	運動学実習
	日常生活活動学演習	0	0

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	運動学総論	関節の基本構造や機能を説明できる
2回	股関節の運動	股関節の運動の特徴が説明できる。
3回	膝関節の運動	膝関節の運動の特徴が説明できる。
4回	足関節の運動	足関節の運動の特徴が説明できる。
5回	頸椎の運動	頸椎の運動の特徴が説明できる。
6回	胸椎・胸部の運動	胸椎の運動の特徴が説明できる。
7回	腰椎の運動	腰椎の運動の特徴が説明できる。
8回	頭部の筋と運動	頭部の筋の特徴が説明できる。
9回	眼球の運動	眼球の運動と筋や神経支配が説明できる。
10回	歩行の運動学的分析	歩行周期が説明できる。
11回	歩行の運動力学的分析	歩行の運動学的特徴を説明できる。
12回	小児の歩行	小児の歩行の特徴を説明できる。
13回	高齢者の歩行	高齢者の歩行の特徴を説明できる。
14回	運動学習の諸理論	運動学習の諸理論が説明できる。
15回	練習と訓練	練習と訓練の概要を説明できる。

成績評価	小テストと定期試験の合計が60点以上を合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材 教科書	基礎運動学 第6版補訂 中村隆一他 医歯薬出版
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	運動学実習	単位	1	コマ数	15
担当講師	山田 慶	学 年		2年生	
資格	資格：作業療法士 実務経験：病院（身体障害分野）、通所リハ等 9年、教育機関 6年				

科目概要	解剖学、生理学、運動学の知識を用いて、ヒトの正常な基本動作がどのように成り立っているのか、また、「観察」「問題点の抽出」「支援方法の検討」といった「動作分析」の道筋を演習形式で学習する。		
学習の留意点	解剖学、運動学で学んだ骨格筋や姿勢の知識がベースとなります。皆さんが日頃から行っている基本的な動作がどのように成り立っているのか、疑問を持ちながら学習に取り組みましょう。		
到達目標	上下肢の筋の作用や神経支配を説明できる。 ヒトの基本動作を観察し文章にできる。 基本動作について学生自身が疑問を持って検討し、疑問を解決することができる。		
授業形態	演習	対面	
関連科目	運動学 I	運動学 II	日常生活活動学

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	四肢の筋の復習	四肢の筋の名称や位置が説明できる。
2回	上肢の筋の作用確認	上肢筋の作用が説明できる。
3回	上肢の筋の触診	上肢筋の触診ができる。
4回	下肢の筋の作用確認	下肢筋の作用が説明できる。
5回	下肢の筋の触診	下肢筋の触診ができる。
6回	上下肢の筋の知識の確認	上下肢の筋の名称、位置、作用、神経支配が説明できる。
7回	立位姿勢 演習①	教科書における立位姿勢が説明できる。
8回	立位姿勢 演習②	立位姿勢において実際のヒトと教科書に記載のある内容を比較し結果を説明できる。
9回	起立、着座の観察記録	正常なヒトの起立着座動作が記録できる。
10回	起立、着座の動作分析	正常なヒトの起立着座動作がどのような筋活動で成り立っているか説明できる。
11回	寝返り、起き上がりの観察記録	正常なヒトの寝返り、起き上がり動作が記録できる。
12回	寝返り、起き上がりの動作分析	正常なヒトの寝返り、起き上がり動作がどのような筋活動で成り立っているか説明できる。
13回	歩行 演習	歩行周期について正常なヒトの歩行を観察して説明できる。
14回	歩行分析	歩行時の筋活動が説明できる。
15回	基本動作ハンドリング練習	学習した基本動作の知識を用いて動作の誘導ができる。

成績評価	課題提出、小テスト、実技テスト、定期試験の合計が60点以上を合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材 教科書	基礎運動学 第6版補訂 中村隆一他 医歯薬出版
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	病理学概論	単位	1	コマ数	15
担当講師	白鳥 陽子	学 年		2年生	
資格	MD, PhD				

科目概要	病理学は基礎医学の一分野であり、臨床医学と密接に結びついています。実際に、病態の発生、進行、治療、予後に至るまでを分析することができます。病理学は、基礎医学と臨床医学をつなぐ架け橋となる学問です。本授業では、疾患の原因や病態を説明し、病理学を正しく理解した上で、病理学的な思考を身につけることを目的として解説します。				
学習の留意点	試験の出題範囲については、教科書で学んだ内容と国家試験の必須ポイント内です。毎回の授業では教科書を必ず使用することです。				
到達目標	国家試験に出題される範囲内での病理学の基本的な知識を理解する。				
授業形態	講義			対面	
関連科目	生理学 I				

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	病理学概要、病因論 退行性病変 進行性病変	病理学の概念、診断病理、実験病理について理解する。疾病の外因・内因を理解する。変性、萎縮、壊死、アポトーシス、肥大、過形成、化生、異型性及び再生について学ぶ
2回	代謝障害	生命を維持するための代謝及び代謝異常により引き起こされる病態について学ぶ
3回	循環障害 炎症・感染症	血液循環の基礎、循環障害の病因・病態について理解する。炎症の経過と生体の反応を理解する
4回	腫瘍	腫瘍の特徴、命名と分類、形態、悪性腫瘍の進展形式を学ぶ。進行度、発生原因と発がんメカニズムを学ぶ
5回	先天異常・奇形	遺伝性疾患、染色体異常と奇形の基礎を学ぶ
6回	循環器	心臓の疾患や血管の疾患を学ぶ
7回	呼吸器	肺や胸膜にみられる疾患、腫瘍を学ぶ
8回	神経系・運動器	脳血管障害、中枢神経系の感染症、脱髄疾患の病理学変化を学ぶ。主要な神経変形疾患の病理学的変化を学ぶ。骨、軟骨、関節、筋肉の疾患について学ぶ

成績評価	出席状況、中間テスト、定期試験を通して総合的に評価する予定				
課題やレポートに関するフィードバック	特になし				
使用教材教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第五版				
オフィスアワー	授業前後の休憩時間				

		作業療法学科 夜間部			
科目	内科学・老年学 I	単位	2	コマ数	15
担当講師	草野 修輔	学 年		2年生	
資格	医師				

科目概要	リハビリテーションの対象となる患者は内部障害者の他に、多数の内科学疾患を合併している患者さんが多く、内科学疾患の理解がないと適切なリハビリテーションが実施できないことや、現在のチーム医療という観点からも内科学疾患の理解が必要である。内科学全般にわたり、病態、症候、検査、治療について主にスライドを利用した講義、国試過去問を利用して理解を深める。				
学習の留意点	各講義に即したミニテストを理解度の確認とする				
到達目標	主要な内科学疾患の病態、症候、検査、治療について理解し、説明できる。				
授業形態	講義			対面授業	
関連科目					

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	内科学総論 1	内科学の歴史的背景、内科学の専門分化、最近の内科学の変遷、診断と治療 カルテの取扱いに関する事項
2回	内科学総論2	診察法・症状・治療・臨床検査
3回	内科学総論3	症候学（発熱、全身倦怠感、食欲不振、悪心・嘔吐、易感染性など）
4回	循環器 総論	循環器系の解剖と生理、循環器疾患の主要な症候、循環器疾患の診断法
5回	循環器 各論 1	高血圧症、低血圧症、虚血性心疾患
6回	循環器 各論 2	心筋疾患、弁膜症、先天性心疾患、心不全
7回	循環器 各論 3	不整脈、肺性心、大動脈疾患、末梢血管疾患
8回	呼吸器 総論	肺の解剖と生理、呼吸器疾患の症候とその病態生理、臨床検査所見
9回	呼吸器 各論 1	感染性肺疾患、肺結核、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息
10回	呼吸器 各論 2	拘束性肺疾患、肺腫瘍
11回	呼吸器 各論 3	サルコイドーシス、ウェゲナー肉芽腫、肺循環障害、胸膜疾患、横隔膜疾患、呼吸異常
12回	消化器 総論	消化器の解剖と生理、消化器疾患の症候と病態生理、消化器疾患の診断法
13回	消化器 各論 1	口腔疾患、食道疾患、胃疾患
14回	消化器 各論 2	小腸・大腸疾患、肛門疾患
15回	前期のまとめ	前期講義のまとめ

成績評価	定期試験：筆記試験50%＋レポート課題50%
課題やレポートに関するフィードバック	ミニテストがある講義では、まとめとしてミニテストを提示するが、理解度のチェックと復習にも活用する。
使用教材 教科書	なし
オフィスアワー	授業時間前後で質問に応じます。

		作業療法学科 夜間部			
科目	内科学・老年学Ⅱ	単位	2	コマ数	15
担当講師	草野 修輔	学 年		2年生	
資格	医師				

科目概要	リハビリテーションの対象となる患者は内部障害者の他に、多数の内科学疾患を合併している患者さんが多く、内科学疾患の理解がないと適切なリハビリテーションが実施できないことや、現在のチーム医療という観点からも内科学疾患の理解が必要である。内科学全般にわたり、病態、症候、検査、治療について主にスライド利用した講義、国試過去問を利用して理解を深める。				
学習の留意点	各講義に即したミニテストを理解度の確認とする				
到達目標	主要な内科学疾患の病態、症候、検査、治療について理解し、説明できる。				
授業形態	講義			対面授業	
関連科目					

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	肝胆膵疾患	肝胆膵腹膜の解剖と生理、検査法、肝胆疾患、膵疾患、腹膜疾患
2回	血液・造血器疾患	血液の成分と生理、症候、検査法、赤血球系疾患、白血球系疾患、出血性疾患、血栓性疾患など
3回	代謝性疾患	代謝・栄養の異常総論、糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドローム、アミロイドーシス、高尿酸血症など
4回	内分泌疾患	内分泌総論、下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患など
5回	腎・泌尿器疾患	腎の解剖と生理、腎不全、糸球体疾患、尿細管疾患、尿路系疾患、前立腺疾患など
6回	膠原病 1	膠原病の診断と治療、SLE
7回	膠原病 2	関節リウマチ、多発性筋炎・皮膚筋炎、強直性脊椎炎、シェーグレン症候群、ベーチェット病など
8回	アレルギー・免疫疾患	アレルギー・免疫のメカニズム、アレルギー疾患、免疫不全症など
9回	骨・運動器疾患	骨粗鬆症、ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイルなど
10回	神経疾患	神経系の構造と老化、脳血管障害、パーキンソン病、末梢神経障害、頭部外傷など
11回	認知症・精神疾患	認知症、うつ病など
12回	高齢者の介護と在宅医療	尿路系疾患、前立腺疾患、電解質代謝の異常
13回	緩和医療・終末期医療	緩和医療と終末期医療
14回	健康寿命の延伸	健康寿命の延伸
15回	後期授業のまとめ	後期授業のまとめ

成績評価	定期試験：筆記試験50%＋レポート課題50%	
課題やレポートに関するフィードバック	講義内容に則したミニテストを行うことで理解度をチェックする。また復習の確認にも用いてもらう。	
使用教材教科書	なし	
オフィスアワー	授業時間前後で質問に応じます。	

		作業療法学科 夜間部			
科目	整形外科学 I	単位	2	コマ数	15
担当講師	武内 俊次	学 年		2年生	
資格	医師				

科目概要	整形外科学は、上肢、下肢、体幹の運動器官を専門に扱う科で、骨、関節、筋肉、神経などが関係する分野である。骨折や捻挫などの外傷と、変形性関節症や関節リウマチなど、さまざまな疾患がある。これら運動器の外傷や疾患の治療には、リハビリテーションに関わる理学療法士、作業療法士、などの参加が極めて重要である。				
学習の留意点	前期では、整形外科学の概論から、主に骨疾患、関節リウマチ等の講義を行う。				
到達目標	整形外科学の講義、前期、後期を通じて、疾患、障害を理解して、治療手段につなげる能力を学ぶ				
授業形態	講義			対面授業	
関連科目	解剖学 I				

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	骨疾患①	骨折について理解を深める
2回	骨疾患①	骨折について説明できる
3回	骨疾患②	骨折の治療について理解を深める
4回	骨疾患②	骨折の治療について説明できる
5回	骨疾患③	偽関節と骨壊死について理解を深める
6回	骨疾患③	偽関節と骨壊死について説明できる
7回	変形性関節症①	変形性関節症について理解を深める
8回	変形性関節症②	変形性関節症について理解を深める
9回	変形性関節症③	変形性関節症について説明できる
10回	関節リウマチ①	関節リウマチの診断について説明できる
11回	関節リウマチ②	関節リウマチの評価について説明できる
12回	関節リウマチ③	関節リウマチの治療について説明できる
13回	関節リウマチ④	関節リウマチの類縁疾患について説明できる
14回	軟骨・関節の疾患、その他	軟骨・関節の疾患について説明できる
15回	靭帯の外傷・疾患	靭帯の外傷・疾患について説明できる

成績評価	筆記試験100%
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項なし
使用教材 教科書	はじめての講義 リハビリテーションのための整形外科学の歩き方
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 夜間部			
科目	整形外科Ⅱ	単位	2	コマ数	15
担当講師	武内 俊次	学 年		2年生	
資格	医師				

科目概要	整形外科は、上肢、下肢、体幹の運動器を専門に扱う科で、骨、関節、筋肉、神経などが関係する分野である。骨折や捻挫などの外傷と、変形性関節症や関節リウマチなど、さまざまな疾患がある。これら運動器の外傷や疾患の治療には、リハビリテーションに関わる理学療法士、作業療法士、などの参加が極めて重要である。				
学習の留意点	後期では、神経系の疾患や外傷、および小児整形などの特殊な項目の講義を行う。				
到達目標	整形外科の講義、前期、後期を通じて、疾患、障害を理解して、治療手段につなげる能力を学ぶ				
授業形態	講義			対面授業	
関連科目	解剖学Ⅰ				

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	腱の外傷・疾患	腱の外傷・疾患について説明できる
2回	筋肉の外傷・疾患	筋肉の外傷・疾患について説明できる
3回	末梢神経①	絞扼性神経障害について理解を深める
4回	末梢神経①	絞扼性神経障害について理解を深める
5回	末梢神経①	絞扼性神経障害について理解を深める
6回	末梢神経①	絞扼性神経障害について説明できる
7回	末梢神経②	神経根の障害について理解を深める
8回	末梢神経②	神経根の障害について理解を深める
9回	末梢神経②	神経根の障害について説明できる
10回	脊髄疾患①	脊髄疾患について理解を深める
11回	脊髄疾患②	脊髄疾患について理解を深める
12回	脊髄疾患③	脊髄疾患について説明できる
13回	小児整形外科①	小児整形外科について理解を深める
14回	小児整形外科②	小児整形外科について説明できる
15回	切断	切断について説明できる

成績評価	筆記試験100%
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項なし
使用教材 教科書	はじめての講義 リハビリテーションのための整形外科の歩き方
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 夜間部			
科目	神経内科学 I	単位	2	コマ数	15
担当講師	草野 修輔	学 年		2年生	
資格	リハビリテーション専門医				

科目概要	リハビリテーション医療における神経内科疾患としては、脳卒中、変性性疾患、感染性疾患、腫瘍性疾患など多くの神経系疾患がある。リハビリテーション医療に必要な神経内科領域の知識として、各種疾患だけでなく、解剖学的基礎知識、画像診断学、評価技術などについて理解を深めてもらう。				
学習の留意点	各講義に即したミニテストを理解度の確認とする				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経疾患の理解の基礎となる神経系の解剖・生理について説明できる。</li> <li>2. 神経疾患の診断に必要な画像診断について、その仕組みと実際の画像診断について説明できる。</li> <li>3. 各種神経疾患について、病態、症状、診断法、治療法などについて説明できる。</li> <li>4. 神経疾患の診断、障害の評価などについての評価技術を習得できる。</li> </ol>				
授業形態	講義			対面授業	
関連科目					

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	神経疾患の解剖生理	神経系統の解剖生理について理解する。
2回	神経診断学 1	自律神経系、脳神経系、反射について理解する。
3回	神経診断学 2	運動障害・感覚障害について理解する。
4回	神経診断学 3	高次脳機能障害について理解する。
5回	神経診断学 4	脳波、電気生理学的診断法、画像診断法について理解する。
6回	脳血管障害 1	脳血管障害の分類、画像診断について理解する。
7回	脳血管障害 2	脳血管障害の治療、リハビリテーション、予後について理解する。
8回	感染症、腫瘍性疾患	神経系の感染症、腫瘍性疾患について理解する。
9回	変性性疾患	代表的な変性性疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症）について理解する。
10回	脱髄性疾患、ニューロパチー	代表的な脱髄性疾患（多発性硬化症他）・末梢神経障害について理解する。
11回	筋疾患	筋炎、筋ジストロフィー、重症筋無力症などについて理解する。
12回	運動ニューロン疾患、内科的疾患	代表的な運動ニューロン疾患（ALS、SPMAなど）、内科的疾患について理解する。
13回	てんかん、頭痛、頭部外傷他	てんかん、頭痛、頭部外傷などについて理解する。
14回	認知症	認知症の種類、症状、診断、リハビリテーションなどについて理解する。
15回	脳性麻痺、二分脊椎、廃用症候群	脳性麻痺、二分脊椎、廃用症候群について理解する。

成績評価	定期試験：筆記試験50%＋レポート課題50%
課題やレポートに関するフィードバック	授業内容について質問があれば、直接あるいは担任を通じて随時対応していく。
使用教材 教科書	なし
オフィスアワー	原則として講義日に約60分のオフィスアワーを設ける

		作業療法学科 夜間部			
科目	神経内科学Ⅱ	単位	2	コマ数	15
担当講師	草野 修輔	学 年		2年生	
資格	リハビリテーション専門医				

科目概要	リハビリテーション医療における神経内科疾患としては、脳卒中、変性性疾患、感染性疾患、腫瘍性疾患など多くの神経系疾患がある。リハビリテーション医療に必要な神経内科領域の知識として、各種疾患だけでなく、解剖学的基础知識、画像診断学、評価技術などについて理解を深めてもらう。				
学習の留意点	各講義に即したミニテストを理解度の確認とする				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経疾患の理解の基礎となる神経系の解剖・生理について説明できる。</li> <li>2. 神経疾患の診断に必要な画像診断について、その仕組みと実際の画像診断について説明できる。</li> <li>3. 各種神経疾患について、病態、症状、診断法、治療法などについて説明できる。</li> <li>4. 神経疾患の診断、障害の評価などについての評価技術を習得できる。</li> </ol>				
授業形態	講義		対面授業		
関連科目					

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	変性性疾患 1	パーキンソン病について理解する。
2回	変性性疾患 2	脊髄小脳変性症について理解する。
3回	脱髄性疾患	脱髄性疾患（多発性硬化症、視神経脊髄炎）について理解する。
4回	ニューロパチー	ニューロパチーについて理解する。
5回	筋ジストロフィー	筋ジストロフィーについて理解する。
6回	筋炎、重症筋無力症 他	筋炎、重症筋無力症、筋無力症候群、他について理解する。
7回	運動ニューロン疾患	運動ニューロン疾患（ALS、SPMAなど）について理解する。
8回	内科的疾患に伴う神経障害	内科的疾患に伴う神経障害について理解する。
9回	てんかん、頭痛、ナルコレプシー、CRP	てんかん、頭痛、ナルコレプシー、CRPについて理解する
10回	頭部外傷	頭部外傷について理解する。
11回	認知症	認知症の分類、症状、リスクファクター、リハビリテーションについて理解する。
12回	小児神経疾患	脳性麻痺、二分脊椎について理解する。
13回	廃用症候群	廃用症候群について理解する。
14回	脊髄疾患	脊髄疾患について理解する。
15回	後期総まとめ	後期の総まとめ

成績評価	定期試験：筆記試験50%＋レポート課題50%
課題やレポートに関するフィードバック	授業内容について質問があれば、直接あるいは担任を通じて随時対応していく。
使用教材教科書	なし
オフィスアワー	原則として講義日に約60分のオフィスアワーを設ける

		作業療法学科 夜間部			
科目	リハビリテーション医学概論Ⅱ	単位	2	コマ数	15
担当講師	草野 修輔	学 年		2年生	
資格	リハビリテーション専門医				

科目概要	この授業では、リハビリテーション概論に関する基本的知識を習得する。 各種社会的福祉制度、各種障害、補装具、リハビリテーション関連用語などについて理解する				
学習の留意点	各講義に即したミニテストを理解度の確認とする				
到達目標	リハビリテーションに関連する基本的概念、制度、障害評価、治療法などについて理解する				
授業形態	講義			対面授業	
関連科目					

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	リハビリテーションの概念・理念・定義	リハビリテーションの概念、歴史の変遷、理念、定義を理解する
2回	障害分類とリハビリテーションの種類	障害分類とリハビリテーションの種類について理解する
3回	リハビリテーション関連職種	リハビリテーション関連職種について理解する
4回	リハビリテーション関連用語	リハビリテーション関連用語について理解する
5回	ADL・IADL・QOL	ADL・IADL・QOLの概念と評価法について理解する
6回	物理療法	各種物理療法について理解する
7回	補装具・義肢装具・自助具	補装具・義肢装具・自助具について理解する
8回	急性期リハ・回復期リハ・生活期リハ	急性期リハ・回復期リハ・生活期リハについて理解する
9回	障害者総合支援法・地域包括ケアシステム・在宅医療	障害者総合支援法・地域包括ケアシステム・在宅医療について理解する
10回	社会福祉制度・介護保険	各種社会福祉制度・介護保険制度について理解する
11回	緩和医療・終末期医療	緩和医療・終末期医療について理解する
12回	運動障害・感覚障害・高次脳機能障害	運動障害・感覚障害・高次脳機能障害について理解する
13回	代表的疾患のリハビリテーション	代表的疾患のリハビリテーションについて理解する
14回	健康寿命の延伸	健康寿命の延伸について理解する
15回	総まとめ	総まとめ

成績評価	定期試験：筆記試験50%＋レポート課題50%
課題やレポートに関するフィードバック	各講義の最後に出題するミニテストについて、復習をかねて解答する
使用教材 教科書	なし 参考書：医学生・コメディあるのための手引き書 リハビリテーション概論 田島文博 編著
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 夜間部			
科目	地域実習セミナー	単位	1	コマ数	15
担当講師	松生	学 年		2年生	
資格	作業療法士：病院・老人保健施設12年、教育分野20年				
科目概要	地域における施設の役割や機能、その中で働く作業療法士の業務を知ることにより、知識習得への動機づけを行うとともに、作業療法士としての基本的態度の獲得を目指す。				
学習の留意点	学生が自ら疑問に思い気づきを持てるような課題の提供を行っていきます。また、プレゼンを行うことによりアウトプットによる他者への伝達能力も養うような働きかけ授業の中で行っていきます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実習を通して臨床現場で基本的な態度を学ぶため、心構えを作る。</li> <li>○訪問リハ、通所リハの機能、役割を理解する。</li> <li>○訪問リハ、通所リハで働くOTの役割を理解する。</li> <li>○地域リハに必要な資源を考察できる。</li> </ul>				
授業形態	実習			対面	
関連科目	地域作業療法 I	地域作業療法 II	老年期治療学		

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション	地域実習について理解する。
2回	生活行為向上マネジメント	生活行為向上マネジメントの理解及びシート作成が行える。
3回	生活行為向上マネジメント	生活行為向上マネジメントの理解及びシート作成が行える。
4回	演習 (PBL)	グループとして、ペーパー・ペイシエントに対する検討・考察ができる。
5回	演習 (PBL)	グループとして、ペーパー・ペイシエントに対する検討・考察ができる。
6回	演習 (PBL)	グループとして、ペーパー・ペイシエントに対する検討・考察ができる。
7回	演習 (PBL)	グループとしてペーパー・ペイシエントに対する検討・考察ができる。
8回	演習	グループとして、ペーパー・ペイシエントに対する考察・検討を行った上で、全体に発表することができる。
9回	事前学習	実習施設の事前調べ学習に伴い、施設の役割・機能などについて概要を知ることができる。
10回	事前学習	実習施設の事前調べ学習に伴い、施設の役割・機能などについて概要を知ることができる。
11回	事前学習	実習施設の事前調べ学習に伴い、施設の役割・機能などについて概要を知ることができる。
12回	事前学習	実習施設の事前調べ学習に伴い、施設の役割・機能などについて概要を知ることができる。
13回	実習の報告	実習後の報告資料を作成することができる。
14回	実習の報告	作成した実習報告資料を発表できる。また、発表者に対して質問等が行える。
15回	実習の報告	作成した実習報告資料を発表できる。また、発表者に対して質問等が行える。

成績評価	グループ学習、個人調べ学習、発表用レポートなどを合算し、トータル60点以上を合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材 教科書	担当者からその都度資料を配付します。
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	作業療法管理学	単位	2	コマ数	15
担当講師	深瀬 勝久	学 年		2年生	
資格					
科目概要	作業療法に関連する法律、医療制度、介護保険制度、作業療法教育、感染予防含むリスク管理、他職種連携について学ぶ。前記内容は臨床実習においては必須の知識となる。				
学習の留意点	社会情勢や各々の経験なども交えて講義を進めるため、積極的、能動的な授業参加を求める				
到達目標	保険制度について説明できる 関連の法律について説明できる 臨床実習におけるリスク管理を理解する				
授業形態	講義		ハイフレックス		
関連科目	作業療法概論	臨床実習			

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション・関係法規	管理学の学習目標を理解する
2回	保険制度について	保険制度について理解する
3回	医療保険について	医療保険制度について理解する
4回	介護保険について	介護保険制度について理解する
5回	障害者総合支援法について	障害者総合支援法全般について理化する
6回	障害者総合支援法について	職業関連、予防などについて理解する
7回	職業倫理	作業療法の倫理綱領を理解する
8回	職業倫理	医療における職業倫理を学ぶ
9回	労務管理	医療施設などの労務管理を理解する
10回	労務管理	医療における多職種連携を理解する
11回	医学教育と卒後教育	医学教育と卒後教育について理解する
12回	医学教育と卒後教育	作業療法の産学連携教育、登録、認定などについて理解する
13回	リスク管理・感染症対策	実習を見据えてリスク管理について理解する
14回	リスク管理・感染症対策	感染症対策について学ぶ
15回	まとめ	振り返りを行い知識を確認する

成績評価	授業内課題、定期試験それぞれ50点、6割以上で合格とする
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材 教科書	リハビリテーション管理学 能登真一他 医学書院
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	身体障害評価学Ⅱ	単位	2	コマ数	24
担当講師	松生	学 年	2年生		
資格	作業療法士：病院・老人保健施設12年、教育分野20年				

科目概要	身体障害分野（主に脳血管障害）における作業療法の実践課程の中で対象者に治療・目標立案・プログラムを決めるために前提として作業療法評価を行い、情報を得る必要がある。その作業療法評価に必要な面接・観察・検査・測定などの基本的技能や知識を身につけるため、この授業では「身体障害評価学Ⅰ」の延長として、感覚検査、反射検査、筋緊張検査、片麻痺機能検査などの知識・技術を『講義』『演習』を通して学ぶ。		
学習の留意点	対象者に応じた検査・測定の選択はもちろんのこと、実施上の配慮や留意点を考えながら行えるよう、意識してください。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作業療法における評価の意義を説明できる</li> <li>○作業療法の評価の目的と手順について、それぞれ具体的に述べるができる</li> <li>○作業療法評価において各検査・測定の概要の説明、検査実施ができる。</li> </ul>		
授業形態	実習	対面	
関連科目	身体障害評価学Ⅰ	身体障害評価学演習	身体障害治療学演習

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	「オリエンテーション」「意識障害の評価」	意識障害の評価「JCS」「GCS」での評価法を習得する。
2回	バイタルサインの評価	呼吸・脈拍・血圧・体温を適切に測る（評価）できるようになる。
3回	感覚検査	表在感覚、深部感覚、複合感覚の検査の意義について理解し、適切に実践できる。
4回	感覚検査	表在感覚、深部感覚、複合感覚の検査の意義について理解し、適切に実践できる。
5回	反射検査	深部腱反射、病的反射の意義を理解し、適切な検査の実施ができる。
6回	反射検査	深部腱反射、病的反射の意義を理解し、適切な検査の実施ができる。
7回	姿勢反射検査	立ち直り反応、平衡反応の意義を理解し、その反応を観察、評価することができる。
8回	協調性検査	協調性検査の意義を理解し、適切に検査を実施できる。
9回	協調性検査	協調性検査の意義を理解し、適切に検査を実施できる。
10回	脳神経検査	脳神経検査について意義を理解し、適切に検査の実施ができる。
11回	脳神経検査	脳神経検査について意義を理解し、適切に検査の実施ができる。
12回	片麻痺機能検査（上肢BRS）	上肢のBRSの意義を理解し、適切な評価を行える。
13回	片麻痺機能検査（下肢BRS）	下肢のBRSの意義を理解し、適切な評価を行える。
14回	片麻痺機能検査（手指BRS）	手指のBRSの意義を理解し、適切な評価を行える。
15回	片麻痺機能検査（上田による12段階法：上肢）	上田による12段階法を理解し、上肢の評価ができる。
16回	片麻痺機能検査（上田による12段階法：下肢）	上田による12段階法を理解し、下肢の評価ができる。
17回	片麻痺機能検査（上田による12段階：手指）	上田による12段階法を理解し、手指の評価ができる。
18回	上肢機能検査（STEF）	STEFの検査方法・対象者を理解し、適切に実施できる。
19回	上肢機能検査（MFT）	MFTの検査方法・対象者を理解し、適切に実施できる。
20回	脳卒中片麻痺患者（模擬患者）に対する検査・測定の実技演習	脳卒中片麻痺患者に対する全般的な検査・測定を健常者に実施することができる。
21回	脳卒中片麻痺患者（模擬患者）に対する検査・測定の実技演習	脳卒中片麻痺患者に対する全般的な検査・測定を健常者に実施することができる。
22回	脳卒中片麻痺患者（模擬患者）に対する検査・測定の実技演習	脳卒中片麻痺患者に対する全般的な検査・測定を健常者に実施することができる。
23回	脳卒中片麻痺患者（模擬患者）に対する検査・測定の実技演習	脳卒中片麻痺患者に対する全般的な検査・測定を健常者に実施することができる。
24回	脳卒中片麻痺患者（模擬患者）に対する検査・測定の実技演習	脳卒中片麻痺患者に対する全般的な検査・測定を健常者に実施することができる。

成績評価	ミニテスト20%、定期試験（筆記試験）80%で総合評価します。その上で、60点以上を合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	授業内、授業後、その他適宜メールでも受け付けます。
使用教材 教科書	「標準作業療法学 身体障害評価学 第4版」編集 能登真一 医学書院 「ベッドサイドの神経の診かた 改訂第18版」田崎義昭、斎藤佳雄 著 南山堂 その他、担当教員から資料配布
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	身体障害評価学演習	単位	2	コマ数	23
担当講師	小笹久志	学 年	2年生		
資格	作業療法士				

科目概要	身体障害分野の作業療法提供の全体の流れを確認するため、作業療法評価および治療の演習を行う。 講義内では障害像を再確認し、作業療法評価の評価および治療を学ぶ。		
学習の留意点	この講義では、各疾患別の評価および治療を説明するため、作業療法評価学などで学んだ検査・測定 の理解が必須となる。そのため、すでに履修している作業療法評価学の予習・復習をしておくこ とが望ましい。		
到達目標	各障害の障害像や状態を理解する。 各障害における評価の意義・目的を理解する。 各障害における目標設定や治療内容を理解する。		
授業形態	演習	対面	
関連科目	解剖学	生理学	機能解剖学
	運動学	身体障害評価学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	身体障害評価学 演習概論	演習概論について説明できる
2回	外部講師①	講義内容を説明できる。
3回	外部講師②	講義内容を説明できる。
4回	外部講師③	講義内容を説明できる。
5回	外部講師④	講義内容を説明できる。
6回	身体障害評価演習	身体障害評価が実施できる。
7回	作業療法評価演習	作業療法評価が実施できる。
8回	評価演習①ROM・MMT・片麻痺機能検査	身体障害評価①を実施できる。
9回	評価演習②感覚検査・筋緊張検査	身体障害評価②を実施できる。
10回	評価演習③反射検査・姿勢反射検査	身体障害評価③を実施できる。
11回	評価演習④協調性検査・脳神経検査	身体障害評価④を実施できる。
12回	作業療法の実践課程 ICF	作業療法の実践課程を説明できる。
13回	作業療法の実践課程 演習	作業療法の実践課程演習を実施できる。
14回	関節可動域測定の評価	関節可動域測定の評価を実施できる。
15回	関節可動域制限の対処	関節可動域制限の対処を実施できる。
16回	徒手筋力検査の評価	徒手筋力検査の評価を実施できる。
17回	筋力低下の対処	筋力低下の対処を実施できる。
18回	感覚検査・筋緊張検査の評価	感覚検査・筋緊張検査の評価を実施できる。
19回	感覚障害・筋緊張異常の対処	感覚障害・筋緊張異常の対処を実施できる。
20回	筋緊張検査・協調性検査の評価	筋緊張検査・協調性検査の評価を実施できる。
21回	筋緊張異常・協調性障害の対処	筋緊張異常・協調性障害の対処を実施できる。
22回	ケーススタディの評価 考察	ケーススタディの評価を実施できる。
23回	ケーススタディの対処 演習	ケーススタディの対処を実施できる。

成績評価	定期試験で6割以上を合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	定期試験の解答・回答用紙を開示。
使用教材 教科書	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 編集 能登 真一 他 医学書院 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版 編集 山口 昇 他 医学書院 作業療法全書 改定第3版 第4巻 作業治療学1 身体障害 編集 菅原洋子 協同医書出版社 新・徒手筋力検査法 原著第10版 [Web動画付] 著者 Dale Avers・Marybeth Brown 協同医 書出版社
オフィスアワー	火、木、金 14:00～21:00 教員室 もしくは G-mailで相談

		作業療法学科 夜間部			
科目	精神障害評価学	単位	1	コマ数	15
担当講師	山下 高介	学 年		2年生	
資格	作業療法士				
科目概要	作業療法は精神科領域におけるリハビリテーションの中心に据えられており、作業療法を実施するにあたって、様々な精神障害者の特徴を知り、精神科作業療法の一連の流れを理解しておく必要がある。本講義では精神科作業療法を実施する際に、初期の段階で必須となる「評価技法」について、その意義・目的・方法を解説する。精神障害のある人を理解し援助するための基礎技法は、「人を理解する」という観点から他の分野にも通用する大切な技法であり、医療従事者としては必須の能力である。				
学習の留意点	精神障害領域の作業療法では、複数の専門知識を多面的に組み合わせて対象者を評価します。本科目では、その中でも特に重要とされる専門知識や視点に絞り演習を行うことで学生の理解度を高めるように構成します。				
到達目標	①精神科作業療法における評価手法や種類を挙げることができる。 ②精神科作業療法における評価を実演できる。 ③精神科作業療法における評価結果を正しく記述し、解釈を説明できる。				
授業形態	講義			対面	
関連科目	精神医学	基礎作業学演習		精神障害治療学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーションと導入	本科目の授業構成や評定方法について説明できる。 精神科作業療法の目的について説明できる。
2回	精神科作業療法評価に用いる知識や理論①	精神科作業療法のプロセスについて説明できる。
3回	精神科作業療法評価に用いる知識や理論②	精神科作業療法に用いる専門知識について列挙できる。
4回	精神科作業療法評価に用いる知識や理論③	精神科作業療法に用いる医学知識について列挙できる。
5回	精神科作業療法評価とプロセスレコード	精神科作業療法の知識を1つ活用しプロセスレコードを記述できる。
6回	#REF!	情報収集した内容から、対象者のナラティブスロープを作成できる。
7回	情報収集の基本と演習	精神科作業療法で活用する面接技法について列挙できる。
8回	面接技法の基礎	面接した内容を、専門知識を用いて解釈できる。
9回	面接技法の演習①	面接した内容を、専門知識を用いて解釈できる。
10回	面接技法の演習②	精神科作業療法で活用する観察知識について列挙できる。
11回	観察評価の基礎	観察した内容を、専門知識を用いて解釈できる。
12回	観察評価の演習①	観察した内容を、専門知識を用いて解釈できる。
13回	観察評価の演習②	観察した内容を、専門知識を用いて解釈できる。
14回	ICFを用いた統合と解釈①	精神科作業療法の評価で得た情報の関連を図示できる。
15回	ICFを用いた統合と解釈②	精神科作業療法の評価で得た情報の関連を図示できる。

成績評価	下記の構成で、全体の60%以上で合格とします。 ①ポートフォリオ：10%、②演習課題：90%
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	教科書：最新 作業療法学講座 精神障害作業療法学参考図書主観的感覚と生きづらさに寄り添う～精神科作業療法士が伝えたい臨床思考ケースブック精神科リハビリテーション評価法ハンドブック (e-book)
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	発達障害評価学	単位	1	コマ数	15
担当講師	阿部 正美	学 年		2年生	
資格	作業療法士				

科目概要	発達障害の概念・歴史を、講義を通して学ぶとともに、定型発達については、講義だけでなく体験実習、授業内見学実習を通して学ぶ事で、より理解を深めることを目標とする。		
学習の留意点	昨今様々な場面で耳にする「発達」「発達障害」について、その定義をまず学んでいく。また発達障害をもつ子どもたちが歴史的にどのような扱いを受けてきたのかを知ることは、これから発達障害の支援に関わる上でも、同じような過ちを繰り返さないために重要である。そして当科目のメインである子どもの定型発達の過程については、講義だけでなく動画を視聴したり実際に発達段階を模倣し体験することで、より深い理解を目指す。分野も粗大運動に始まり、巧緻動作、感覚認知、社会性、日常生活動作、遊びまで、多面的に学ぶ。最後に授業で学んだ定型発達の知識を、授業内見学実習で実際のお子さんに関わり、知識と実践の結び付けを行う。この授業で学んだことは、次の治療学以降で各疾患の特徴と評価・治療の仕方を学ぶ際の基礎となるので、しっかりと理解したい。		
到達目標	①発達障害の概念・歴史を知る ②定型発達において、主に運動発達について理解する ③定型発達において、知的発達・社会的発達その他の発達について理解する		
授業形態	講義・実習		対面
関連科目	発達障害治療学Ⅰ	発達障害治療学Ⅱ	発達障害治療学演習

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション、総論、発達障害の歴史①	発達障害の概念について説明できる
2回	発達障害の歴史②	発達障害をもつ子どもたちが歴史的にどのような扱いを受けてきたのかを知る
3回	定型発達/粗大運動発達①	定型発達において、粗大運動発達の流れと内容について説明できる
4回	定型発達/粗大運動発達②	定型発達において、粗大運動発達の流れと内容について説明できる
5回	定型発達/粗大運動発達③	定型発達において、粗大運動発達の流れと内容について説明できる
6回	定型発達/上肢・手指機能、視覚の発達	定型発達において、上肢・手指機能、視覚の発達の流れと内容について説明できる
7回	定型発達/感覚・認知の発達①	定型発達において、感覚・認知の発達の流れと内容について説明できる
8回	定型発達/感覚・認知の発達②	定型発達において、感覚・認知の発達の流れと内容について説明できる
9回	定型発達/社会性の発達	定型発達において、社会性・言語の発達の流れと内容について説明できる
10回	定型発達/基本的な生活技能の発達 口腔機能、摂食機能の発達①実技	定型発達における口腔機能の内容について体験し説明できる
11回	定型発達/基本的な生活技能の発達 口腔機能、摂食機能の発達②講義	定型発達において、口腔機能・摂食機能の発達の流れと内容について説明できる
12回	定型発達/基本的な生活技能の発達 更衣動作の発達①実技	定型発達における更衣動作の内容について体験し説明できる
13回	定型発達/基本的な生活技能の発達 更衣動作の発達②講義 排泄動作の発達	定型発達において、更衣動作・排泄動作の発達の流れと内容について説明できる
14回	定型発達/遊びの発達	定型発達において、遊びの発達の流れと内容について説明できる
15回	授業内見学実習（保育園実習）	定型発達のお子さんに実際に関わり、授業で学んだ知識を確認する *別途日程となる。また詳細は後日説明する

成績評価	定期試験70%、小テスト・課題レポート10%、授業内見学実習レポート20%による総合評価。60%以上のものを合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項無し
使用教材教科書	イラストで分かる 発達障害の作業療法 辛島千恵子ら著 医歯薬出版 適時資料プリントを配布する。
オフィスアワー	火曜日を除く平日（不在の場合はメールで連絡してください）

		作業療法学科 夜間部			
科目	作業療法基礎演習	単位	1	コマ数	15
担当講師	山下高介・田中克一	学 年		2年生	
資格					

科目概要	各分野の作業療法評価で学んだ知識を、演習を通して実践する。 精神分野においては、精神機能を中心に評価技法の演習を行う。 身体分野においては、身体機能を中心に評価技法の演習を行う。				
学習の留意点	本科目では、これまでの講義や実技で得た知識の習得を目的に、演習の機会を多く確保します。				
到達目標	作業療法評価、治療に関する検査方法、作業活動について習得する。 事例検討や演習を実践することにより、各領域の作業療法の流れを理解する。				
授業形態	演習		対面		
関連科目	身体障害評価学 1	解剖学		精神障害評価学	
	精神医学				

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーションと導入	本科目の評定基準や構成について説明できる。
2回	作業面接の基本	作業療法の面接の種類や技法について列挙できる。
3回	作業面接の演習①	面接演習を実施後、技法について資料を参考に特定することができる。
4回	作業面接の演習②	面接演習を実施後、技法について資料を参考に良かった点や改善点を述べることができる。
5回	CO-OPアプローチの基本	CO-OPアプローチについて、主要プロセスを説明することができる。
6回	CO-OPアプローチの演習①	CO-OPアプローチを用いて、クラスメイトへの実演をすることができる。
7回	CO-OPアプローチの演習②	CO-OPアプローチを用いて、クラスメイトへの実演をすることができる。
8回	精神科作業療法における自助具の活用	ユニバーサルテープを用いて、自助具を作成することができる。
9回	関節可動域測定・筋力測定	体幹・頸部・肩甲帯のROM測定ができる。
10回	関節可動域測定・筋力測定	体幹・頸部・肩甲帯のROM測定ができる。
11回	関節可動域測定・筋力測定	体幹・頸部・肩甲帯のROM測定ができる。
12回	関節可動域測定・筋力測定	頭頸部・肩甲骨・下肢のMMT測定ができる。
13回	関節可動域測定・筋力測定	頭頸部・肩甲骨・下肢のMMT測定ができる。
14回	関節可動域測定・筋力測定	頭頸部・肩甲骨・下肢のMMT測定ができる。
15回	関節可動域測定・筋力測定	国家試験問題を解くことができる。

成績評価	全体を100%として、60%以上を合格とする。 身体分野50%：実技チェック 精神分野50%：実技の習得度と得られた情報の解釈
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 編集 能登真一 他 医学書院最新作業療法学講座 精神障害作業療法学 編著 早坂文成 医療薬出版株式会社新装手筋力検査法 原著第10版 著者 Dale Avers, Marybeth Brown 共同医療出版社
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	身体障害治療学 I	単位	1	コマ数	15
担当講師	小笹久志	学 年		2年生	
資格	作業療法士				

科目概要	身体障害分野の作業療法提供の全体の流れを確認するため、作業療法評価および治療の概要を説明する。 講義内では病因・病態や障害像を再確認し、作業療法評価の意義・目的や評価項目を学び、目標設定や治療内容について説明する。		
学習の留意点	この講義では、各疾患別の評価および治療を説明するため、整形外科や内科・老年学などで学んだ疾患の理解が必須となる。 そのため、すでに履修している各臨床医学の予習・復習をしておくことが望ましい。		
到達目標	各疾患における病因・病態・障害像・予後（予測）を理解する。 各疾患における評価の意義・目的や評価項目を理解する。 各疾患における目標設定や治療内容を理解する。		
授業形態	講義	対面	
関連科目	整形外科学	内科・老年学	身体障害評価学

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	身体障害治療学概論	身体障害治療学概論を説明できる。
2回	上肢骨折の評価	上肢骨折の評価を説明できる。
3回	上肢骨折の治療	上肢骨折の治療を説明できる。
4回	下肢骨折の評価	下肢骨折の評価を説明できる。
5回	下肢骨折の治療	下肢骨折の治療を説明できる。
6回	疼痛の評価	疼痛の評価を説明できる。
7回	疼痛の治療	疼痛の治療を説明できる。
8回	関節リウマチの評価	関節リウマチの評価を説明できる。
9回	関節リウマチの治療	関節リウマチの治療を説明できる。
10回	末梢神経損傷の評価	末梢神経損傷の評価を説明できる。
11回	末梢神経損傷の治療	末梢神経損傷の治療を説明できる。
12回	糖尿病の評価	糖尿病の評価を説明できる。
13回	糖尿病の治療	糖尿病の治療を説明できる。
14回	悪性新生物の評価	悪性新生物の評価を説明できる。
15回	悪性新生物の治療	悪性新生物の治療を説明できる。

成績評価	定期試験で6割以上を合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	定期試験の解答・回答用紙を開示。
使用教材教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版 野村 巖 編 医学書院 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 編集 能登 真一 他 医学書院 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版 編集 山口 昇 他 医学書院 作業療法全書 改定第3版 第4巻 作業治療学1 身体障害 編集 菅原洋子 協同医書出版社
オフィスアワー	火、木、金 14:00～17:00位 教員室 もしくは G-mailで相談

		作業療法学科 夜間部			
科目	身体障害治療学Ⅱ	単位	1	コマ数	15
担当講師	小笹久志	学 年		2年生	
資格	作業療法士				

科目概要	身体障害分野の作業療法提供の全体の流れを確認するため、作業療法評価および治療の概要を説明する。 講義内では病因・病態や障害像を再確認し、作業療法評価の意義・目的や評価項目を学び、目標設定や治療内容について説明する。		
学習の留意点	この講義では、各疾患別の評価および治療を説明するため、神経内科学、内科・老年学などで学んだ疾患の理解が必須となる。 そのため、すでに履修している各臨床医学の予習・復習をしておくことが望ましい。		
到達目標	各疾患における病因・病態・障害像・予後（予測）を理解する。 各疾患における評価の意義・目的や評価項目を理解する。 各疾患における目標設定や治療内容を理解する。		
授業形態	講義	対面	
関連科目	神経内科学	内科・老年学	身体障害評価学

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	脳の解剖	脳の解剖が説明できる。
2回	脳の機能	脳の機能が説明できる。
3回	脳画像の検査	脳画像の検査が説明できる。
4回	脳画像の所見	脳画像の所見が説明できる。
5回	脳血管障害の評価	脳血管障害の評価が説明できる。
6回	脳血管障害の目標設定	脳血管障害の目標設定が説明できる。
7回	脳血管障害の予後予測	脳血管障害の予後予測が説明できる。
8回	脳血管障害の治療方針	脳血管障害の治療方針が説明できる。
9回	パーキンソン病の評価	パーキンソン病の評価が説明できる。
10回	パーキンソン病の治療	パーキンソン病の治療が説明できる。
11回	循環器疾患の評価	循環器疾患の評価が説明できる。
12回	循環器疾患の治療	循環器疾患の治療が説明できる。
13回	呼吸器疾患の評価	呼吸器疾患の評価が説明できる。
14回	呼吸器疾患の治療	呼吸器疾患の治療が説明できる。
15回	身体障害治療学のまとめ	身体障害治療学のまとめが説明できる。

成績評価	定期試験で6割以上を合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	定期試験の解答・回答用紙を開示。
使用教材教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版 野村 巖 編 医学書院 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 編集 能登 真一 他 医学書院 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版 編集 山口 昇 他 医学書院 作業療法全書 改定第3版 第4巻 作業治療学1 身体障害 編集 菅原洋子 協同医書出版社
オフィスアワー	火、木、金 14:00～17:00位 教員室 もしくは G-mailで相談

		作業療法学科 夜間部			
科目	精神障害治療学 I	単位	1	コマ数	15
担当講師	山下 高介	学 年		2年生	
資格	作業療法士				

科目概要	作業療法は精神医療におけるリハビリテーションの中心に据えられており、評価から治療へいたる一連の流れや臨床思考過程を理解しておくことは、臨床の現場に出る前に必須のことである。そのため、作業療法の専門的な知識を活用した精神障害領域における実践について、座学と演習を通して学ぶ。				
学習の留意点	精神障害領域の作業療法では、複数の専門知識を多面的に組み合わせて対象者を支援します。本科目では、その中でも特に重要とされる専門知識や視点に絞り演習を行うことで学生の理解度を高めるように構成します。				
到達目標	①精神科作業療法における支援手法や種類を挙げることができる。 ②精神科作業療法における支援を実演できる。 ③精神科作業療法における支援結果を正しく記述し、解釈を説明できる。				
授業形態	講義			対面	
関連科目	精神障害評価学	精神障害治療学 II			

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーションと導入	本科目の構成や評定方法を説明できる。
2回	精神科作業療法支援に用いる知識や理論①	精神科作業療法の支援プロセスについて、説明できる。
3回	精神科作業療法支援に用いる知識や理論②	精神科作業療法の支援に活用できる作業療法理論を挙げることができる。
4回	精神科作業療法支援に用いる知識や理論③	精神科作業療法の支援に活用できる作業療法以外の理論を挙げることができる。
5回	#REF!	プロセスレコード内で、精神科作業療法の支援について言及できる。
6回	精神科作業療法支援とプロセスレコード	精神科作業療法において、特に重要となる個人因子と環境因子について列挙できる。
7回	精神科作業療法の心身機能に対する支援	ケーススタディにおいて、個人因子と環境因子が支援にどのように関連しているのかを述べることができる。
8回	精神科作業療法の心身機能に対する支援演習	精神科作業療法において、特に重要となる心身機能について列挙できる。
9回	精神科作業療法の活動に対する支援	ケーススタディにおいて、心身機能が支援にどのように関連しているのかを述べることができる。
10回	精神科作業療法の活動に対する支援演習	精神科作業療法において、特に重要となる活動について列挙できる。
11回	精神科作業療法の参加に対する支援	ケーススタディにおいて、活動が支援にどのように関連しているのかを述べることができる。
12回	精神科作業療法の参加に対する支援演習	精神科作業療法における参加に必要な要素について列挙できる。
13回	精神科作業療法の個人因子・環境に対する支援	ケーススタディにおいて、参加が支援にどのように関連しているのかを述べることができる。
14回	精神科作業療法の個人因子・環境に対する支援演習	ICFを用いて、それぞれの要素と支援の関係を図示し、説明することができる。
15回	精神科作業療法で活用できるアクセシビリティ	Microsoftに標準搭載されたアクセシビリティ機能について、説明を受けながら操作することができる。

成績評価	下記の構成で、全体の60%以上で合格とします。 ①ポートフォリオ：10%、②演習課題：90%
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	教科書：最新 作業療法学講座 精神障害作業療法学参考図書主観的感覚と生きづらさに寄り添う～精神科作業療法士が伝えたい臨床思考ケースブック精神科リハビリテーション評価法ハンドブック (e-book)
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	発達障害治療学 I	単位	1	コマ数	15
担当講師	阿部 正美	学 年		2年生	
資格	作業療法士				
科目概要	主に発達障害における肢体不自由、運動障害を抱える疾患について、講義と演習、実技を通して学ぶとともに評価治療の流れを理解する。その際、画像や動画も使用し多角的に学ぶ。また当事者とその家族の方を招いての講義では、子どもが障害を抱えて生きていくことの実際について学ばせて頂く。				
学習の留意点	当授業では、「発達障害評価学」で学んだ定型発達の知識をもとに、脳性麻痺をはじめとする運動障害の臨床像について、定型発達のどの要素が不足、あるいは欠落しているかという視点から分析するとともに、支援・治療はその要素を埋めていく過程になることを理解する。その際講義だけでなく、実技体験、画像や動画も交え多角的に疾患を理解する。また、当事者とその家族の方を招いての講義では、疾患の知識だけでなく疾患を抱えた子どもとその家族という『ひと』という視点で、これまでどのように生きてきたか、いかに生活しているかの実際について学ばせて頂く機会とする。				
到達目標	①脳性麻痺の分類・疾患像が理解出来る ②運動障害を主とする各疾患の障害像が理解出来る。 ③脳性麻痺、運動障害をもつ対象児に対する作業療法の評価・治療介入の概要が理解出来る。 ④脳性麻痺児の支援における情報収集から治療への流れを理解する				
授業形態	講義・演習・実技			対面	
関連科目	発達障害評価学	発達障害治療学Ⅱ	発達障害治療学演習		

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション、脳性麻痺/疾患像①	脳性麻痺の定義と全体的な疾患像が説明できる
2回	脳性麻痺/疾患像②	脳性麻痺の定義と全体的な疾患像が説明できる
3回	脳性麻痺タイプ別特徴と治療①	脳性麻痺における、痙直型両麻痺の特徴と治療介入について説明できる
4回	脳性麻痺タイプ別特徴と治療②	脳性麻痺における、痙直型片麻痺の特徴と治療介入について説明できる
5回	脳性麻痺タイプ別特徴と治療③	脳性麻痺における、痙直型四肢麻痺の特徴と治療介入について説明できる
6回	脳性麻痺タイプ別特徴と治療④	脳性麻痺における、アテトーゼ型四肢麻痺の特徴と治療介入について説明できる
7回	重症心身障害児とは、その支援	重症心身障害児の定義と特徴、治療介入について説明できる
8回	ダウン症 疾患像と評価・治療介入	ダウン症の定義と特徴、治療介入について説明できる
9回	筋ジストロフィー症 疾患像と評価・治療介入	筋ジストロフィー症の定義と特徴、治療介入について説明できる
10回	二分脊椎 疾患像と評価・治療介入	二分脊椎の定義と特徴、治療介入について説明できる
11回	その他の疾患	運動障害を呈するその他の疾患について、特徴と治療介入の方向性を説明できる
12回	外部講師講義	当事者とその家族の方を特別講師として招聘し、お話を伺う機会とする。授業後、課題レポートを提出する。
13回	評価・治療の流れ①一般情報収集～評価項目抽出	運動障害の疾患（脳性麻痺）について説明する/評価・治療の過程における、一般情報収集～評価項目抽出までの内容について説明できる
14回	評価・治療の流れ②統合と解釈	評価・治療の過程における、評価のまとめ・統合と解釈までの内容について説明できる
15回	評価・治療の流れ③症例の読み方	脳性麻痺の症例報告書を読み、13・14回でふれた評価治療のポイントについて確認する

成績評価	定期試験60%、小テスト20%、外部講師レポート20%による総合評価。 60%以上のものを合格とする
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項無し
使用教材教科書	イラストで分かる 発達障害の作業療法 辛島千恵子ら著 医歯薬出版 発達障害の作業療法 基礎編・実践編 第3版 岩崎清隆ら著 三輪書店 他適時資料プリントを配布する。
オフィスアワー	火曜日を除く平日（不在の場合はメールで相談してください）

		作業療法学科 夜間部			
科目	発達障害治療学Ⅱ	単位	1	コマ数	15
担当講師	阿部 正美	学 年	2年生		
資格	作業療法士				

科目概要	主に発達障害における知的障害を抱える疾患について、講義と演習、実技を通して学ぶとともに評価治療の流れを理解する。その際、画像や動画も使用し多角的に学ぶ。また当事者とその家族の方を招いての講義では、子どもが障害を抱えて生きていくことの実際について学ばせて頂く。				
学習の留意点	当授業では「発達障害評価学」で学んだ定型発達の知識をもとに、自閉症スペクトラムをはじめとする知的障害の臨床像について、定型発達のどの要素が不足、あるいは欠落しているかという視点から分析するとともに、支援・治療はその要素を埋めていく過程になることを理解する。その際講義だけでなく、実技体験、画像や動画も交え多角的に疾患を理解する。また、当事者とその家族の方を招いての講義では、疾患の知識だけでなく疾患を抱えた子どもとその家族という『ひと』という視点で、これまでどのように生きてきたか、いかに生活しているかの実際について学ばせて頂く機会とする。				
到達目標	①発達障害・知的障害分野の各疾患の臨床像が理解出来る。 ②発達障害・知的障害をもつ対象児に対する作業療法の評価・支援介入の概要が理解出来る。 ③発達障害児の支援における情報収集から治療への流れを理解する ④発達分野の治療理論・検査法について、その概略を理解することが出来る ⑤発達障害児の問題行動について理解し、対処法の概要を示すことが出来る				
授業形態	講義・演習・実技			対面	
関連科目	発達障害評価学	発達障害治療学Ⅰ	発達障害治療学演習		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション、自閉症スペクトラム (ASD) /疾患像と評価・治療介入①	自閉症スペクトラム (ASD) について、疾患像と評価・治療介入について説明できる
2回	自閉症スペクトラム (ASD) /疾患像と評価・治療介入②	自閉症スペクトラム (ASD) について、疾患像と評価・治療介入について説明できる
3回	ASD高機能群 (旧アスペルガー症候群) /疾患像と評価・治療介入	ASD高機能群 (旧アスペルガー症候群) について、疾患像と評価・治療介入について説明できる
4回	注意欠陥・多動性障害 (ADHD) /疾患像と評価・治療介入①	注意欠陥多動性障害 (ADHD) について、疾患像と評価・治療介入について説明できる
5回	注意欠陥・多動性障害 (ADHD) /疾患像と評価・治療介入②	注意欠陥多動性障害 (ADHD) について、疾患像と評価・治療介入について説明できる
6回	学習障害・限局性学習症 (SLD) /疾患像と評価・治療介入	学習障害・限局性学習症 (SLD) について、疾患像と評価・治療介入について説明できる
7回	前半のまとめ	これまでの内容の確認を兼ねた小テストを実施する
8回	問題行動の理解とその対処①	発達障害児における問題行動について、その種類と内容、対処法について説明できる
9回	問題行動の理解とその対処②	発達障害児における問題行動について、その種類と内容、対処法について説明できる
10回	外部講師講義①	当事者の家族の方を特別講師として招聘し、お話を伺う・ワークショップを行う機会とする/ワークショップに参加する
11回	外部講師講義②	当事者の家族の方を特別講師として招聘し、お話を伺う・ワークショップを行う機会とする/ワークショップに参加する。授業後、課題レポートを提出する
12回	治療的介入理論・検査法概論	発達障害における代表的な治療的介入理論・検査について、その概略を説明できる。*検査の実践については、治療学演習で行う
13回	評価・治療の流れ①一般情報収集～評価項目抽出	知的障害の疾患 (ASD・ADHD) について説明する/評価・治療の過程における、一般情報収集～評価項目抽出までの内容について説明できる
14回	評価・治療の流れ②統合と解釈	評価・治療の過程における、評価のまとめ・統合と解釈までの内容について説明できる
15回	評価・治療の流れ③症例の読み方	ASDの症例報告書を読み、13・14回でふれた評価治療のポイントについて確認する

成績評価	定期試験60%、小テスト20%、外部講師レポート20%による総合評価。 60%以上のものを合格とする	
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項無し	
使用教材教科書	イラストで分かる 発達障害の作業療法 辛島千恵子ら著 医歯薬出版 発達障害の作業療法 基礎編・実践編 第3版 岩崎清隆ら著 三輪書店 他適時資料プリントを配布する。	
オフィスアワー	火曜日を除く平日 (不在の場合はメールで相談してください)	

		作業療法学科 夜間部			
科目	日常生活活動学	単位	1	コマ数	15
担当講師	田中克一	学 年	2年生		
資格					

科目概要	作業療法は「人は作業を通して健康や幸福になる」という基本理念と学術的根拠に基づいて行われ、作業には、日常生活活動、家事、仕事、趣味、遊び、対人交流、休養など、人が営む生活行為が含まれる。対象となる疾患・障害における生活行為やそれを行うのに必要な心身の活動を踏まえ説明・実施する。作業療法の専門性として、MTDLP事例を通じた治療に至る考え方についても学ぶ。		
学習の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活活動の概念・範囲・ICFについて理解する</li> <li>ADL, IADL, QOL, 生きがいの評価の概要、人-作業-環境モデルについて理解する</li> <li>生活行為（食事・入浴・排泄）の基本事項について理解する</li> <li>各疾患別特性による日常生活動作障害について理解する</li> </ul>		
到達目標	①日常生活活動の概念・範囲・ICFについての説明する ②ADL, IADL, QOL, 生きがいの評価の概要、人-作業-環境モデルについて説明する ③生活行為（食事・入浴・排泄）の基本事項について説明する ④各疾患別特性による日常生活動作障害について説明する		
授業形態	講義	オンデマ+ハイフレ	
関連科目	作業療法概論	地域作業療法学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	日常生活動作の概念・範囲・ICF	日常生活動作の概念・範囲・ICFについて説明できる
2回	ADL評価法（特にBarthel Index）の特徴	ADL評価法（特にBarthel Index）の特徴について説明できる
3回	ADL評価法（特にFIM）の特徴	ADL評価法（特にFIM）の特徴について説明できる
4回	IADL評価法・人-作業-環境モデル	IADL評価法・人-作業-環境モデルについて説明できる
5回	QOL・生きがいの評価法	QOL・生きがいの評価法について説明できる。
6回	食事という生活行為の基本事項について	食事という生活行為の基本事項について説明できる□
7回	排泄という生活行為の基本事項について	排泄という生活行為の基本事項について説明できる
8回	入浴という生活行為の基本事項について	入浴という生活行為の基本事項について説明できる
9回	各疾患別特性による日常生活動作障害について（脳卒中）	各疾患別特性による日常生活動作障害について（脳卒中）説明できる
10回	各疾患別特性による日常生活動作障害について（高次脳機能障害）	各疾患別特性による日常生活動作障害について（高次脳機能障害）説明できる
11回	各疾患別特性による日常生活動作障害について（脊髄小脳変性症・パーキンソン病）	各疾患別特性による日常生活動作障害について（脊髄小脳変性症・パーキンソン病）説明できる
12回	各疾患別特性による日常生活動作障害について（ALS）	各疾患別特性による日常生活動作障害について（ALS）説明できる
13回	各疾患別特性による日常生活動作障害について（RA）	各疾患別特性による日常生活動作障害について（RA）説明できる
14回	各疾患別特性による日常生活動作障害について（脊髄損傷）	各疾患別特性による日常生活動作障害について（脊髄損傷）説明できる
15回	各疾患別特性による日常生活動作障害について（認知症）	各疾患別特性による日常生活動作障害について（認知症）説明できる

成績評価	期末テスト（80%） 課題提出（20%）
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材 教科書	ADLとその周辺 第3版 伊藤利之・鎌倉矩子 医学書院
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	地域作業療法学 I □	単位	1	コマ数	15
担当講師	田中克一	学 年	2年生		
資格					

科目概要	本講義では地域共生社会・地域包括ケアシステムの構築における社会的背景やその概要ならびに、その中で作業療法士の実際の活動について理解を深めることが目標である。また専門性ある思考として、対象者の活動と参加に焦点を当てたアプローチを踏まえ、MTDLPの概要やMTDLPを用いた地域でのリハビリテーション事例についても学習をしていきます。		
学習の留意点	どのような障害があっても、また年老いても、住み慣れた所で安心して、その人らしく暮らしていく為に地域における作業療法の重要性が高まっている。本講義では地域共生社会・地域包括ケアシステムの構築における社会的背景やその概要ならびに、その中で作業療法士の実際の活動について理解を深め、3年次以降の学びにおいて地域に目を向けることができるようになることが目標である。また専門性ある思考として、対象者の活動と参加に焦点を当てたアプローチを踏まえ、MTDLPの概要やMTDLPを用いた地域でのリハビリテーション事例についても学習をしていきます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域共生社会、地域包括ケアシステムの構築における作業療法士の役割について説明できる</li> <li>・地域資源の把握方法や多職種連携、「地域に出て活動すること」を理解する</li> <li>・生活行為向上マネジメントの概要について説明できる</li> </ul>		
授業形態	講義	オンデマ+ハイフレ	
関連科目	日常生活活動学	作業療法概論	地域実習セミナー

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション・地域作業療法概論	地域作業療法お概要について説明できる
2回	地域包括ケアシステム・介護予防・日常生活支援総合事業について	地域包括ケアシステム・介護予防・日常生活支援総合事業について説明できる
3回	多職種連携・地域作業療法におけるコミュニケーションの基本について	多職種連携・地域作業療法におけるコミュニケーションの基本について説明できる
4回	地域資源の把握と活用について	地域資源の把握と活用について説明できる
5回	自身の住んでいる地域を知る	自身の住んでいる地域の地域資源について説明できる
6回	(国際福祉機器展に参加) ①福祉機器に触れてその用途について理解する	福祉機器について説明できる
7回	(国際福祉機器展に参加) ②福祉機器についてまとめる	福祉機器について説明できる
8回	(国際福祉機器展に参加) ③住宅改修について理解する	住宅改修について説明できる
9回	(国際福祉機器展に参加) ④住宅改修についてまとめる	住宅改修について説明できる
10回	生活行為向上マネジメントの概要	生活行為向上マネジメントの概要を説明できる
11回	住環境整備 (住宅改修、手すり設置等)	住環境整備について説明できる
12回	車椅子 (車椅子の種類、適合寸法)	車椅子について説明できる
13回	予防的作業療法 (訪問C、通所C、地域ケア会議における作業療法士の役割、実際)	予防的作業療法について説明できる
14回	訪問・通所リハ (訪問・通所リハビリテーションにおける作業療法の役割、実際)	訪問・通所リハについて説明できる
15回	地域での取り組み (子ども食堂、認知症カフェ、釣りハ、バリアフリーツアー、高次脳機能・自動車運転支援等)	地域での取り組みについて説明できる

成績評価	課題提出・発表で評価
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材 教科書	事例で学ぶ 生活行為向上マネジメント 日本作業療法士協会 医歯薬出版 最新作業療法学講座 地域作業療法学 小林法一・小林隆司 医歯薬出版
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	地域見学実習	単位	1	コマ数	45
担当講師	作業療法学科教員	学 年	2年生		
資格	作業療法士				

科目概要	<p>地域実習は、臨床実習指導者のもとで、地域で支援を必要とする人々や、その家族に作業療法を用いた援助を提供するための知識・技術を習得することを目的とする。</p> <p>1. 地域における作業療法および作業療法士の役割と機能を学ぶ  2. 臨床実習指導者の指導、援助のもとに、地域での支援や援助の実際的方法を学ぶ  3. 地域包括ケアシステムや生活行為の重要性について学ぶ</p>		
学習の留意点	<p>社会人として、職業人としての身だしなみ、挨拶、言葉遣い、所作、立ち振る舞い、全体的な礼儀などの行動全体に気を付ける。</p> <p>原則として遅刻、早退、欠席は認めない。  実習全体の8割以上の出席で可否判定を行う。</p>		
到達目標	<p>今までの学内での講義・演習で修得した、知識をもとに、指導者の指導・援助のもと、地域での作業療法士の役割や、対象児・者への支援・援助を理解することを目標とする。</p> <p>①作業療法学生としての礼儀・礼節・接遇が体現でき、基本的なルールを遵守することができる。  ②実習に意欲的に取り組むことが出来る  ③地域での作業療法および作業療法士の役割について説明することが出来る  ④地域での他職種連携について、事例を用いながら説明することが出来る  ⑤生活行為、および生活行為向上マネジメントの必要性を説明できる</p>		
授業形態	実習	対面	
関連科目	人間関係学	解剖学・生理学 ・運動学	作業療法評価学 作業療法概論

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回		
2回		
3回		
4回		
5回	実習前	①地域実習に関連する授業の指定教科書等・講義資料のポイントは実習前に整理し、確認すること。 ②地域包括ケアシステム、生活行為向上マネジメントの知識を整理し、確認すること。
6回		
7回	臨床実習	①臨床現場では作業療法分野だけでなく、多職種連携を常に思い浮かべて、広範囲の知識と技術を体系的に学んでいく。 ②臨床現場では積極的に様々なことを体験、見学するように努めること。 ③習得した知識は毎日書類（ポートフォリオ）として記録すること。
8回		
9回		
10回	実習後	①実習中に学んだ点を整理し、発表の準備を行うこと。 ②必要に応じて実習担当者と面談し、実習の総括を実施すること。 ③実習の成果を書類にまとめ、提出すること。
11回		
12回		
13回		
14回		
15回		

成績評価	実習地評価、課題・提出物をもとに総合的に判断する。
課題やレポートに関するフィードバック	実習地での課題やレポートのフィードバックは実習地で実施する。 また、実習全体に対する相談およびフィードバックは、「実習中の電話やメール」「臨床実習地訪問の面談時」「実習終了後」に担当教員からも行う。
使用教材教科書	学校指定ケーシー、白靴、実習にふさわしい身だしなみが必要。 施設によるが、通院時はスーツ着用。 学生評価表やデイリーノート、ケースノート、出欠表、必要時には各種報告書など実習書類を参照する。 臨床実習の手引き 学校資料
オフィスアワー	担任や作業療法学科教員

		作業療法学科 夜間部			
科目	作業療法研究法	単位	1	コマ数	8
担当講師	山下高介・田中克一	学 年		3年生	
資格					
科目概要	リハビリテーションや作業療法における研究の意義を考え、研究に必要な基本的な知識や方法論を習得する。研究法の楽手を通して、問題解決への積極的な意欲や探究心を養う。授業内で研究疑問の提出から、模擬的な研究計画書の作成までを体験する。				
学習の留意点	学生が、研究を身近に感じられるように、導入では研究が生活の中にどのように活かされているかを交えて講義します。また、実際にカンファレンスや臨床思考に落とし込むための演習などを取り入れていきます。				
到達目標	①研究の種類を列挙でき、その適応について説明できる。 ②自身のPCを使い、メディカルオンラインへのログインと文献検索ができる。 ③事例報告やカンファレンスの情報を、メディカルオンラインで確認することができる。				
授業形態	講義		対面		
関連科目	情報科学	統計学	作業療法セミナー		

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーションと導入	・本科目の評定方法などを理解できる。 ・研究手法の分類とその概要を説明できる。
2回	事例報告とは？	・メディカルオンラインにて事例報告を入手することができる。
3回	事例報告の読み方と書き方の基本	・事例報告を読み自己調べ学習を行える。 ・事例報告を読みチェックリストをつけることができる ・事例報告をチェックリストに従い修正できる。
4回	事例報告の読み方と書き方の演習	#REF!
5回	ケースカンファレンスの目的と意義	・ケースカンファレンスの目的と意義を説明することができる
6回	ケースカンファレンスの実例	・ケースカンファレンスの実例を理解することができる。
7回	ケースレポートと実証研究	・ケースレポートと実証研究の相互作用について説明することができる
8回	実証研究を実習や臨床にどのように活かすか	・実証研究を実習や臨床でどのように活かすことができるか説明することができる。

成績評価	全体で100%（各教員50%ずつ）とし、全体で60%以上を合格とする。 教員①50%分を課題にて評価する 教員②50%分を課題にて評価する。
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材 教科書	教科書・症例事例報告から始めるPT・OTのための臨床研究実践法使用教材・メディカルオンライン
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	作業療法特講	単位	1	コマ数	12
担当講師	田中克一・外部講師	学 年		3年生	
資格					

科目概要	様々な領域での臨床実践に触れ、作業療法の評価・治療その内容について学習します。		
学習の留意点	臨床実習に出るにあたり様々な領域での実際のOT実践（評価・治療など）に触れることはとても大切です。これまでの評価学、治療学の復習も交えて実際のOT臨床の説明を行います。		
到達目標	①各領域の評価・治療について復習します ②各領域のOT実践について理解、説明できる		
授業形態	講義	対面	
関連科目	身体障害評価学	身体障害治療学	精神障害評価学
	精神障害治療学	地域作業療法学	老年期障害治療学

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	臨床実習について	臨床実習の意義について説明できる
2回	臨床実習について	臨床実習の内容について説明できる
3回	身体障害領域	身体障害領域のOTについて説明・ディスカッションできる
4回	身体障害領域	身体障害領域のOTについて説明・ディスカッションできる
5回	身体障害領域	身体障害領域のOTについて説明・ディスカッションできる
6回	身体障害領域	身体障害領域のOTについて説明・ディスカッションできる
7回	精神障害領域	精神障害領域のOTについて説明・ディスカッションできる
8回	精神障害領域	精神障害領域のOTについて説明・ディスカッションできる
9回	発達障害領域	発達障害領域のOTについて説明・ディスカッションできる
10回	発達障害領域	発達障害領域のOTについて説明・ディスカッションできる
11回	老年期障害	老年期障害領域のOTについて説明・ディスカッションできる
12回	老年期障害	老年期障害領域のOTについて説明・ディスカッションできる
13回	#REF!	#REF!
14回	#REF!	#REF!
15回	#REF!	#REF!

成績評価	ディスカッション30% レポート70%
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材 教科書	教科書：なし 参考書：各領域の教科書・授業資料
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	作業療法総合演習 I	単位	2	コマ数	30
担当講師	OT教員	学 年		3年生	
資格	作業療法士				

科目概要	臨床実習 I の実施前に、実習直前の準備教育を行う。 1) 身体障害系セミナー 2) 老年障害系セミナー 3) 発達障害系セミナー 4) 精神障害系セミナー 各評価学・治療学の振り返りの講義、実技演習。				
学習の留意点	ただ単に検査・測定知識や技術を習得に限局せず、学生自身が考察・検討しながら進めていくことで、臨床思考過程も養っていくよう課題の提供を行う。				
到達目標	事例報告を中心とした演習、評価実技などを共同学習において学び、評価実習や総合実習に必要な知識を確認する。各領域の評価学・治療学などの振り返りを通じて、作業療法についての理解を深める。				
授業形態	実習		対面		
関連科目	臨床実習 I	臨床実習 II	0		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション「作業療法総合演習 I の全体説明」	この授業の全体像を理解する。
2回	評価演習 身体障害分野① 情報収集	対象者に合わせた評価項目を列挙できる
3回	評価演習 身体障害分野② 面接・観察	対象者の状態に応じた面接・観察の準備・対応ができる
4回	評価演習 身体障害分野③ 検査・測定	身体障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
5回	評価演習 身体障害分野④ 検査・測定	身体障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
6回	評価演習 身体障害分野⑤ 全体像のまとめ	対象者の全体像をまとめることができる
7回	評価演習 身体障害分野⑥ 目標設定	対象者に見合った目標設定ができる
8回	評価演習 身体障害分野⑦ 考察	全体像から利点・問題点を見出し、目標設定までの結びつけを説明できる
9回	評価演習 老年障害分野① 情報収集	対象者に合わせた評価項目を列挙できる
10回	評価演習 老年障害分野② 面接・観察	対象者の状態に応じた面接・観察の準備・対応ができる
11回	評価演習 老年障害分野③ 検査・検査	老年障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
12回	評価演習 老年障害分野④ 検査・測定	老年障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
13回	評価演習 老年障害分野⑤ 全体像のまとめ	対象者の全体像をまとめることができる
14回	評価演習 老年障害分野⑥ 目標設定	対象者に見合った目標設定ができる
15回	評価演習 老年障害分野⑦ 考察	全体像から利点・問題点を見出し、目標設定までの結びつけを説明できる
16回	評価演習 発達障害分野① 情報収集	対象者に合わせた評価項目を列挙できる
17回	評価演習 発達障害分野② 面接・観察	対象者の状態に応じた面接・観察の準備・対応ができる
18回	評価演習 発達障害分野③ 検査・測定	発達障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
19回	評価演習 発達障害分野④ 検査・測定	発達障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
20回	評価演習 発達障害分野⑤ 全体像のまとめ	対象者の全体像をまとめることができる
21回	評価演習 発達障害分野⑥ 目標設定	対象者に見合った目標設定ができる
22回	評価演習 発達障害分野⑦ 考察	全体像から利点・問題点を見出し、目標設定までの結びつけを説明できる
23回	評価演習 精神障害分野① 情報収集	対象者に合わせた評価項目を列挙できる
24回	評価演習 精神障害分野② 面接・観察	対象者の状態に応じた面接・観察の準備・対応ができる
25回	評価演習 精神障害分野③ 検査・測定	精神障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
26回	評価演習 精神障害分野④ 検査・測定	精神障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
27回	評価演習 精神障害分野⑤ 全体像のまとめ	対象者の全体像をまとめることができる
28回	評価演習 精神障害分野⑥ 目標設定	対象者に見合った目標設定ができる
29回	評価演習 精神障害分野⑦ 考察	全体像から利点・問題点を見出し、目標設定までの結びつけを説明できる
30回	全体の振り返り、まとめ	各分野において適切な評価を実施できる

成績評価	演習中の課題提出とその内容で評価する。
課題やレポートに関するフィードバック	授業内及び授業外で適宜フィードバックします。
使用教材教科書	評価実習に必要な教科書・資料を各自準備してください。
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	作業療法セミナー I	単位	2	コマ数	30
担当講師	OT教員	学 年	3年生		
資格	作業療法士				

科目概要	臨床実習 I の前後に、実習前学習及び実習の振り返り教育を行う。 1) 身体障害系セミナー 2) 老年期障害系セミナー 3) 発達障害系セミナー 4) 精神障害系セミナー 専門領域別に事例報告を行い、質疑応答、討論を行う。 領域別の事例報告を踏まえて臨床実習 II の準備学習を行う。				
学習の留意点	臨床実習 I の準備学習として、分野ごとにグループを作るなどして学習を進めていきます。内容として知識・技術を組み合わせ、実習分野の学習を集中して行えるような時間設定を行っていきます。実習後の事例報告会では、学生が発言しやすいよう教員からヒントとなるような質疑を交えることで、より活発化した				
到達目標	事例報告を中心とした相互学習を通じて、実習経験を共有し、次期の評価実習や総合実習に必要な知識を習得する。				
授業形態	実習		対面		
関連科目	作業療法セミナー II	臨床実習 I	臨床実習 II		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	作業療法臨床セミナー I の全体説明	授業内容の理解ができ、説明できる。
2回	レポート・レジユメのまとめ方① 情報収集 (一般、社会的、医学的)	レジユメ作成のための基本 (一般・社会的・医学的) 情報の整理ができる。
3回	レポート・レジユメのまとめ方② 作業療法評価 (面接、観察、検査・測定)	レジユメ作成において作業療法評価 (面接・観察・検査・測定) のまとめができる。
4回	レポート・レジユメのまとめ方③ 全体像のまとめ	レジユメ作成における全体像をまとめることができる。
5回	レポート・レジユメのまとめ方④ 目標設定 考察	レジユメ作成における目標設定とそれを結びつける考察をすることができる。
6回	身体障害分野① 症例A 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
7回	身体障害分野② 症例A 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
8回	身体障害分野③ 症例B 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
9回	身体障害分野④ 症例B 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
10回	身体障害分野④ 症例C 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
11回	身体障害分野④ 症例C 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
12回	老年期障害分野① 症例D 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
13回	老年期障害分野① 症例D 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
14回	老年期障害分野① 症例E 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
15回	老年期障害分野① 症例E 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
16回	老年期障害分野① 症例F 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
17回	老年期障害分野① 症例F 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
18回	発達障害分野① 症例G 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
19回	発達障害分野① 症例G 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
20回	発達障害分野① 症例H 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
21回	発達障害分野① 症例H 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
22回	発達障害分野① 症例I 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
23回	発達障害分野① 症例I 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
24回	精神障害分野① 症例J 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
25回	精神障害分野① 症例J 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
26回	精神障害分野① 症例K 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
27回	精神障害分野① 症例K 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
28回	精神障害分野① 症例L 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
29回	精神障害分野① 症例L 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
30回	全体の振り返り・まとめ	症例発表の課題提出ができる。

成績評価	事例報告50%、提出課題50%で評価する。
課題やレポートに関するフィードバック	授業内・外、適宜フィードバックする。
使用教材教科書	0
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	身体障害治療学Ⅲ		1	コマ数	11
担当講師	仲木 右京	学 年		3年生	
資格					

科目概要	ここでは手の外科領域の障害特性を捉え、ハンドセラピーの実際について講義を実施します。また、障害特性がもたらすその個人の作業障害上の問題を考えられるよう、問題提起をしながら学生自身の思考力を促していきます。加えてスプリントの作製を体験することによってハンドセラピー領域の治療の手段としての認識を高めてもらいます。		
学習の留意点	手の外科領域の障害を理解するためには、これまで学習してきた解剖学、運動学、生理学などの知識がベースになります。それらについて再確認したうえで講義に臨まれることが必要となります。また手の障害がどのような作業障害に結びつくか自分のこととして考える姿勢で講義に臨まれることを期待します。		
到達目標	①主要な手の外科疾患について理解することができる ②ハンドセラピーの実際について説明することができる ③スプリントの作製を通してスプリント療法について体験できる		
授業形態	講義・実習	対面	
関連科目	整形外科学Ⅰ	整形外科学Ⅱ	身体障害評価学Ⅱ

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	ハンドセラピーについて	ハンドセラピーとは何かその目的について説明できる
2回	手の骨折について	骨折について説明できる
3回	骨折に対するハンドセラピー	手の骨折についてハンドセラピーのすすめ方について説明できる
4回	末梢神経損傷について	末梢神経損傷の病態について説明できる
5回	末梢神経損傷のハンドセラピー	末梢神経損傷の評価についての意義を説明できる
6回	腱損傷について	腱損傷について理解しそのハンドセラピーについて説明できる
7回	スプリント作製実習①	ガントレットサムスパイカスプリントの作製手順を説明できる
8回	スプリント作製実習①	ガントレットサムスパイカスプリントの作製を実施できる
9回	スプリント作製実習②	サムホールロックアップスプリントの作製手順を説明できる
10回	スプリント作製実習②	サムホールロックアップスプリントの作製を実施できる
11回	試験・フィードバック	

成績評価	筆記試験70%、実技試験20%、授業への取り組み方10%で評価します
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	担当教員が作成した配布プリントを使用 (参考) 第4巻 作業治療学1 身体障害 協同医書
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	身体障害治療学演習	単位	2	コマ数	23
担当講師	松生容一 小笹久志	学 年	3年生		
資格	作業療法士(病院、施設、教育機関合わせて32年) 作業療法士				

科目概要	講義で学んだ各疾患の障害の理解を深め、また対象者に必要な評価・治療手技の選択方法を学ぶ。実技演習にて評価の復習と、各疾患の障害や特性に合わせた評価法を学ぶ。		
学習の留意点	実技演習の服装 ケーシー、リハシューズ 実技試験では、身だしなみを評価する。 提出課題は必要内容を記載して、提出期限内に提出すること。 授業時間数の3分の1以上欠席した者には、単位を与えない。		
到達目標	身体障害分野の評価を、対象者の症状に合わせて適切に選択・実施できる。 また得られた評価から、各対象者に合わせた治療プログラムを選択できる。		
授業形態	演習	対面	
関連科目	身体障害評価学	身体障害治療学	解剖学
	機能解剖学	運動学	日常生活活動学

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	身体障害治療学演習 概論	授業内容を実施する。
2回	レポート作成①(評価のまとめ)	授業内容を実施する。
3回	レポート作成②(ICF)	授業内容を実施する。
4回	レポート作成③(目標設定)	授業内容を実施する。
5回	レポート作成④(考察)	授業内容を実施する。
6回	レポート作成⑤(治療計画立案)	授業内容を実施する。
7回	評価計画の作成(評価項目列挙)	授業内容を実施する。
8回	評価計画の作成(時間・留意)	授業内容を実施する。
9回	レポート課題 グループフィードバック	授業内容を実施する。
10回	レポート課題 個人フィードバック	授業内容を実施する。
11回	実技演習①片麻痺機能検査・感覚検査	授業内容を実施する。
12回	実技演習②ROM・MMT	授業内容を実施する。
13回	実技演習③(動作分析)	授業内容を実施する。
14回	実技演習④(STEF・MFT等)	授業内容を実施する。
15回	実技演習⑤(HDS-R・MMSE等)	授業内容を実施する。
16回	治療介入についての検討(グループワーク)	授業内容を実施する。
17回	治療介入についての検討(実践演習)	授業内容を実施する。
18回	模擬患者演習(面接)	授業内容を実施する。
19回	模擬患者演習(移乗介助)	授業内容を実施する。
20回	T・Aによる実技指導・演習	授業内容を実施する。
21回	T・Aによる実技指導・演習	授業内容を実施する。
22回	T・Aによる実技指導・演習	授業内容を実施する。
23回	T・Aによる実技指導・演習	授業内容を実施する。

成績評価	提出課題50% 実技試験50%
課題やレポートに関するフィードバック	フィードバックはクラス全体に実施する。 レポートに対し、グループ単位でフィードバックを行う。
使用教材 教科書	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版 編集 山口 昇 他 医学書院 作業療法全書 改定第3版 第4巻 作業治療学1 身体障害 編集 菅原洋子 協同医書出版社 新・徒手筋力検査法 原著第10版 [Web動画付] 著者 Dale Avers・Marybeth Brown 協同医書出版社 ベッドサイドの神経の診かた 改定第18版 著者 田崎義昭 斎藤佳雄 南山堂
オフィスアワー	火、木、金 14:00~17:00位 教員室 もしくは G-mailで相談

		作業療法学科 夜間部			
科目	精神障害治療学Ⅱ	単位	1	コマ数	15
担当講師	山下 高介	学 年	3年生		
資格	作業療法士				
科目概要	作業療法は精神医療におけるリハビリテーションの中心に据えられており、評価から治療へいたる一連の流れや臨床思考過程を理解しておくことは、臨床の現場に出る前に必須のことである。そのため、作業療法の専門的な知識を活用した精神障害領域における実践について、座学と演習を通して学ぶ。				
学習の留意点	精神障害領域の作業療法では、複数の専門知識を多面的に組み合わせて対象者を支援します。本科目では、その中でも特に重要とされる専門知識や視点に絞り演習を行うことで学生の理解度を高めるように構成します。□				
到達目標	①疾患別の支援手法や種類を挙げることができる。 ②疾患別の支援を実演できる。 ③疾患別の支援結果を正しく記述し、解釈を説明できる。				
授業形態	講義		対面		
関連科目	精神障害治療学Ⅰ	0	0		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーションと導入	本科目の構成や評価方法について説明できる。
2回	精神科作業療法における統合失調症の評価と支援	面接演習で得た情報から、対象者の精神症状について自身の意見を述べるができる。
3回	統合失調症のケーススタディ①	面接演習で得た情報から、認知行動療法を用いて対象者像について自身でモデル化することができる。
4回	統合失調症のケーススタディ②	原稿をもとに、対象者の状態に合わせて面接技法を実演することができる。
5回	精神科作業療法におけるうつ病の評価と支援	Co-opアプローチについて、利点を列挙することができる。
6回	うつ病のケーススタディ①	Co-opアプローチについて、クラスメイトを相手に実演してみることができる。
7回	うつ病のケーススタディ②	統合失調症の回復指標を列挙できる。
8回	精神科作業療法における依存症候群の評価と支援	事例の情報をもとに、評価と支援内容を提案することができる。
9回	依存症候群のケーススタディ①	自身で提案した評価と支援内容を実施するための準備と実演がすることができる。
10回	依存症候群のケーススタディ②	うつ病の回復指標を列挙できる。
11回	#REF!	事例の情報をもとに、評価と支援内容を提案することができる。
12回	#REF!	自身で提案した評価と支援内容を実施するための準備と実演がすることができる。
13回	#REF!	依存症候群の回復指標を列挙できる。
14回	#REF!	事例の情報をもとに、評価と支援内容を提案することができる。
15回	#REF!	自身で提案した評価と支援内容を実施するための準備と実演がすることができる。

成績評価	下記の構成で、全体の60%以上で合格とします。 ①ポートフォリオ：10%、②演習課題：90%
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	教科書：精神科作業療法の理論と技術参考図書最新 作業療法学講座 精神障害作業療法学主観的感覚と生きづらさに寄り添う～精神科作業療法士が伝えたい臨床思考ケースブック精神科リハビリテーション評価法ハンドブック (e-book)
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	精神障害治療学演習	単位	1	コマ数	23
担当講師	深瀬勝久	学 年	3年生		
資格	作業療法士				

科目概要	精神科では薬を用いた治療以外に、疾患の特性や患者様の能力に合わせて作業療法・認知療法・行動療法・等々様々な治療・援助手段が用いられている。本講義ではそれら各種治療法の内容を、講義による説明と実体験を通して理解を進める。また作業療法におけるアクティビティの活用方法などについても学ぶ。		
学習の留意点	自分の心と身体の体感を通して学ぶことが求められるので、臆することなく実体験に臨んでほしい。特にリハビリテーション領域における作業療法の特徴は、心理・精神領域にもアプローチするところがあり、その魅力が伝わるよう工夫するので少しでも自分のものにしてもらえればよい。		
到達目標	①精神科における薬物療法以外の各種治療法について体験し、感想が述べられる。 ②各種治療法についてその意義・目的・方法について説明できる。 ③精神科におけるアクティビティ（作業活動）の活用方法について説明出来る。		
授業形態	実習	対面	
関連科目	臨床心理学	精神医学	精神障害治療学

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション	授業の流れを理解する
2回	精神医学の確認	統合失調症を理解する
3回	精神医学の確認	その他疾患を理解する
4回	評価技法	観察の体験とその理解
5回	評価技法	観察の体験とその理解
6回	評価技法	観察の体験とその理解
7回	作業遂行能力の評価	作業活動場面の観察
8回	作業遂行能力の評価	作業活動場面の観察
9回	焦点化	焦点化について理解する
10回	治療計画	治療計画について理解する
11回	事例検討	精神障害のペーパーペイシエントを使い、評価のまとめができる
12回	事例検討	精神障害のペーパーペイシエントを使い、評価のまとめができる
13回	事例検討	精神障害のペーパーペイシエントを使い、焦点化ができる
14回	事例検討	精神障害のペーパーペイシエントを使い焦点化ができる
15回	模擬患者演習	模擬患者の観察ができ、プロセスレコードが作成できる
16回	模擬患者演習	模擬患者の観察ができ、プロセスレコードが作成できる
17回	模擬患者演習	模擬患者の観察ができ、プロセスレコードが作成できる
18回	模擬患者演習	模擬患者の観察ができ、プロセスレコードが作成できる
19回	模擬患者演習	模擬患者の観察ができ、プロセスレコードが作成できる
20回	模擬患者演習	模擬患者の観察ができ、プロセスレコードが作成できる
21回	模擬患者演習	プロセスレコードを参考に評価のまとめができる
22回	模擬患者演習	プロセスレコードを参考に評価のまとめができる
23回	まとめ	模擬患者演習のレポートを提出

成績評価	小テストと授業内成果物で評価する。
課題やレポートに関するフィードバック	フィードバックは全体に行う。
使用教材 教科書	①精神障害と作業療法 ②精神疾患の理解と精神科作業療法
オフィスアワー	火・土・日曜日以外、午後17時まで。メールでご相談ください。

		作業療法学科 夜間部			
科目	発達障害治療学演習	単位	2	コマ数	30
担当講師	大西 麓子	学 年	3年生		
資格	作業療法士				

科目概要	発達障害領域の作業療法は、長期的視野を持って、またその人らしく生活を創造していかれるように、生活支援（援助）していくことが重要である。主に運動機能障害と知的な遅れを持った人たち（重度の脳性麻痺者）に対して評価（臨床観察・面接・実際に体を動かしてもらう）・援助方法を立案し、アプローチを実施する。		
学習の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次での授業（人間発達学）や小児学、発達障害評価学・治療学を再度学習し授業に臨んでください。</li> <li>・演習では動きやすい服装で参加してください</li> <li>・演習はグループで実施しますので、各人の役割を十分理解し、相談しながら意見を出し、自分のものにしてください。</li> </ul>		
到達目標	発達障害領域の脳性まひ疾患の基礎知識と評価の基礎から実践まで学び、対象者に必要な援助方法を実施できる（特に成人の場合）。		
授業形態	対面授業	講義	
関連科目	基礎作業学演習	発達障害評価学	発達障害治療学

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	発達障害治療学演習・企画書作成に向けてのオリエンテーション	演習の進行について理解し説明ができる
2回	提供情報の共有化・レポート作成に向けての指導	写真・動画からケースの特色を見出し、書き出すことができるようになる
3回	企画書作成	ケースの特色を見出し評価法を選ぶことができる
4回	企画書作成、実習のシュミレーション	列挙した評価法の説明と必要性を説明できる
5回	校内実習のシミュレーション（30分×2G）と修正	各人が選んだケースの特徴や評価法をグループで検討することができる。援助方法を考える
6回	企画書提出	各人が選んだケースの特徴や評価法をグループで検討することができる。援助方法を考える
7回	企画書のフィードバック	ケース1を迎えてグループが列挙した評価を実施できる
8回	企画書のフィードバック	面接方法・評価を実施することができる
9回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	ケース2を迎えてグループが列挙した評価を実施できる
10回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	面接方法・評価を実施することができる
11回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	各グループでケースの問題点・利点を共有化する
12回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	援助方法の再確認を行い、実施提案してみる
13回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	支援目標・援助方法をケースごとに提案・説明ができるよう文章化する。
14回	ケース発表のための準備	支援目標・援助方法をケースごとに提案・説明ができるよう文章化する。
15回	演習結果の共有化のための発表	ケースの発表を経験する。

成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験（ケースに関する課題）（30点）</li> <li>・レポート（演習のまとめ）（50点）</li> <li>・役割を遂行する（20点）</li> <li>・発表</li> </ul>
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項無し
使用教材 教科書	発達障害の作業療法 第3班 実践編 担当教員が作成した配布プリント
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 夜間部			
科目	老年期障害治療学	単位	1	コマ数	30
担当講師	松生	学 年	3年生		
資格	作業療法士：病院・老人保健施設12年、教育分野20年				

科目概要	高齢期における疾患、特性に対する理解を深め、作業療法評価・治療・援助を実践学ぶ。授業では、ディスカッションを含む演習を交え実施していく。				
学習の留意点	講義一辺倒ではなく、高齢者とともに楽しみながら行う作業療法を演習を通して学習するなどし、学生のモチベーションを上げながら実施していきます。				
到達目標	<高齢期における作業療法の治療検討および実践ができる> ○高齢社会を理解できる○高齢期の課題を理解できる○社会制度を理解できる○高齢期の作業療法を理解できる○高齢期の特徴を理解できる○高齢期に多い疾患について理解できる○認知症の全体像を理解できる○認知症の評価スケールを使用できる				
授業形態	講義		対面		
関連科目	老年学	地域作業療法学 I	身体障害評価学 I・II・演習		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション	この授業で学ぶ内容を理解し、高齢期における生活を想像し考察できる。
2回	高齢者の理解	高齢者を取り巻く環境を理解できる。
3回	高齢者の理解	高齢者の特徴を理解できる。(状態像)
4回	高齢者の理解	高齢者の特徴を理解できる。(多い疾患)
5回	高齢者を取り巻く社会情勢について「介護保険制度」	介護保険制度の概要を理解する
6回	高齢者を取り巻く社会情勢について「介護保険制度」	介護保険制度の施設サービスについて理解できる。
7回	高齢者を取り巻く社会情勢について「介護保険制度」	介護保険制度の居宅サービスについて理解できる。
8回	高齢者を取り巻く社会情勢について「介護保険制度」	介護保険制度の概要を他者に説明できる。
9回	認知症の理解	MICについて理解し、説明できる。認知症の分類や概要について理解できる。
10回	認知症の理解	4大認知症(アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症)について理解を深め、説明できる。
11回	認知症の理解	4大認知症(アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症)について理解を深め、説明できる。
12回	認知症の理解	4大認知症に対する接し方を学び、基本的考え方を理解する。
13回	認知症評価	認知症に対する評価スケールを理解する。
14回	認知症評価	認知症に対する評価スケールを対象者に合わせて選択し、実践できる。
15回	認知症	認知症の治療方法(運動療法、レクリエーションなど)を理解・説明できる。
16回	認知症	認知症の治療方法(回想法、学習療法など)を理解・説明できる。
17回	高齢者施設の作業療法の実際	高齢者施設における作業療法士の役割を理解する。
18回	高齢者施設の作業療法の実際	高齢者施設における作業療法士の役割を理解する。
19回	音楽療法について	音楽療法の実際を学び、その一部を経験する。
20回	音楽療法について	音楽療法の実際を学び、その一部を経験する。
21回	作業療法評価におけるツールの理解「人間作業モデル」「COPM」「ADOC」などの紹介。	作業療法評価のいくつかのツールを理解し説明できる。
22回	高齢者の介助方法について	車椅子・ベッド間のトランスファーの介助方法や自立に向けた援助方法について理解する。
23回	高齢者の介助方法について	車椅子・ベッド間のトランスファーの介助方法や自立に向けた援助方法について実技を通して身につける。
24回	高齢者の介助方法について	車椅子・ベッド間のトランスファー介助方法や自立に向けて実践し身につける。
25回	フレイル・サルコペニア・ロコモティブ・シンドロームについて	フレイル・サルコペニア・ロコモティブシンドロームについての評価を実践し、理解できる。
26回	フレイル・サルコペニア・ロコモティブ・シンドロームについて	フレイル・サルコペニア・ロコモティブシンドロームについての評価を実践し、理解できる。
27回	症例検討「老年期分野」	高齢者事例をグループ検討するをし、全体像の把握ができる。
28回	症例検討「老年期分野」	事例検討を進めリハビリテーション計画書の作成ができる。
29回	症例検討「老年期分野」	事例検討を進めリハビリテーション計画書の作成ができる。
30回	症例検討「老年期分野」	作成したリハビリテーション実施計画書を論理的に説明ができる。

成績評価	筆記試験(定期試験80%)とグループワーク時のレポート(20%)を合算して評価します。60点以上を合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	授業内及び授業後、その他メール等で適宜受け付けます。
使用教材教科書	「標準作業療法学 高齢期作業療法学 第3版」編集：松房利憲、荒井健五 医学書院
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	日常生活活動学演習	単位	1	コマ数	23
担当講師	山田 慶	学 年	3年生		
資格					
科目概要	MTDLPの生活行為工程分析に該当する作業療法評価から支援プログラム立案までの道筋を、CVAの日常生活活動の分析を中心に学習する。観察記録やBI、FIMなどの評価法を実際に活用する。				
学習の留意点	解剖学、運動学、日常生活活動学の復習を行ってください。 実際の臨床実習や現場でどのように考えて日常生活をとらえるのか、これまでの作業療法評価の学習を基盤にして、学生自身の考えが持てるように取り組みましょう。 また、評価の技術が不足していると感じる場合は積極的に自己学習に取り組みましょう。				
到達目標	CVAの日常生活活動を中心とした作業療法評価から支援プログラム立案までの道筋を説明できる。 また、観察記録やBI、FIMなどの評価法を実際に活用することができる。				
授業形態	演習		対面		
関連科目	運動学Ⅰ	運動学Ⅱ	運動学実習		
	日常生活活動学	臨床実習	0		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	日常生活活動の評価方法	日常生活活動の評価について説明できる
2回	日常生活活動とは、作業分析	作業分析について説明できる
3回	ADL作業分析 上衣更衣	上衣更衣の作業を分析できる
4回	ADL作業分析 排泄	排泄の作業を分析できる
5回	喀痰吸引の講義	吸引の留意点を説明できる
6回	喀痰吸引の実技演習	吸引手技を実施できる
7回	「Barthel Index」「FIM」を用いたの評価	2つの評価の概要を説明できる。
8回	ペーパー・ペイシエントを用いた「BI」「FIM」の評価	個人で評価をつけることができる。
9回	ADL評価：討議	個人の評価を議論し視点の違いに気付く。
10回	ADL評価：発表	さらに多数の意見を聞き違いに気付く。
11回	症例検討①情報収集、評価計画	情報収集、評価計画ができる。
12回	症例検討②評価のまとめ、ICF分類	評価のまとめや、ICF分類を作成できる。
13回	症例検討③評価結果の解釈	評価結果の個人の解釈を文章にできる。
14回	症例検討④目標の設定と治療プログラム立案	目標設定と治療プログラム立案の理由が説明できる。
15回	症例検討⑤討議	他者の考えを聞き視点の違いに気付く。
16回	症例検討⑥治療プログラム準備	実際にプログラムを実施するための環境を説明できる。
17回	症例検討⑦治療プログラム発表	模擬患者に向けて実際にプログラムを実施する。
18回	症例検討⑧治療プログラム発表	模擬患者に向けて実際にプログラムを実施する。
19回	調理作業とは	調理作業の分析ができる。
20回	調理作業準備	片麻痺者が調理できる環境や手順を説明できる。
21回	調理実習①	考えた手順に従い調理を実施する。
22回	調理実習②	考えた手順に従い調理を実施する。
23回	杖歩行、階段昇降等援助演習	杖や階段昇降の支援方法を実施できる。

成績評価	定期試験と課題提出により60%以上を合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材 教科書	ADLとその周辺-第3版- 伊藤利之 鎌倉矩子 医学書院
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	高次脳機能障害治療学	単位	1	コマ数	15
担当講師	柴田 美雅	学 年	3年生		
資格	<b>【作業療法実務経験】13年</b> ・急性期・回復期・外来等 医療機関および老人保健施設での臨床経験 ・通所リハビリテーション事業所での、役職および管理経験 <b>【養成校教育経験】8年</b> ・医療福祉教育・管理修士				

科目概要	作業療法治療学として、高次脳機能障害に対する基本的な作業療法について理解する科目となります。 <b>【モデルコアカリ】</b> F-2-4) 高次脳機能障害作業療法 F-1-3) 神経障害作業療法評価学		
学習の留意点	高次脳機能とは人が毎日の生活を営む上で欠かせないコミュニケーションや様々な行為の土台になる機能です。 脳血管疾患や頭部外傷などで脳に損傷を負ってしまった場合、今までのその人らしさを失い、家族や周りの人たちはどう関われば良いのか困惑し、生活のしづらさを抱えてしまいます。この授業では高次脳機能障害の障害特性を学び、その評価方法や社会生活においてどのような支障があり、それに対してどのような支援が必要かを具体的に考えられるようにしましょう。高次脳機能障害にはたくさんの種類があり、障害特性を捉えにくい、イメージしづらい障害もありますが、講義での動画や高次脳機能障害の方々の話を交えて、イメージができるようにしましょう。また、自分の生活に置き換えて高次脳機能を捉えていくことも大切です。		
到達目標	①高次脳機能に関わる脳の局在を説明できる。 ①それぞれの脳の局在が障害されたときどのような障害がでるか、障害名と障害特性を説明できる ②障害ごとの予後予測について説明できる。 ③高次脳機能障害の評価概要を理解し、病態に応じた評価を選定、実施ができる。 ④障害ごとの作業療法について模擬実践できる		
授業形態	講義	対面	
関連科目	作業療法評治療学演習	作業療法評価学演習	職業関連活動学

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	高次脳機能障害作業療法の基礎①高次脳機能とは P3～12	脳の役割/高次脳の種類/高次脳機能の障害とは何か、を説明できる
2回	高次脳機能障害作業療法の基礎②脳解剖と画像診断 P15～23	脳の解剖学的構造/脳の局在と機能/脳画像所見の診かたについて説明できる
3回	第1・2回講義復習●意識・情動の障害 P9～ P11～	高次脳機能障害作業療法の基礎①②の理解度確認 情動/意識の構造について説明できる
4回	●注意の障害① P47～55	注意障害の分類/責任病巣/メカニズムについて
5回	●注意の障害② P47～55	注意障害の評価 (CAT, TMT) とアプローチについて 説明し実施できる
6回	●記憶の障害 P56～66	記憶のメカニズム/記憶の構造/記憶の分類を説明できる (ペントン視覚記憶力検査、三宅式記憶力検査、他代表的バッテリー) を実施、介入を説明できる
7回	●言語の障害 P68～77	失語症状の分類/病巣責任/タイプ分類/評価 (SLTA) とアプローチについて説明ができる
8回	●認知の障害① P97～P107 失認	失認の分類と病態/責任病巣/評価について説明および実施ができる
9回	●認知の障害② 半側空間無視 P112～P125	症状・責任病巣/半側空間無視の評価 (BIT) /ADL評価について説明できる。
10回	●行為の障害 P81～92	失行の分類と病態/責任病巣/評価 (SPTA) について説明できる
11回	●遂行機能の障害 P128～139	病態・責任病巣/遂行機能の構成要素と症状/代表的な評価 (BADS, WCST) について説明できる。
12回	●思考の障害 社会的行動障害 P142～P154	社会的行動障害の病態/責任病巣/評価を説明できる。評価を実施できる。介入方法を説明できる。
13回	模擬実践・症例検討演習①	模擬事例の疾患・病態・障害をもとに、高次脳機能障害の作業療法評価と支援についてまとめる
14回	模擬実践・症例検討演習②	模擬事例の疾患・病態・障害をもとに、高次脳機能障害の作業療法評価と支援についてまとめる
15回	まとめ：高次脳機能障害の国試問題	国家試験過去問について、調べ学習の上、解説ができ、回答を導くことができる。

成績評価	知識の習得度：下記定期試験対象 合計100点満点で6割以上 定期試験対象：第1・2回目の確認小テスト (20点)、第4～12回目 確認テスト (70点) 第13～15回目課題 (10点)
課題やレポートに関するフィードバック	単元 (テーマ) ごとに、必要時フィードバックをします。
使用教材教科書	標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 医学書院 能登真一 高次脳機能障害ポケットマニュアル第3版 医歯薬出版 原寛美 担当教員が作成した配布プリントを使用、随時、評価記録用紙などを配布
オフィスアワー	毎週金曜日を除く勤務時

		作業療法学 夜間部			
科目	高次脳機能障害治療学	単位	1	コマ数	15
担当講師	柴田 美雅	学 年	3年生		
資格	認定作業療法士/医療福祉教育・管理修士				

科目概要	作業療法治療学として、高次脳機能障害に対する基本的な作業療法について理解する科目となります。 【モデルコアカリ】F-2-4) 高次脳機能障害作業療法 F-1-3) 神経障害作業療法評価学		
学習の留意点	高次脳機能とは人が毎日の生活を営む上で欠かせないコミュニケーションや様々な行為の土台になる機能です。 脳血管疾患や頭部外傷などで脳に損傷を負ってしまった場合、今までのその人らしさを失い、家族や周りの人たちはどう関われば良いのか困惑し、生活のしづらさを抱えてしまいます。この授業では高次脳機能障害の障害特性を学び、その評価方法や社会生活においてどのような支障があり、それに対してどのような支援が必要かを具体的に考えられるようにしましょう。高次脳機能障害にはたくさんの種類があり、障害特性を捉えにくい、イメージしづらい障害もありますが、講義での動画や高次脳機能障害の方々の話を交えて、イメージができるようにしましょう。また、自分の生活に置き換えて高次脳機能を捉えていくことも大切です。		
到達目標	①高次脳機能に関わる脳の局在を説明できる。 ②それぞれの脳の局在が障害されたときどのような障害がでるか、障害名と障害特性を説明できる ③障害ごとの予後予測について説明できる。 ④高次脳機能障害の評価概要を理解し、病態に応じた評価を選定、実施ができる。 ⑤障害ごとの作業療法について模擬実践できる		
授業形態	講義	対面	
関連科目	作業療法評価学演習	作業療法学演習	職業関連活動学

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	高次脳機能障害作業療法の基礎①高次脳機能とは P3～12	脳の役割/高次脳の種類/高次脳機能の障害とは何か、を説明できる
2回	高次脳機能障害作業療法の基礎②脳解剖と画像診断 P15～23	脳の解剖学的構造/脳の局在と機能/脳画像所見の診かたについて説明できる
3回	第1・2回講義復習●意識・情動の障害 P9～ P11～	高次脳機能障害作業療法の基礎①②の理解度確認 情動/意識の構造について説明できる
4回	●注意の障害① P47～55	注意障害の分類/責任病巣/メカニズムについて
5回	●注意の障害② P47～55	注意障害の評価 (CAT、TMT) とアプローチについて 説明し実施できる
6回	●記憶の障害 P56～66	記憶のメカニズム/記憶の構造/記憶の分類を説明できる (ベントン視覚記憶力検査、三宅式記憶力検査、他代表的バッテリー) を実施、介入を説明できる
7回	●言語の障害 P68～77	失語症状の分類/病巣責任/タイプ分類/評価 (SLTA) とアプローチについて説明ができる
8回	●認知の障害① P97～P107 失認	失認の分類と病態/責任病巣/評価について説明および実施ができる
9回	●認知の障害② 半側空間無視 P112～P125	症状・責任病巣/半側空間無視の評価 (BIT) /ADL評価について説明できる。
10回	●行為の障害 P81～92	失行の分類と病態/責任病巣/評価 (SPTA) について説明できる
11回	●遂行機能の障害 P128～139	病態・責任病巣/遂行機能の構成要素と症状/代表的な評価 (BADS、WCST) について説明できる。
12回	●思考の障害 社会的行動障害 P142～P154	社会的行動障害の病態/責任病巣/評価を説明できる。評価を実施できる。介入方法を説明できる。
13回	模擬実践・症例検討演習①	模擬事例の疾患・病態・障害をもとに、高次脳機能障害の作業療法評価と支援についてまとめる
14回	模擬実践・症例検討演習②	模擬事例の疾患・病態・障害をもとに、高次脳機能障害の作業療法評価と支援についてまとめる
15回	まとめ：高次脳機能障害の国試問題	国家試験過去問について、調べ学習の上、解説ができ、回答を導くことができる。

成績評価	知識の習得度：下記定期試験対象 合計100点満点で6割以上 定期試験対象：第1・2回目の確認小テスト (20点)、第4～12回目 確認テスト (70点) 第13～15回目課題 (10点)
課題やレポートに関するフィードバック	単元 (テーマ) ごとに、必要時フィードバックをします。
使用教材教科書	標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 医学書院 能登真一 高次脳機能障害ポケットマニュアル第3版 医歯薬出版 原寛美 担当教員が作成した配布プリントを使用、随時、評価記録用紙などを配布
オフィスアワー	毎週金曜日を除く勤務時

		作業療法学科 夜間部			
科目	職業関連活動学	単位	1	コマ数	15
担当講師	柴田 美雅	学 年	3年生		
資格	認定作業療法士／医療福祉教育・管理修士				

科目概要	この授業では、人にとって『職業』とはどのような意味があるのかを考え、職業リハビリテーション概念、理論を知り、作業療法士が障害者の就労にどのような役割をもち、どのような関わりができるかを学ぶことを目的とします。【モデルコアカリ】F-3-2就労支援領域における作業療法				
学習の留意点	グループワークでは、自分の意見や考えを持ちつつ、他者の視点や考えも踏まえて理解を深められるようにしてください。				
到達目標	①職業の定義とキャリア発達について理解する ②職業支援に関する理論について理解する ③障害者の就労制度について理解する ④就労支援における作業療法評価、作業療法士の役割、関連機関との連携を理解する ⑤障害ごとの作業療法について理解する（精神障害・身体障害・高次脳機能障害・知的障害・発達障害）①～⑤学生が自身の考えや意見を持ち、理解したことを記載してまとめ、説明できること				
授業形態	講義		対面		
関連科目	作業療法評価学	疾患別治療学	-		

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	人と職業：職業の定義・分類、職業の意味と構成要素、働くことの二面性	講義内容の要点を説明できる
2回	職業リハビリテーション活動の概念：コース、役割、サービスや支援の戦略、役割の代替	講義内容の要点を説明できる
3回	就労支援に関する理論：欲求階層モデル、職業的発達など	講義内容の要点を説明できる
4回	障害者と職業①：キャリア発達の視点、障害者雇用の現状	講義内容の要点を説明できる
5回	障害者と職業②：障害者の就労制度	講義内容の要点を説明できる
6回	職業関連活動における作業療法①：就労支援における作業療法の役割、関連職種との連携	講義内容の要点を説明できる
7回	職業関連活動における作業療法②：作業療法評価過程	講義内容の要点を説明できる
8回	職業関連活動における作業療法③：作業療法治療過程	講義内容の要点を説明できる
9回	障害者別就労支援の実例：事例学習に向けた疾患別障害特性について：グループワーク学習	事例について課題となる内容をまとめる。自身の意見を持ち、グループで共有し理解したことを発表できる、課題にまとめられる。
10回	障害者別就労支援の実例1：精神障害の就労事例	事例について課題となる内容をまとめる。自身の意見を持ち、グループで共有し理解したことを発表できる、課題にまとめられる。
11回	障害者別就労支援の実例2：身体障害の就労事例	事例について課題となる内容をまとめる。自身の意見を持ち、グループで共有し理解したことを発表できる、課題にまとめられる。
12回	障害者別就労支援の実例3：高次脳機能障害の就労事例	事例について課題となる内容をまとめる。自身の意見を持ち、グループで共有し理解したことを発表できる、課題にまとめられる。
13回	障害者別就労支援の実例4：知的障害の就労事例	事例について課題となる内容をまとめる。自身の意見を持ち、グループで共有し理解したことを発表できる、課題にまとめられる。
14回	まとめ①：国家試験過去問と学習内容の確認：グループワーク調べ学習	講義や演習で学んだ知識を国家試験過去問を通して、解説・解答できる
15回	まとめ②：国家試験過去問と学習内容の確認：グループワーク発表	講義や演習で学んだ知識を国家試験過去問を通して、解説・解答できる

成績評価	●提出期限厳守・課題の取組み 20% ●グループワーク課題：20%（課題内容やまとめ方の工夫等） ●定期試験：60% これらを100%として総合評価とする
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	・キャリア支援に基づく職業リハビリテーションカウンセラー理論と実際ー：松為 信雄（ジアース教育新社） ・作業療法学全書第12巻 職業関連活動 作業療法技術学4：平賀昭信・岩瀬義昭 編集日本作業療法士協会 監修（協同医書出版）
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	作業療法総合演習Ⅱ	単位	2	コマ数	30
担当講師	OT教員	学 年	3年生		
資格	作業療法士				

科目概要	臨床実習Ⅰの実施後に振り返りを行い、臨床実習Ⅱの準備教育を行う。 1) 身体障害系セミナー 2) 老年障害系セミナー 3) 発達障害系セミナー 4) 精神障害系セミナー 各評価学・治療学の振り返りの講義、実技演習。				
学習の留意点	ただ単に検査・測定知識や技術を習得に限局せず、学生自身が考察・検討しながら進めていくことで、臨床思考過程も養っていくよう課題の提供を行う。				
到達目標	事例報告を中心とした演習、評価実技などを共同学習において学び、総合実習に必要な知識を確認する。 評価学、治療学などの振り返りを通じて、作業療法についての理解を深める。				
授業形態	実習			対面	
関連科目	臨床実習Ⅰ	臨床実習Ⅱ	0		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション「作業療法総合演習Ⅱの全体説明」	この授業の全体像を理解する。
2回	評価・治療演習 身体障害分野① 情報収集	対象者に合わせた評価項目を列挙できる
3回	評価・治療演習 身体障害分野② 面接、観察	対象者の状態に応じた面接・観察の準備・対応ができる
4回	評価・治療演習 身体障害分野③ 検査・測定	身体障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
5回	評価・治療演習 身体障害分野④ 全体像のまとめ	評価した内容から全体像をまとめることができる
6回	評価・治療演習 身体障害分野⑤ 目標設定	対象者に見合った目標設定ができる
7回	評価・治療演習 身体障害分野⑥ 治療・再評価	治療プログラム立案と必要な再評価を列挙することができる
8回	評価・治療演習 身体障害分野⑦ 考察	全体像から利点・問題点を見出し、目標設定までの結びつけを説明できる
9回	評価・治療演習 老年障害分野① 情報収集	対象者に合わせた評価項目を列挙できる
10回	評価・治療演習 老年障害分野② 面接、観察	対象者の状態に応じた面接・観察の準備・対応ができる
11回	評価・治療演習 老年障害分野③ 検査・測定	老年障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
12回	評価・治療演習 老年障害分野④ 全体像のまとめ	評価した内容から全体像をまとめることができる
13回	評価・治療演習 老年障害分野⑤ 目標設定	対象者に見合った目標設定ができる
14回	評価・治療演習 老年障害分野⑥ 治療・再評価	治療プログラム立案と必要な再評価を列挙することができる
15回	評価・治療演習 老年障害分野⑦ 考察	全体像から利点・問題点を見出し、目標設定までの結びつけを説明できる
16回	評価・治療演習 発達障害分野① 情報収集	対象者に合わせた評価項目を列挙できる
17回	評価・治療演習 発達障害分野② 面接、観察	対象者の状態に応じた面接・観察の準備・対応ができる
18回	評価・治療演習 発達障害分野③ 検査・測定	発達障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
19回	評価・治療演習 発達障害分野④ 全体像のまとめ	評価した内容から全体像をまとめることができる
20回	評価・治療演習 発達障害分野⑤ 目標設定	対象者に見合った目標設定ができる
21回	評価・治療演習 発達障害分野⑥ 治療・再評価	治療プログラム立案と必要な再評価を列挙することができる
22回	評価・治療演習 発達障害分野⑦ 考察	全体像から利点・問題点を見出し、目標設定までの結びつけを説明できる
23回	評価・治療演習 精神障害分野① 情報収集	対象者に合わせた評価項目を列挙できる
24回	評価・治療演習 精神障害分野② 面接、観察	対象者の状態に応じた面接・観察の準備・対応ができる
25回	評価・治療演習 精神障害分野③ 検査・測定	精神障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
26回	評価・治療演習 精神障害分野④ 全体像のまとめ	評価した内容から全体像をまとめることができる
27回	評価・治療演習 精神障害分野⑤ 目標設定	対象者に見合った目標設定ができる
28回	評価・治療演習 精神障害分野⑥ 治療・再評価	治療プログラム立案と必要な再評価を列挙することができる
29回	評価・治療演習 精神障害分野⑦ 考察	全体像から利点・問題点を見出し、目標設定までの結びつけを説明できる
30回	全体の振り返り、まとめ	各分野において適切な評価を実施できる

成績評価	演習中の課題提出とその内容で評価する。
課題やレポートに関するフィードバック	授業内及び授業外で適宜フィードバックします。
使用教材教科書	評価実習に必要な教科書・資料を各自準備してください。
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	臨床実習 I	単位	6	時間数	270
担当講師	作業療法学科教員	学 年		3年生	
資格	作業療法士				

科目概要	臨床実習 I は、臨床実習指導者のもとで、作業療法の評価の修得と実践を行う 1. 各臨床実習施設における作業療法および作業療法士の役割と機能を学ぶ 2. 臨床実習指導者の指導、援助のもとに、実習生が対象児・者を全体的に把握する 3. 2. の評価に基づき実習生は、臨床実習指導者の指導・援助のもとに評価のまとめを行い、作業療法目標を設定する 4. 作業療法士としての基本的態度を習得し、専門職としての能力の向上・充実をはかる		
学習の留意点	社会人として、職業人としての身だしなみ、挨拶、言葉遣い、所作、立ち振る舞い、全体的な礼儀などの行動全体に気を付ける。 原則として遅刻、早退、欠席は認めない。 実習全体の8割以上の出席で合否判定を行う。		
到達目標	今までの学内での講義・演習、および臨床実習（早期見学実習：1年次、地域見学実習：2年次）で修得した、知識、コミュニケーション能力、作業療法の検査、臨床的推論・思考のもとに、指導者の指導・援助のもと、対象児・者への作業療法検査・評価が実施できることを目標とする。 ①作業療法士としての礼儀・礼節・接遇が体現でき、基本的なルールを遵守することができる。 ②実習に意欲的に取り組むことが出来る ③作業療法の業務を理解し、対象者に対してリスク管理を行うことが出来る ④作業療法評価の計画・準備を行うことができる ⑤対象者の観察・検査結果から、全体像をまとめることが出来る ⑥必要な事項を選択肢、記録を行うことが出来る ⑦状況に応じて、指導者やスタッフに連絡・報告・相談ができる。		
授業形態	実習		対面
関連科目	基礎科目全般	専門基礎科目全般	専門科目全般

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	実習前	
2回	①実習担当者と面談し、実習の実施方法を確認し、効果的な実習を実施できるように準備する。	
3回	②各授業の指定教科書等・講義資料のポイント、臨床実習前講義で実施した内容は実習前に整理し、確認すること。 ③コミュニケーション技能、実技練習を入念に実施し、実習に備えること。	
4回	臨床実習	
5回	①臨床現場では作業療法分野だけでなく、多職種連携を常に思い浮かべて、広範囲の知識と技術を体系的に学んでいく。	
6回	②臨床現場では積極的に様々なことを体験、見学するように努めること。 ③習得した知識は毎日書類（ポートフォリオ）として記録すること。	
7回	実習後	
8回	①実習中に学んだ点を整理し、発表の準備を行うこと。 ②必要に応じて実習担当者と面談し、実習の総括を実施すること。 ③実習の成果を書類にまとめ、提出すること。	
9回	第1週：施設の概要を知る、施設における作業療法の役割を知る、対象者との初回面接、対象者の観察・検査・評価	
10回	施設及び作業療法室についてのオリエンテーションを受け、対象児・者の観察、作業療法の用い方、道具などに触れる。対象児・者の協力を得て、検査・評価の実践を行う。	
11回	第2週：対象者の観察・検査・評価	
12回	臨床実習指導者の指導の下で、対象児・者の協力を得て、作業療法検査・評価の実践を行う。必要な記録を残す。	
13回	第3週：対象者の評価及びまとめ、リハビリテーションおよび作業療法目標の設定、臨床実習指導者からのフィードバック	
14回	臨床実習指導者のもとで、対象児・者の協力を得て観察・検査・評価の実践をし、情報の整理、統合、解釈を行い、リハビリテーションおよび作業療法目標の設定を試みる。必要な記録を残す。	
15回		

成績評価	実習地評価、課題・提出物、OSCE、臨床思考過程をもとに総合的に判断する。
課題やレポートに関するフィードバック	実習後、学内にて発表・課題提出を行い、事後にフィードバックする。
使用教材教科書	学校指定ケーシー、白靴、実習にふさわしい身だしなみが必要。 施設によるが、通院時はスーツ着用。 学生評価表やデイリーノート、ケースノート、出欠表、必要時には各種報告書など実習書類を持参する。 臨床実習の手引き 学校資料
オフィスアワー	担任 作業療法学科教員

		作業療法学科 夜間部			
科目	作業療法臨床セミナーⅡ	単位	2	コマ数	30
担当講師	OT教員	学 年	4年生		
資格	作業療法士				

科目概要	実習直前に準備教育を行い、臨床能力の向上を目指す。 実習で経験してきたことを振り返り、次期の実習に活かす。 実習終了後には実習で経験してきたことを振り返り、知識と経験の定着を促す。 具体的には、臨床実習Ⅱの終了後、事例報告を中心とした相互学習を通じて、学習経験を共有する。				
学習の留意点	臨床実習Ⅰでは学びえなかった治療プログラム立案・治療実施に向けた課題の提供を行います。				
到達目標	レジメを活用し、作業療法の臨床思考を学びながら事例報告、討論が行える。臨床場面での応用を含めた展開方法などについても知る。				
授業形態	実習		対面		
関連科目	臨床実習Ⅱ	0	0		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	作業療法臨床セミナーⅡの全体説明	この授業の趣旨を理解し、問われたことに答えられる。
2回	レポート・レジメのまとめ方① 情報収集（一般、社会的、医学的）	レジメ作成のための情報収集（一般、社会的、医学的）のまとめができる。
3回	レポート・レジメのまとめ方② 作業療法評価（面接、観察、検査・測定）	レジメ作成のための作業療法評価についてまとめができる。
4回	レポート・レジメのまとめ方③ 全体像のまとめ	レジメ作成において全体像のまとめができる。
5回	レポート・レジメのまとめ方④ 目標設定・治療プログラム立案・考察	レジメ作成において目標設定・治療プログラム立案ができる。またその、思考過程における考察ができる。
6回	身体障害分野① 症例A 発表	症例Aの状態像を理解し、説明ができる。
7回	身体障害分野② 症例A 検討	症例Aの状態像から質疑や意見を述べることができる。
8回	身体障害分野③ 症例B 発表	症例Bの状態像を理解し、説明ができる。
9回	身体障害分野④ 症例B 検討	症例Bの状態像から質疑や意見を述べることができる。
10回	身体障害分野⑤ 症例C 発表	症例Cの状態像を理解し、説明ができる。
11回	身体障害分野⑥ 症例C 検討	症例Cの状態像から質疑や意見を述べることができる。
12回	老年期障害分野① 症例D 発表	症例Dの状態像を理解し、説明ができる。
13回	老年期障害分野② 症例D 検討	症例Dの状態像から質疑や意見を述べることができる。
14回	老年期障害分野③ 症例E 発表	症例Eの状態像を理解し、説明ができる。
15回	老年期障害分野④ 症例E 検討	症例Eの状態像から質疑や意見を述べることができる。
16回	老年期障害分野⑤ 症例F 発表	症例Fの状態像を理解し、説明ができる。
17回	老年期障害分野⑥ 症例F 検討	症例Fの状態像から質疑や意見を述べることができる。
18回	発達障害分野① 症例G 発表	症例Gの状態像を理解し、説明ができる。
19回	発達障害分野② 症例G 検討	症例Gの状態像から質疑や意見を述べることができる。
20回	発達障害分野③ 症例H 発表	症例Hの状態像を理解し、説明ができる。
21回	発達障害分野④ 症例H 検討	症例Hの状態像から質疑や意見を述べることができる。
22回	発達障害分野⑤ 症例I 発表	症例Iの状態像を理解し、説明ができる。
23回	発達障害分野⑥ 症例I 検討	症例Iの状態像から質疑や意見を述べることができる。
24回	精神障害分野① 症例J 発表	症例Jの状態像を理解し、説明ができる。
25回	精神障害分野② 症例J 検討	症例Jの状態像から質疑や意見を述べることができる。
26回	精神障害分野③ 症例K 発表	症例Kの状態像を理解し、説明ができる。
27回	精神障害分野④ 症例K 検討	症例Kの状態像から質疑や意見を述べることができる。
28回	精神障害分野⑤ 症例L 発表	症例Lの状態像を理解し、説明ができる。
29回	精神障害分野⑥ 症例L 検討	症例Lの状態像から質疑や意見を述べることができる。
30回	全体の振り返り・まとめ	症例発表の課題提出ができる。

成績評価	セミナー発表（事例報告）50%、提出課題50%を合算して評価します。
課題やレポートに関するフィードバック	フィードバックはクラス全体に実施する。事例報告を踏まえて、適宜フィードバックを行う。
使用教材 教科書	0
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	地域作業療法学Ⅱ	単位	1	コマ数	15
担当講師	松生	学 年		4年生	
資格	作業療法士				
科目概要	地域社会でリハビリテーション業務に携わる作業療法士や多職種による講義、演習授業により、各分野（身体、精神、老年、発達、就労支援）での地域作業療法を学ぶ。 授業方法：「講義」「ディスカッション」「グループワーク」「個別演習」などを実施する。				
学習の留意点	興味のある分野に留まらず、すべての分野に興味・関心を持ち臨んでください。地域社会の現状を知り、その中で課題となっていることや今後発展的に作業療法士が活躍できる場をともに考え、検討していきましょう。その上で、自分自身が精進するために必要な専門的オプションを探求していきましょう。				
到達目標	①地域リハビリテーションを理解する ②地域における作業療法士の役割を理解する ③現状のさ地域作業療法を知る ④地域における作業療法士の可能性を探究することができる				
授業形態	講義			対面	
関連科目	地域作業療法学Ⅰ	地域実習セミナー		老年期治療学	

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	地域作業療法概論「地域リハビリテーションとは」	地域リハビリテーションを理解する。
2回	地域作業療法概論「地域作業療法とは」	地域作業療法を理解する。
3回	地域作業療法各論「身体障害分野（訪問リハビリ）」	身体障害の訪問リハビリについて理解する。
4回	地域作業療法各論「身体障害分野（訪問リハビリ）」	身体障害の訪問リハビリについて理解する。
5回	地域作業療法各論「精神障害分野（訪問リハビリ）」	精神障害の訪問リハビリについて理解する。
6回	地域作業療法各論「精神障害分野（訪問リハビリ）」	精神障害の訪問リハビリについて理解する。
7回	地域作業療法各論「老年期障害分野（宅老所）」	宅老所の機能を知り、作業療法士に求められる役割を考察する。
8回	地域作業療法各論「老年期障害分野（宅老所）」	宅老所の機能を知り、作業療法士に求められる役割を考察する。
9回	地域作業療法各論「発達障害分野」	発達障害分野の地域作業療法を理解する。
10回	地域作業療法各論「発達障害分野」	発達障害分野の地域作業療法を理解する。
11回	地域作業療法各論「就労支援」	就労支援の仕組みを理解し、そこで働く作業療法士の役割を理解する。
12回	地域作業療法各論「就労支援」	就労支援の仕組みを理解し、そこで働く作業療法士の役割を理解する。
13回	地域作業療法各論「高次脳機能障害」	高次脳機能障害を持つ対象者に対して地域生活を進めるうえでの支援方法を学ぶ。
14回	地域作業療法各論「高次脳機能障害」	高次脳機能障害を持つ対象者に対して地域生活を進めるうえでの支援方法を学ぶ。
15回	地域作業療法のまとめ	地域作業療法の今後についてこれまで学んだことを振り返り、考察する。

成績評価	毎回のリアクションペーパーを合算し、成績判定を行います。総計した60点以上を合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	授業内で直接フィードバックを行います。また、リアクションシートを介してフィードバックも可能です。
使用教材 教科書	担当者から資料を提供します。
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	作業療法特論	単位	12	コマ数	180
担当講師	OT教員	学 年		4年生	
資格	作業療法士				

科目概要	基礎分野・専門基礎分野・専門分野の1年～4年前期までの学習を振り返り、作業療法実践のために必要な知識を再学習する。 臨床における実地的な知識をグループワークなどを通して習得する				
学習の留意点	専門分野が多岐にわたるため、複数の専任教員及び非常勤講師で、進めていくことで学生のフォローをしていきます。自ら調べるなりグループとして理解を深めることが中心となりますが、授業時間外でも積極的に教員へ質問することも心掛けてください。適宜対応いたします。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>解剖学・生理学・運動学・心理学などの基礎分野の知識を習得する</li> <li>各臨床医学を含む専門基礎分野の知識を習得する</li> <li>作業療法の専門分野の知識を各領域ごとに習得する</li> </ul>				
授業形態	実習			対面	
関連科目	0	0	0	0	0

#### 授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	基礎分野解剖学・生理学・運動学・心理学などの基礎分野について（講義・グループワーク）	解剖学・生理学・運動学・心理学などの基礎分野について国家試験レベルの問題を解くことができる。
2回	専門基礎分野各臨床医学などの専門基礎分野について（講義・グループワーク）	各臨床医学などの専門基礎分野について国家試験レベルの問題を解くことができる。
3回	専門分野評価学・治療学などの作業療法専門分野について（講義・グループワーク）	評価学・治療学などの作業療法専門分野について国家試験レベルの問題を解くことができる。

成績評価	各期での筆記試験で評価する。
課題やレポートに関するフィードバック	適宜授業内・外でフィードバックを行います。
使用教材教科書	0
オフィスアワー	

		作業療法学科 夜間部			
科目	臨床実習Ⅱ	単位	16	時間数	720
担当講師	作業療法学科教員	学 年		4年生	
資格	作業療法士				
科目概要	臨床実習Ⅱは、臨床実習指導者のもとで、職業人としての総合的、かつ、作業療法の基本的技能の取得と実践を行う 1. 臨床実習指導者の指導・援助を受けながら、対象児・者の評価、作業療法の計画・実施、その記録報告、再評価という一貫した作業療法のプロセスを体験・習得する。 2. 作業療法士としての、管理・運営業務を学ぶ 3. 他職種との協働（チーム医療）を体験・習得する。 4. 対象児・者に対する、総合リハビリテーションサービスの中での、作業療法の意義を考え、作業療法士の役割と機能を学ぶ				
学習の留意点	社会人として、職業人としての身だしなみ、挨拶、言葉遣い、所作、立ち振る舞い、全体的な礼儀などの行動全体に気を付ける。 原則として遅刻、早退、欠席は認めない。 実習全体の8割以上の出席で合否判定を行う。				
到達目標	今までの学内での講義・演習、および臨床実習（早期見学実習：1年次、見学実習：2年次、臨床実習Ⅰ：3年次）で修得した、知識、コミュニケーション能力、作業療法の検査、臨床的推論・思考をもとに、指導者の指導・援助のもと、対象児・者への評価、作業療法の計画・実施、その記録報告、再評価という一貫した作業療法のプロセスを体験・習得することを目標とする。 ①作業療法士としての礼儀・礼節・接遇が体現でき、基本的なルールを遵守することができる。 ②実習に意欲的に取り組むことができる ③作業療法の業務を理解し、対象者に対してリスク管理を行うことができる ④作業療法評価の計画・準備を行うことができる ⑤対象児・者の観察・検査結果から、全体像をまとめることができる ⑥対象児・者の評価結果をもとに、作業療法計画の立案を行うことができる ⑦作業療法計画を臨床実習指導者の指導・援助のもとに体験・実施することができる ⑧必要な事項を選択肢、記録を行うことができる ⑨状況に応じて、指導者やスタッフに連絡・報告・相談ができる。				
授業形態	実習		対面		
関連科目	基礎科目全般	専門基礎科目全般		専門科目全般	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	実習前	
2回	①実習担当者と面談し、実習の実施方法を確認し、効果的な実習を実施できるように準備する。 ②各授業の指定教科書等・講義資料のポイント、臨床実習前講義で実施した内容は実習前に整理し、確認すること。 ③コミュニケーション技能、実技練習を入念に実施し、実習に備えること。	
3回	臨床実習	
4回	①臨床現場では作業療法分野だけでなく、多職種連携を常に思い浮かべて、広範囲の知識と技術を体系的に学んでいく。 ②臨床現場では積極的に様々なことを体験、見学するように努めること。 ③習得した知識は毎日書類（ポートフォリオ）として記録すること。	
5回	実習後	
6回	①実習中に学んだ点を整理し、発表の準備を行うこと。 ②必要に応じて実習担当者と面談し、実習の総括を実施すること。 ③実習の成果を書類にまとめ、提出すること。	
7回	1～2週目：施設の概要を知る、施設における作業療法の役割を知る、対象者との初回面接、対象者の観察・検査・評価	
8回	施設及び作業療法室についてのオリエンテーションを受け、対象児・者の観察、作業療法の使い方、道具などに触れる。対象児・者の協力を得て、検査・評価の実践を行う。必要な記録を残す。	
9回		
10回	3～4週目 治療計画立案・実施	
11回	臨床実習指導者の指導・援助の下で、評価結果から作業療法計画を立案する。必要な記録をその他の課題の遂行を行う。	
12回	5～6週目 作業療法実施・再評価	
13回	臨床実習指導者の指導の下で、対象児・者の協力を得て、治療の実践、観察、作業面接、治療計画の修正等を行う。一定期間後に再評価を行い、治療経過をまとめて考察する。記録およびその他の課題の遂行を行う。	
14回	7～8週目：再評価、治療経過のまとめおよび考察、今後の課題のまとめ・引継ぎ、実習終了の報告・フィードバック、事務手続き	
15回	臨床実習指導者のもとで、治療経過をまとめて考察する。ケーススタディの発表。記録その他の課題の遂行を行う。必要な記録を残す。	

成績評価	実習地評価、課題・提出物、OSCE、臨床思考過程をもとに総合的に判断する。
課題やレポートに関するフィードバック	実習後、学内にて発表・課題提出を行い、事後にフィードバックする。
使用教材教科書	学校指定ケーシー、白靴、実習にふさわしい身だしなみが必要。 施設によるが、通院時はスーツ着用。 学生評価表やデイリーノート、ケースノート、出欠表、必要時には各種報告書など実習書類を持参する。 臨床実習の手引き 学校資料
オフィスアワー	担任 作業療法学科教員